

エントリー内容 No1	
事業名称	一宮キッズタウンプロジェクト～みんなでつくろう子供のまち！！～
申請部門	人づくり部門
申請LOM	公益社団法人 一宮青年会議所
理事長名	森 大介
申請担当者	山岡 大介
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 53名 参加率 67.00% 関係者数 1名 一般参加数 100名
事業実施に至った背景	子供たちは、かつて地域の中の至る所を遊び場として活用し、その中から大人たちの暮らしを垣間見て、大人になるということはどういうことなのか、地域の中で暮らすとはどういうことなのかを自然と学んでいました。時代とともに子供の生活環境が変化し、生活空間はプライベート化された子供部屋となり、生活時間は多様な習いごとやインターネット・テレビなどに割かれる時間が増え、犯罪に対する不安や親の過干渉も相まって外遊びは抑制されている傾向にあります。そんな状況下において私たち地域の大人は、未来を担う子供たちにこのような時代を生き抜くための「生きる力」を養わなければなりません。そのためには、自分で考え、目的意識を持ち、自分で判断し、自分のことは自分でやる、このような子供たちを育むことが必要と考え、本事業を実施しました。
事業の目的	地域の大人として子供たちが自ら目的意識を持って行動する大切さ、重要性に気づき、その気づきと、青年会議所メンバーとして学んだことを地域に伝播するきっかけにします。地域の大人として、子供たちに自らの意思で行動し目的を達成する力を身に付けさせ、子供たちの「生きる力」を共育することで、地域の未来を創ります。
事業の概要	一宮キッズタウンプロジェクトは、子供たちが、自分たちで考え、自分たちでつくる町を運営する取り組みです。一宮キッズタウンプロジェクトには、TV局、観光局、写真館、カフェ、かき氷屋さんや、子供たちが自分たちで考えたお店まで、たくさんの職業があります。自分で考えて判断し、それらの職業や遊びを通じて目的を持ち、目的を達成していきます。職業体験自体は重要ではありません。自らの意思で行動し目的を達成する力を身に付けることが重要です。企画段階から子供たちにさまざまな意見を出してもらい、大人のサポートを得ながら自らの考えを実現するプロセスに参加します。仕組みを考え、実際に実行していきます。子供が子供らしいアイデアを考案し、友達に聞いてもらい受け入れられること、さらにアイデアと一緒に膨らませて、それを大人のサポートを受けながら実現する時の達成感、満足感。実際の社会で、子供たちがこのような創造的で目的意識を持った関わりを体感することはなかなかできませんが、一宮キッズタウンプロジェクトではそれが可能です。自分が目的意識を持って意見を言えること、意見を周囲に聞いてもらった経験も未来の社会を生き抜くための「生きる力」につながります。また、今回の事業を子供たちの夏休みの自由研究として取り扱ってもらい発信することにより、子供たちのそれぞれの地域に戻った際に各家庭や小学校にこの事業が伝播することによって未来を創ります。
開催期間 タイムスケジュール	2017年7月9日(日)、2017年8月19日(土)・20日(日)
開催場所	尾張一宮駅前ビル(i-ビル)2階シビックテラス・7階シビックホール、JR尾張一宮駅前広場

事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	<p>【収入】900,000円(登録料収入:250,000円、協賛金:50,000円、事業繰入金:600,000円)</p> <p>【支出】874,857円(会場設営費:591,463円、講師関係費:25,920円、広報費:136,350円、資料作成費:7,560円、参加記念品費:111,240円、保険料:2,000円、雑費324円)</p> <p>【工夫】限られた繰入金の中で事業を行うため、登録料、協賛金等の外部資金を調達して事業を行いました。</p> <p>・協賛金獲得については、チラシ等の宣伝的な価値と、CSRとして公益事業へ協賛することの企業利益を明確に打ち出し、協賛金営業を行いました。</p>
SDGs	4. 質の高い教育をみんなに
協力団体	<p>共催 協賛 特定非営利法人スポーツフォーラム愛知 後援 一宮市、一宮市教育委員会、株式会社アイ・シー・シー、中日新聞社 その他</p>
事業対象者	一宮市内の小学生(3年生～6年生)、公益社団法人一宮青年会議所会員
行動 (ACTION TAKEN)	<p>事業の調査:子供たちは大人たちの暮らしを垣間見て、大人になるということはどういうことなのか、地域の中で暮らすとはどういうことなのかを自然と学んでいました。時代とともに子供の生活環境が変化し、犯罪に対する不安や親の過干渉も相まって子供たちは抑制されている傾向にあります。そんな状況下において私たち地域の大人は、子供たちにこのような時代を生き抜くための「生きる力」を養わなければなりません。自分で考え、目的意識を持ち、自分で判断し、自分のことは自分でやる、このような子供たちを育むことが必要と感じ今回の事業を企画しました。</p> <p>会議の流れ:子供の「生きる力」を育むために、子供たちが目的意識を持って行動できるようになるためにはどのような事業が良いのかを模索する中で、今回の事業目的を達成するにはキャンプのような野外活動ではなく、地元一宮で青少年事業を行い、一宮市民に活動を認知していただき伝播していただくべきだと考えました。この一宮キッズタウンプロジェクトは他の団体が行っているような大人が用意したパッケージを行う職業体験事業や経済観念を理解してもらふ事業とは違い、それらを参照しつつも、自分たちで考えて目的意識を持って行動することに重きを置く内容に決定しました。</p> <p>会議の流れ、実施活動:全国各地で「ミニ・ミュンヘン」、その他類似の活動を行っている他団体事業に積極的に参加して意見を交換し、会内で検討を重ね、一宮青年会議所として独自のパッケージ(一宮キッズタウン)を確立し、実施しました。</p>
結果 (RESULT)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加した子供たちには成功体験を通して自らの意思で行動し目的を達成する力を身に付けてもらうことができました。メンバーは地域の大人として子供たちが自ら目的意識を持って行動する大切さ、重要性に気づき、それを地域に伝播するきっかけにすることができました。 2. 青年会議所の活動を地域に伝播するために夏休みの自由研究で発表してもらおうという手法を取りましたが、発表した子供は23%という結果となりました。原因として自由研究を行わない学校が事前調査より多かったこと、事業の日程が今回の自由研究に間に合わなかったことが挙げられました。 3. 事業後のアンケートにより検証しました。 4. 例会後のアンケートの結果、本事業が目指す「生きる力」をひとつでも身に付けた子供の数は全体の90%以上となり、事業目的は達成されたと考えます。

地域社会への影響	<p>全3回の事業を通して、子供たちは自分たちで目的意識を持って考えて行動することができるようになりました。地域の未来を担う子供たちが「生きる力」を身につけたこと、子供たちが学びを地域に伝播していくことは地域の未来に繋がります。また、事業後に保護者の方からは、本事業を評価する声をいただきました。また、一宮青年会議所を知らずに参加いただいた方も多数いらっしゃいました。こうした事業を継続的に行うことでJC活動を地域の皆様に認識、理解していただくことができ、さらなる地域貢献が可能になると思いました。</p>
LOMへの影響	<p>メンバーには子供を見守ることは、ただ外から子供を見ているだけではなく、どう接すれば子供たちが自分たちで目的意識を持って行動できるようになるかを考えてもらうことだと気付いてもらうことができ、子供たちが目的意識を持ち、自ら行動することが重要だと気付いてもらうことができました。この気付きは、今後のLOMの青少年事業に生かされることになりまし、また、気付きを家庭に持ち帰ってもらうことで、地域にも影響を生じさせることになると考えます。</p>
事業の長期的な影響	<p>本事業で、子供たちは、自分たちで目的意識を持って考えて行動する力を身につけました。地域の未来を担う子供たちが「生きる力」を身につけたこと、子供たちが学びを地域に伝播していくことは地域の未来に繋がります。また、今回の事業で初めて一宮JCを知っていただいた一般参加者の方も沢山いらっしゃいましたので、本事業はJCの活動を知っていただくきっかけになったと思います。今後もこれらの活動を継続していくことで、活動が地域へ伝播していくと考えます。</p>
考察や推奨	<p>本事業で、参加した子供たちには、成功体験を通して自らの意思で行動し目的を達成する力を身に付けてもらうことができました。また、メンバーは、地域の大人として子供たちが自ら目的意識を持って行動する大切さの重要性に気づき、その気付きを地域に伝播するきっかけを得ることができました。</p> <p>今後は、本事業の成果をパッケージ化して展開する等より広く伝播していくことで、「親が子供と共に学ぶことの重要性」を地域に伝え、子供たちの「生きる力」が育んでいくことができると考えます。</p>
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のキッズタウンは子供たちが自分たちで何もかも考えて運営してもらうコンセプトでしたが、逆に自由度を上げ過ぎた結果、運営が困難になり、逆に子供たちの自由度が制限されてしまう場面がありました。次回開催する場合には子供たちには運営上どこまで自由度を持ってもらうか、保護者を含め、今後大人がプロジェクトを発展させるためにはどこまで関わっていくのかを検討する必要があると考えます。 ・本事業の成果を活動を地域に伝播するために、夏休みの自由研究で発表してもらうという手法を取りましたが、自由研究を行わない学校が多かったこと、事業の日程が自由研究に間に合わなかった等、課題が残りました。今回の結果を踏まえ、自由研究以外にも学校や地域を巻き込んだ別の伝播の方法を検討する必要があると考えます。
JCI行動計画の推進	<p>影響力：子供たちは自分たちで目的意識を持って考えて行動することができるようになりました。地域の未来を担う子供たちが「生きる力」を身につけたこと、子供たちが学びを地域に伝播していくことで、地域に大きな影響を及ぼすことができると考えます。</p> <p>意欲：現代社会の親と子の関わり方が問題視される中で、子供だけが「生きる力」を学ぶのではなく、親も共に「生きる力」を育むための接し方、導き方を学び、「共育」を学ぶ機会を作り出したことは、上記の課題を改善していく可能性があると考えます。</p>

JCI VISIONの推進	<p>今回の参加者はすべて小学生を子どもにもつ親子であった。現代社会では、親は子供に対して過保護になる傾向があり、よかれと思う親心が子供の考える力を奪うという皮肉な結果を生んでいる。今回の事業は、子供だけが「生きる力」を学ぶのではなく、親も共に「生きる力」を育むための接し方、導き方を学び、「共育」を学ぶ機会のきっかけを作り出した。本事業で気付きを得た大人は、子供の共育を担うネットワークの起点となり得ると考える。</p> <p>また、そのネットワークの形成を、青年会議所メンバーが主導し発生源となって行ったことで、JCが地域社会における先進的な取り組みの拡大を担ったことになり、ネットワークを広げる中心になったと考える。</p>
JCI MISSIONの推進	<p>今回の参加者はすべて小学生を子どもにもつ親子であった。現代社会では、親は子供に対して過保護になる傾向があり、よかれと思う親心が子供の考える力を奪うという皮肉な結果を生んでいる。今回の事業は、子供だけが自らの意思で行動し目的を達成する力、「生きる力」を学ぶのではなく、親も共に「生きる力」を育むための接し方、導き方を学び、「共育」を学ぶ機会のきっかけを作り出した。これによって親たちの教育に関する意識を変革させたと考える。</p>
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	特になし。
添付資料	添付資料1 添付資料2 添付資料3

エントリー内容 No2	
事業名称	ミライメイクキャンプ ～キミは未来力 あるorない?～
申請部門	人づくり部門
申請LOM	一般社団法人 江南青年会議所
理事長名	森 誠治
申請担当者	横山 史明
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 35名 参加率 72.50% 関係者数 2名 一般参加数 60名
事業実施に至った背景	近年、家庭以外で大人と子供のつながりや両者が接する機会が減少し、子供が身をもって教わる事や大人から何かを伝えられるという経験が少なくなりつつあります。色々な物事に対する考え方や生活速度が常に変化していく今日だからこそ、改めて大人と子供が互いに関わり、そして協力し合う機会を持ち、それによって子供達に生き生きと未来を拓いていくための力を身に付けていただく必要があると考えます。
事業の目的	<p>1. 小学生の子供達が家庭を越えて大人とふれあいつつ協働し何かを教わるという経験をする事で、将来の問題にも前向きに取り組み、生き生きと自身の未来を切り拓いていく事が出来るという自信を醸成していただく事を目的とします。</p> <p>2. さまざまな年代の方々と協働する機会をもつ事で感じ方の違いを越え、共に目標を達成するという経験をしていただくことを目的とします。また、今後の職場、地域において自分と異なる年代の方たちと接する際に活かしていただくことの出来る機会を提供する事を目的とします。</p>
事業の概要	<p>審議通過前:委員会メンバーと共に大阪まで出向き、モデルロケットイベントに参加することで安全性と事業としての価値を高めるためのアイデアについて学びました。</p> <p>審議通過後:市内小学校にてチラシを配布して頂き募集を募る。専用ホームページ上にて動画説明会を開催することで、保護者の安心感を高めました。</p> <p>事業当日 :ユーストリームを用いてライブ配信を行うことで、初めて外泊する子供の保護者にも安心して預けていた抱けるよう工夫しました。</p> <p>事業後 :帰宅してからもユーストリームの録画動画を家族と共に視聴していただくことで、家族間のコミュニケーションを創り出し、子供たちがした体験を更に大きな財産としていただくことが出来ました。</p>
開催期間 タイムスケジュール	2017年9月2日～3日
開催場所	八曾の里キャンプ場
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業

事業総予算・収支	登録料収入 314,000円 事業繰入金収入 650,000円 予算合計 964,000円 支出合計 926,894円 収支差額 37,106円
SDGs	4. 質の高い教育をみんなに 17. パートナーシップで目標を達成しよう
協力団体	共催 協賛 後援 江南市、江南市教育委員会 その他
事業対象者	小学1年生～小学6年生
行動 (ACTION TAKEN)	① 子供の実態について市内小学校長より聞き取り調査 ② モデルロケットイベントへ参加 ③ 委員会メンバーにてモデルロケット発射実験を実施 ④ 事業を開催
結果 (RESULT)	1～2. 目的の達成について ① 小学生の子供達が、大人とふれあい、協働するという点について ・ 各チームの大人と協働しなければ達成することが難しい全てのプログラムを通してアンケート結果の1)～6)のような回答をいただくことが出来ましたので本目的は達成されたと考えます。 ② 小学生の子供達が、他者から何かを教わるという経験をすることについて ・ 「箱作りゲーム」、「食事作り」、「モデルロケットづくり」というこれまで経験することがなく、また決して一人では行うことが出来ないプログラムでしたが、全員が箱も食事もモデルロケットも作ることが出来たのは、周りの子から教わるという経験を積むことが出来たからであると考えます。またアンケートの1)～6)にある「協力することや助け合うことは大切、または楽しいですか」という点について、85%以上の「はい」という回答をいただくことが出来ましたので、本目的は達成されたと考えます。 ③ 小学生の子供達が、問題点にも前向きに取り組むという点について ・ アンケート結果9)では、有効回答49名のうち38名の子より「うまくいかない子がいたときには教え合い助け合って、もう一回やり直せばいいということを感じることができた」と回答していただくことが出来ました。これはプログラムの途中、問題点に前向きに取り組むことが出来たから、またはそのような成功体験をすることが出来たからであると考えられます。よって本目的は達成されたと考えます。 ④ 小学生の子供達が、生き生きと自身の未来を切り拓いていくことが出来るという自信を醸成する点について ・ アンケート結果「参加して感じたことを書きましょう」より、子供達には何事にもポジティブチェンジしていくきっかけとなる体験を積んでいただくことが出来たと考えます。従って本目的は達成されたと考えます。

地域社会への影響	60名の募集に対して募集開始から5時間程度で定員に達し、そのうえで120件を超える申し込みページへのアクセスがありました。これは多くの方々为本事業に関心をお寄せいただいたことであり、これによって当青年会議所の展開する事業に対して賛同者を得られたことにつながっていると考えます。地域社会における運動の展開と言う点で当青年会議所のブランド力を高めることが出来たと考えます。
LOMへの影響	<p>① さまざまな年代の方々と協働する機会をもつことで感じ方の違いを越えるという点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生だけでなく大学生とも協働する中で、自身のあたり前の感覚や言葉が伝わりにくいという経験をしていただくことが出来ました。しかし、結果として全てのプログラムにおいて目標を達成していただくことが出来ましたので本目的は達成されたと考えます。 <p>② 共に目標を達成するという経験をさせていただくという点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのチーム、全ての子供達が「箱作り」の目標数12個を達成し、また食事もあることが出来、モデルロケットも発射させることが出来ましたので、本目的は達成されたと考えます。 <p>③ 今後の職場、地域において自分と異なる年代の方たちと接する際に活かしていただければという点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わり方も感じ方も異なる小学生の子供達と2日間に渡って協働作業と共同生活を送るという経験をさせていただく中で、各チームのメンバーによるそれぞれの接し方や進め方を感じていただくことが出来たと考えますので、本目的は達成されたと考えます。
事業の長期的な影響	子供達同士で助け合ってくれたことも、時に子供達が大人の手を存分に貸してもらったということも、未来を生き生きと切り拓き生きていくために絶対にしておかなければならない体験であると考えます。そうであるからこそ不備があった時にも大人の知恵をもって難なく解決し、またモデルロケットづくりが難し過ぎたために大人の手がかなり入ったということも、参加していただいた子供達にとっては全て必要な体験であり、彼らの未来力につながっていくのだと確信しています。この江南市にそのような想いを持った若者が育っていく一助となれたこと、また保護者の方々にそのような考えに触れ、賛同していただき、新しい学びを得るための一助となれたことは、私たちが今後も発信していく運動と江南青年会議所そのもののブランディングにもつながっていくのだと期待せずにはいられません。
考察や推奨	特になし。
改善点	特になし。
JCI行動計画の推進	特になし。
JCI VISIONの推進	青少年世代と協力者として参加していただいた大学生たちが、事業の中で直面した困難を共に乗り越えていくという体験をしていただいたことで、より一層の前向きな変革を起こしていただくことへの一助になったと考えます。
JCI MISSIONの推進	足りない材料や道具、そして足りない食材に対して周囲のチームやメンバーに協力を仰ぐという体験をすることで、能動的な市民へと進化して頂くための一助になったと考えます。
JCI申請の意思確認	検討していない

その他	特になし。
添付資料	特になし。

エントリー内容 No3	
事業名称	子どもお仕事百貨店
申請部門	人づくり部門
申請LOM	常滑青年会議所
理事長名	権田 浩輔
申請担当者	小林 剛
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 20名 参加率 69.00% 関係者数 98名 一般参加数 940名
事業実施に至った背景	物質的な豊かさや情報が溢れる現代の生活の中で、自ら考え行動できない青少年たちは困難を乗り越えられず、精神的不安を抱えたまま大人になる傾向となっている。青少年たちが地域の発展を担う大人になるためには、自分の人生を考える年代に、社会に出て行く希望をもたせて、主体的に動き出せるよう成長しなければならないと考え実施に至った。
事業の目的	青少年たちが感動し、心に火がつく経験をすることや、憧れる大人と出会い意識変革を起こすため、社会で求められる意識や行動を実践的に伝えることで、社会への期待や希望を抱き、夢や目標をもち、青少年たちが「なりたい自分」や「自分の可能性」に気づき、主体的に行動できる青少年に成長するため。
事業の概要	「子どもお仕事百貨店」と題し、小学生・高校生を募集し、パン屋、花屋、カフェ、タイル屋、駄菓子屋、縁日等の模擬店を高校生が店長となり経営していただく。JCメンバーには社長となって頂き、指導、管理をし、アドバイザーとなっていただく。 一般参加者には、模擬通貨が進呈され、模擬店にて購入でき、地域の企業、団体に協力していただき、様々な職種の仕事体験ができる。 また、子ども仕事塾と題し、青年経済人であるJCメンバーが、「仕事の楽しさ」「なぜ大人になったら仕事をするのか?」「社長の仕事とは?」等をテーマに講演していただく。
開催期間 タイムスケジュール	2017年7月15日(土)9:00～17:00 7月16日(日)7:30～18:30
開催場所	常滑市立常滑西小学校
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	収入730,000円(事業収入550,000円 常滑市まちづくり助成金100,000円 特定会費収入80,000円) 支出632,862円
SDGs	特になし。

協力団体	<p>共催</p> <p>協賛</p> <p>後援 常滑市・常滑市教育委員会 常滑商工会議所 中日新聞社 知多半島ケーブルネットワーク株式会社</p> <p>その他 常滑市民病院 常滑警察 自衛隊愛知地方協力本部 株式会社藤井組合資会社誠進社 山芳電気 知多半島ケーブルネットワーク株式会社 太産自動車株式会社 社会福祉法人知多学園 株式会社ビーメック ネイルサロン環</p>
事業対象者	常滑市民
行動 (ACTION TAKEN)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内高校、小学校へ高校生20名小学生60名のお仕事体験スタッフの募集チラシ、ポスター配布及びPR活動 ・地域企業、団体へ職業体験ブースの協力お願い、打ち合わせ ・参加者抽選 ・一般参加者向けのチラシ配布 ・お仕事体験スタッフへの事前説明会 ・記録DVD作成 ・記録DVD配布
結果 (RESULT)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生4名、小学生61名、出店協力団体・事業者33名、一般940名の参加を頂きました。 ・参加いただいた高校生には実践的な仕事を体験しながら、自身の将来や仕事観について考えてもらうことができました。また普段関われない大人から様々な声を聞くことで、進路について改めて向き合うきっかけとなりました。 ・青少年たちが自分たちの力で店を作り、お客さんを集め、販売する体験を通して、働く喜びや感動を体験してもらうことができました。 ・子ども仕事塾を通して大人たちが働く意義や社会で求められる意識を伝えることができました。そして青少年たちの将来の夢や目標について具体的に考えてもらうきっかけとなりました。 ・想定人数以上の一般参加の来場者数で、お客様として参加していただいた子どもたちに十分な体験をさせてあげられませんでした。十分な人数を想定して、より多くの企業や団体への協力要請や各体験の内容を考えることで改善できたと思います。
地域社会への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・親御さんから、子供が将来に対して、仕事に対して主体的に考えるようになったと感謝された。 ・毎年常滑JCが行う青少年育成事業を子供が楽しみにしているというお言葉を頂いた。
LOMへの影響	<ul style="list-style-type: none"> ・例年50人程度の青少年に対して事業を打ってきたが、今回、青少年にスタッフとなっていていただき、さらに一般参加者を集めるという手法を使い、多くの方に参加していただけたことで、今後、企画内容や、広報の仕方や、印刷物の表現方法などについて成功例として実績を残すことができました。 ・メンバー同士も社長となり、切磋琢磨し、子どもたちへ経営がうまくいくよう伝えることで、伝えることの難しさ、考えさせることの難しさを知りました。 ・多種多様な職場体験ブースの協力をお願いしたことで、メンバー自身も色々な職について学ぶことができました。 ・仕事塾にて、メンバーの仕事に対する考え方や、気持ち、今後の目標、普段の業務等、改めて認識することができました。

事業の長期的な影響	<p>今回体験した感動や学びを一過性で終わらせないように、メッセージカードや写真をもとに、DVDを作成して配布したことで、働くことへの喜びや感動を思い出していただき、将来の夢に一步近づいていただけたと思います。</p> <p>・地域に根付いた企業や団体の職場体験をしていただいたことで、興味をもった子供たちは地域への愛郷心が生まれ、地域の発展を担う大人になって頂けると思います。</p>
考察や推奨	<p>本例会を機に進路にいかしてもらいたかった高校生の応募が極端に少なかった。高校生の視点に合わせた募集の仕方や時期、参加条件などを考慮すればよかったと考えます。</p> <p>しかしながら、子どもたちや親御様、協力いただいた企業や団体の皆様にも継続してほしい事業だという意見をいただきました。JCメンバーだけでなく、OBや地域の人々も協同で未来を担う青少年のためになる取り組みを今後ともしていかなければならないと改めて考えるきっかけとなりました。</p>
改善点	特になし。
JCI行動計画の推進	特になし。
JCI VISIONの推進	特になし。
JCI MISSIONの推進	特になし。
JCI申請の意思確認	特になし。
その他	特になし。
添付資料	添付資料1

エントリー内容 No4	
事業名称	OVER65運動
申請部門	人づくり部門
申請LOM	一般社団法人 豊田青年会議所
理事長名	山田 洋介
申請担当者	梅村 洋平
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 104名 参加率 85.00% 関係者数 35名 一般参加数 470名
事業実施に至った背景	豊田市はトヨタ自動車を筆頭にもものづくりの拠点として発展してきました。ものづくりに安定した雇用は欠かすことができず、中小企業の多くは終身雇用を励行しています。しかし、定年退職後は、熟練の技や貴重な知識を持った人も一般的な高齢者としてしか見なされず、積極的に高齢者を雇用することはありません。まだまだ、労働力としても足り、若者の指導育成に期待もできる高齢者の活躍の場の創出をする必要があります。
事業の目的	OVER65運動が社会全体に広がることで、高齢者に限らず、年齢、人種、信条、性別、社会的身分に関わりなく、社会内で役割をもって個々がいきいきと活躍できる、楽しい社会を創出すること。
事業の概要	OVER65運動は、高齢者の活躍を推進し、高齢者向け商品・サービスを提供する企業、各種団体、個人等(以下『企業等』と言います。)を認定し、高齢者の活躍の場が身近にあることをシンボルマークや広報活動を通じて目に見えるようにする運動です。 まず、高齢者の活躍を推進している、高齢者の選択肢を多様化する商品・サービスを提供している企業等をOVER65運動推進団体と認定します。次に認定された企業等が増えていき、多くの人の目に触れるようになることで、社会内で高齢者が活躍していることが認知されていきます。 さらに、社会内で高齢者が活躍していることが広く認知されれば、高齢者、高齢化に対するイメージが改善します。そして、高齢者、高齢化に対するイメージが改善することにより高齢者の活躍の場はさらに広がっていきます。こうして、高齢者、高齢化に対するイメージ改善と、高齢者の活躍の場の広がりという循環が生まれるのです。
開催期間 タイムスケジュール	2017年3月15日～2017年12月31日
開催場所	豊田産業文化センター、豊田スタジアム、各OVER65運動推進団体内
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業

事業総予算・収支	<p>予算—550,000円 資料作成費:48%、 企画演出費:28% 講師関係費:18%、 会場設営費:6% 会場費や講師関係費を抑え、認知されやすいシンボルマークの作成費に 予算を割いた。</p>
SDGs	<p>3. すべての人に健康と福祉を 8. 働きがいも経済成長も 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを</p>
協力団体	<p>共催 協賛 後援 その他 豊田市シルバー人材センター</p>
事業対象者	<p>民間企業、個人事業主、社会福祉法人</p>
行動 (ACTION TAKEN)	<p>豊田市の高齢化率は18%、全国平均値よりも10%ほど低い数字ではあるが、高齢者の社会での活躍の場は少ない。また、企業も高齢者の積極的な採用を行っていない。</p> <p>高齢者の活躍の場の創出をOVER65運動と名付け、例会にてOVER65運動の重要性を説明し、高齢者が活躍するためのポイントを合同会社P-BEANS 代表社員 坂元玲介氏、株式会社三州足助公社 部長 岡村達司氏をアドバイスいただいた。</p> <p>例会後、OVER65運動推進団体として、メンバーの会社の20社、また、豊田市シルバー人材センターからの紹介で14社を認定した。各企業が事業活動や広報活動の中でOVER65運動を提唱し、高齢者の新たな活躍の機会を創出した。</p>
結果 (RESULT)	<p>1. OVER65運動の重要性を理解できた。 OVER65運動推進団体の認定目標を30社のところ、34社認定に至った。</p> <p>2. シルバー人材センターがOVER65運動の提唱を積極的に行い派遣企業先に 良いイメージが定着した。</p> <p>3. OVER65ステッカーの配布数 27社(内14社認定)</p> <p>4. OVER65運動により、シルバー人材が活躍する場が増え、登録団体はステッカーが視覚効果につながり、積極的なシルバー人材の雇用を推進している。</p> <p>OVER65運動の広がりとともに、高齢者に限らず、年齢、人種、信条、性別、社会的身分に関わりなく、社会内で新しい役割をもった個々が活躍している。</p>

地域社会への影響	<p>登録団体が掲げたステッカーを見た市民が、OVER65運動を知り、高齢者の活躍の場が身近に存在することを理解し、高齢者・高齢化に対するイメージを大きく改善していった。</p> <p>また、行政主導による働き方改革推進シンポジウム内ではOVER65活躍事業所に対して優秀事業所への表彰制度を実施し、行政もOVER65運動の効果を評している。今後、様々な業態やサービスでOVER65運動の拡げていく。</p>
LOMへの影響	<p>認定企業を増やすとともに、高齢者ができること、高齢者に向けたサービスや商品づくりにも積極的にトライする様子が見られ、まさにJCメンバーから運動の拡がりを見せている。高齢者の活躍を間近に見ることにより、メンバー一人ひとりも高齢者の活躍の場を作りだすことができると確信できたことがLOMの自信につながった。</p>
事業の長期的な影響	<p>社会内で高齢者が活躍していることが広く認知されれば、高齢者、高齢化に対するイメージが改善し、高齢者の活躍の場はさらに広がっていき、高齢者、高齢化に対するイメージ改善と、高齢者の活躍の場の広がりという循環が生まれる。</p> <p>退職後も、元気なうちは豊田市内どこでも活躍の場があると認識できれば、個々のモチベーションとなり、元気なOVER65のあふれるまちとなる。</p> <p>さらには、この運動が社会全体に広がることで、高齢者に限らず、年齢、人種、信条、性別、社会的身分に関わりなく、社会内で役割をもって活躍できる、楽しい社会の創出につながっていく。</p>
考察や推奨	<p>OVER65運動は市民、行政、企業に受け入れられやすく、ともにメリットが多いことから、今後、様々な業態やサービスでOVER65運動の拡がり期待されている。行政の表彰制度を継続化するとともに、認定前の企業への説明会や、認定企業同士の情報の共有の場を設けていく予定である。</p> <p>また、『広報とよた』という市民向けの機関誌に、毎号、認定企業と活躍している高齢者の掲載ページを作成依頼している。</p>
改善点	<p>OVER65運動推進団体の登録数の拡大と、広報活動を通じた一般市民への認知度向上がさらに必要である。そのためには、製造業やサービス業に対して労働力を提供するだけでなく、高齢者向けの食事を用意しているだとか、OVER65向けのサービスを提供する認定企業を増やしていきたい。</p>
JCI行動計画の推進	<p>インパクト 高齢者の活躍が広がることにより、超高齢化社会であっても地域社会が活力を失わず持続可能な発展を続けるというインパクトを与えた。</p> <p>モチベイト 高齢者を社会的弱者と考えるのではなく、知識、経験、能力を持った社会資源と捉えることにより、市民の意識変化を促進する環境を提供した。</p> <p>コラボレート OVER65運動の広報活動、表彰事業を行政と連携して行うことにより、超高齢化社会の問題をともに解決するパートナーとして力を合わせ、相互にインパクトを拡大した。</p>

JCI VISIONの推進	OVER65運動推進団体に認定された企業等を管理し、広報活動を行うことにより、JCIビジョンを推進した。
JCI MISSIONの推進	青年が高齢者の活躍している企業等を積極的に見つけ出すという能動的な機会を提供し、JCIミッションを推進した。 上記により認定された企業等を管理し、広報活動を行うことにより、JCIビジョンを推進した。
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	特になし。
添付資料	添付資料1

エントリー内容 No5	
事業名称	「CHOICE～今のあなたの選択がすべてを決める～」 + 「20→18プロジェクト」
申請部門	人づくり部門
申請LOM	公益社団法人 豊橋青年会議所
理事長名	神谷 東樹
申請担当者	原田 直輝
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 91名 参加率 83.49% 関係者数 18名 一般参加数 204名
事業実施に至った背景	私たちは日々の生活の中で、常に選択することを強いられています。まち、国のあり方を最終的に選択し、決定する権利への関心が低いと懸念される現状がありますが、有権者になる前の教育において、選択することへの根拠を示す政治教育を避けられてきた経緯があります。しかし、有権者という立場になった時には、自ら考え、自ら判断し、意思決定することが求められてきます。まち、国を創るという意識の基、主体的に行動できる社会形成者育成のために、主権者教育を問い、更なる充実を図っていく必要があると考え本事業を企画致しました。
事業の目的	自らの選択を見つめ直す機会を提供し、物事に対する価値観の視野を広げていただきます。そして、選択することの重要性を問いかけることで、主権者意識の根幹にある想いを認識していただきます。又、未来を見据えた問題を定義し、物事を見極める見方、考え方を身につけていただくことで、社会参画意識、主権者意識を醸成していただくことを目的とします。さらに、教育現場にとって必要な主権者教育を明確にし、教育に必要な新たな主権者教育プログラムを提唱し、具体的な社会問題を扱う新たな主権者教育プログラムを実施することを目的とします。
事業の概要	「20→18(ニッパチ)プロジェクト」と題し、本事業に参加する大学生とともに主権者教育実践プロジェクトを始動し、大学生自らが構築する主権者教育プログラムを、高校生に対して実施します。 1. 3月例会「CHOICE～今のあなたの選択がすべてを決める～」開催 講師とともに大学生も壇上に登壇し、互いに議論し、言葉を交わしながら進行していく展開です。選択をキーワードに、何を見据え生きていくべきなのかという視点、私たちの社会との関わり方、問題を定義することに焦点をあて、議論します。 2. 「20→18(ニッパチ)プロジェクト」DAY1、DAY2、DAY3開催 具体的な社会問題を扱う新たな主権者教育プログラムを立案し、そのプログラムを青年会議所だけで開発するのではなく、大学生とともに考案し構築します。今回、授業では「成年年齢引き下げ」という題材を扱います。 3. 高等教育の現場にて、主権者教育授業実践 高等教育の通常授業時間帯の一コマに赴き、「成年年齢引き下げ」という題材を、大学生が高校生に対して教鞭を執ります。
開催期間 タイムスケジュール	2018年3月28日～2018年7月9日
開催場所	穂の国とよはし芸術劇場PLATアートスペース、コワーキングスペーストリアルビレッジ、学校法人桜丘学園桜丘高等学校

事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	事業繰入金 830,000円 内訳 会場設営費 95,060円 講師関係費 514,492円 広報費 210,600円 資料作成費 1,101円 通信費 864円 雑費 1,566円 予備費 5,707円 予算 830,000円 支出 830,000円 収支差額 0円
SDGs	4. 質の高い教育をみんなに 11. 住み続けられるまちづくりを
協力団体	共催 なし 協賛 なし 後援 豊橋市教育委員会、朝日新聞社、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、東愛知新聞社、東海日日新聞社、ティーズ、エフエム豊橋 その他 協力: 愛知大学地域政策学部、愛知大学広報課、学校法人桜丘学園桜丘高等学校
事業対象者	大学生を始めとしたこれからの社会を担う若者世代
行動 (ACTION TAKEN)	社会参画意識、政治参画意識の低迷、欠如という現状に対して、まちの教育現場では、どのような主権者教育がされているのかを高等教育の現場に赴き調査し、事業が向かうべき方向性を明確に打ち出しました。 主体的に行動すべき理由を問うこと、問題を定義する視点を持つこと、地域の大学生が地域の高校生に対して教鞭を執れる環境を創ること、授業内容は具体的な社会問題を扱うこと、授業内容は大学生自らが構築することを掲げ、事業立案し、4ヶ月会議を重ねました。3月から7月まで、大学生とともに、例会・事業を重ね、主権者教育の授業プログラムを構築し、7月9日、高等教育の通常授業に赴き、大学生自らが構築した主権者教育プログラムの授業を実施しました。

<p>結果 (RESULT)</p>	<p>主権者教育を受ける高校生に近い世代が、主権者教育を問うことで、高校生に対して強い説得力が生まれました。授業実施後のアンケート結果では、高校生全員が満足を得たという極めて大きな効果がありました。また、高校生、大学生、教育者へのアンケートやヒアリングの結果、今回のプロジェクトに関して、関わってくださった全ての方々から、事業の継続を願う声が上がったことは、想定外の良い結果でした。大学生の視点や感覚、同世代だからこそ伝えられる特別な共感力は、今回の事業の核となる部分であり、高校生に対して十分な波及効果が達成されました。そして何より、授業内容に具体的な社会問題を選択したことで、高校生は新たな学びを深め、社会参画、政治参画への重要性を認識し、社会参画意識、主権者意識の醸成に寄与しました。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<p>本事業は、教育に関わる教諭から大きな注目を集めました。今回、授業開催校を一校に絞りましたが、授業開催可否を打診する段階では、アプローチした学校全てから、「是非お願いします」というお声をいただきました。それほど注目度が高く、また学校側でも「主権者教育で何をしたらいいのか」と模索している証左でもあります。「素晴らしい。高校教諭では出来ない授業内容です。」というお声もいただきました。今後、様々な学校で展開できる仕組みを構築することで、より多くの人に波及していくと考えます。提唱した主権者教育プログラムの授業が、地域に広まることで、若者の社会参画意識、政治参画意識の醸成に繋がり、主権者教育の可能性が広がり続けると考えます。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>本事業が掲げたビジョンは、新しい試みとなり、全会員から注目度も高く例会や事業の参加率は本年度最高位の出席率となっております。会員から、構築した事業に対して「面白そう」と思われることは、非常に重要です。まちを創る、まちを動かすという意識のもと活動している青年会議所活動においては、まず会員が何より事業を熱心に、楽しく構築すべきだと考えます。全会員より回収したアンケート結果には、「凄かったでは収まらない素晴らしい内容。人生を通して価値のある時間でした。」という声もあり、会員の志を触発し、他委員会の事業構築の参考となり、議案精度の高みを目指す意識醸成に寄与いたしました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>全国を見渡しても類を見ない本事業の試みは、大学生自らが主権者教育の授業内容を構築し、実際に高校生に対して教鞭を執ることに本質があります。この主権者教育プロジェクトがプログラムとなり、教育の現場で、通常カリキュラムとして広まり、根付いていくことで、自ら考え、自ら判断し選択できる社会形成者の育成が継続していきます。それにより、主体的に社会参画、政治参画が出来る若者が増えていくことが期待できます。社会参画意識や主権者意識の高い人財が増え続けることは、社会形成の一つの希望となり、明るい豊かな社会に繋がるものと確信いたします。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>授業を実施した高校の教諭、生徒から、また活動に参加した大学生からも「様々な高校でもこのような教育の場を設けるべき」というお声をいただきました。本事業が明確に打ち出した主権者教育の具体的な方向性は様々な立場の方から共感を得ました。今後、より多くの方が活用できるようにする為に、本事業の考え方やプロセスを、どこでも出来る運動として推進します。そして、授業を教える人、授業を教わる人が繋がりやすい仕組みを整えてこそ、この主権者教育プロジェクトをモデルケースからパッケージへ移行できると考えます。本事業の主権者教育の新たな可能性を持ったモデルケースは、持続可能な運動だと断言できます。</p>
<p>改善点</p>	<p>特になし。</p>

JCI行動計画の推進	<p>本事業の取組で特質すべき点は、主権者教育の授業プログラムを青年会議所会員だけで開発するのではなく、地域の大学生とともに考案、構築し、同じく市内にある高等学校で実施するという事です。授業内容にて、具体的な社会問題を扱うことで切実性が生まれ、主権者意識の醸成に繋がります。大学生が高校生に与える影響力は多大であり、若者の社会参画、政治参画という要素は、地域社会にとっては重要な資源です。若者の行動が変われば、地域や組織も変わります。その地盤ができ、地域に根付くことで、より良い変化を促進する環境が継続していきます。次世代の能動的な市民の育成に繋がります。</p>
JCI VISIONの推進	<p>先導的機関としての青年会議所の行動や役割を問い、具体的な政治的社会問題の良し悪しや、政策の良し悪しを問うのではなく、主権者として「なぜそう考えるのか」という視点と「どうすべきか」という考え方に向き合うことで、本事業を進めてまいりました。そして、主権者教育の先導的役割を担うべく、教育という現場において嫌厭されがちな具体的な社会問題を選びました。さらに、大学生が主体性を持って活動できるように、意識醸成の機会を複数提供し、活動を全面的に支援し、教育が実践できる環境を整えました。</p>
JCI MISSIONの推進	<p>積極的な改革を創造し開拓するために、本事業は、主権者意識欠如の問題を根本的に見直しました。まず「解くべき問題を定義する」ことが重要であり、解決策や原因究明でなく、目的は何かを考えると同時に、目的自体を疑える力が必要だと考えます。その視点を学び、大学生は嫌厭される具体的な社会問題について向き合いました。そして、参加した大学生が能動的に活動出来る機会を提供するために、複数の講師に同テーマに関わっていただき、青年会議所会員と直接議論する機会を提供しました。大学生は、常に新しい学びを得、自身の感性を更に昇華させたと考えます。大学生自らが構築した主権者教育プログラムは、唯一無二の内容となっております。</p>
JCI申請の意思確認	検討している
その他	特になし。
添付資料	添付資料1 添付資料2

エントリー内容 No6	
事業名称	一般社団法人岡崎青年会議所 2017年度11月例会「岡崎泰平の祈り」
申請部門	逞しい愛知創造部門
申請LOM	一般社団法人 岡崎青年会議所
理事長名	竹内博剛
申請担当者	市田 侑希
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 59名 参加率 71.08% 関係者数 140名 一般参加数 28000名
事業実施に至った背景	<p>一般社団法人岡崎青年会議所は、2015年度より新たに新5カ年ビジョン書が策定されました。その大テーマの一つが『秋冬のイベント』開催です。岡崎市には春には桜まつり、夏は花火大会と全国的にも知名度の高いイベントが開催され、秋冬のイベントとしては市外から多くの観光客を呼び込む企画がありませんでした。そこで一般社団法人岡崎青年会議所は、岡崎市中心部を流れる乙川に約30,000個のLEDボールを流す「岡崎泰平の祈り」を2016年度より、岡崎市と協働して開催する運びとなりました。そのイベントを絶やすことなく継続することで市内外に認知される大規模イベントへと昇華するため、2017年度は同イベントの開催と共に、継続するための民間からの資金調達の足がかりを作る必要があります。</p>
事業の目的	<p>対外目的: 大規模なイベントを開催することで地元住民には地域への愛着を深めていただき、市外在住者には岡崎の魅力を知る機会を作ります。 対内目的: 来場者へ感動や喜びを与え、自らも事業を楽しみメンバー一丸となって大規模なイベントを作り上げることで、一般社団法人岡崎青年会議所メンバーであることに誇りを持っていただき、更には地元住民として地域への愛着を深めていただくことを目的とします。</p>

2015年12月26日の家康公生誕日に、泰平の世を築いた家康公顕彰400年を記念して、乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会・岡崎市が社会実験として行った『岡崎泰平の祈り』。乙川に約30,000個のLED ボール「いのり星®」が放流され、多くの人に感動を届けました。そして2016年9月24日に第2回目となる『岡崎泰平の祈り』が、一般社団法人岡崎青年会議所も主催者に加わり開催されました。青く美しい光を放ち、乙川に幻想的に浮かぶ写真が多くの来場者や関係者によってSNSに投稿されました。2017年度はその『岡崎泰平の祈り』を開催するだけでなく、今後民間主導かつ継続的なイベントに育てるため、協賛企業を募り、本イベントを民間主体で行うための足がかりとします。そしてイベントの予算を削減するために水量を減らし、川幅を狭くすることで、いのり星®と船の数を少なくします。水量を減らすことのできる左岸側の砂地には、竹灯籠(添付資料.6『竹灯籠イメージ画像』を参照ください)を設置し、青く荘厳ないのり星®とぬくもりを感じるロウソクのコラボレーションを演出します。有料の特別放流に参加される方には、いのり星®の放流だけでなく、竹灯籠エリアに入り竹灯籠に願い事を掲げることができますので、より特別感を味わっていただけます。また、地域住民の方は自分が暮らす岡崎市の地域資源と共に、いのり星®や竹灯籠が幻想的に美しく光るイベントを経験することで、地域の愛着を深めていただけます。

☆竹灯籠エリアについて☆

協力をしていただく民間企業には、一般社団法人岡崎青年会議所メンバーと共に、竹灯籠エリアの演出を協力していただけます。いのり星®特別放流・特別観覧エリア入場券を持つ方のみ、特別放流を終えた後に、半券に願い事を書いて竹灯籠に掲げるために入場することができます。

【いのり星®特別放流・特別観覧エリア入場者の流れ】

- 01) 潜水橋右岸の特別観覧エリア受付にて入場券を購入または提出して入場
- 02) 潜水橋を通り左岸側中腹の特別放流フロート入口にて短冊に記入
- 03) 特別放流誘導係りの案内により放流
- 04) 特別放流フロート出口兼、竹灯籠エリア入口から竹灯籠エリアAに入場
- 05) 竹灯籠に半券の短冊を掲げた後は潜水橋を通り退出
- 06) 潜水橋右岸の特別観覧エリア受付付近にてアンケート記入
※竹灯籠エリア内はいたずら防止のため一般来場者の入場禁止
※竹灯籠エリアAは入場者の安全を考慮し、LEDキャンドルを使用
※竹灯籠エリアBはいのり星®特別放流・特別観覧エリア入場券をお持ちの方も入場禁止
※エリアA、Bについては添付資料.6『会場レイアウト』をご参照ください

【事前準備】

- 01) 竹林にて竹の伐採※広報・まちづくり委員会、一般社団法人岡崎青年会議所有志、岡崎市職員で作業
- 02) 竹のカット・加工※広報・まちづくり委員会、一般社団法人岡崎青年会議所有志で作業
- 03) 「いのり星®」試験放流準備※広報・まちづくり委員会で作業(岡崎市職員含む)
- 04) 「いのり星®」試験放流※30名必要(岡崎市職員含む)
- 05) 「いのり星®」を乙川リバフベース(艇庫)に搬入※10名必要(岡崎市職員含む)
- 06) 「いのり星®」を日光に当て充電(1日程度)※20名必要(岡崎市職員、民間企業・団体含む)
- 07) 「いのり星®」事前メンテナンス(2日程度)※50名必要(岡崎市職員、民間企業・団体含む)
- 08) 各エリアチーフミーティング※三田村議案審査グループ代表、合原副理事長、広報・まちづくり委員会、各委員長、事務局長、岡崎市職員、原野(天の川プロジェクト®)

事業の概要

【当日準備】

- 09) 回収ネット組み立て・設置
- 10) 水面侵入防止ロープ設置
- 11) 「いのり星®」・備品等搬入
- 12) 「いのり星®」監視※この間に一般社団法人岡崎青年会議所の11月例会開会セレモニーを行います。
- 13) 竹灯籠搬入・設置
- 14) 全体ミーティング

【岡崎泰平の祈り開会セレモニー】

※「BOYS AND MEN研究生」「おとめボタン」によるオープニングイベント

- 15) 岡崎市長挨拶
- 16) 一般社団法人岡崎青年会議所宮田理事長挨拶
- 17) 主催者・来賓による「いのり星®」始球式※来賓については現在調整中

【開催中】※各エリアチーフを配置

- 18) 竹灯籠点火・監視
- 19) 放流回収作業(水上・陸上)
- 20) 水辺周辺警備
- 21) 特別放流受付・誘導
- 22) 竹灯籠エリア受付・誘導

【当日片付け】

- 23) 「いのり星®」回収
- 24) 水面侵入防止ロープ撤去
- 25) 竹灯籠撤去
- 26) フロート撤去
- 27) その他

【一般社団法人岡崎青年会議所 11月例会閉会セレモニー】

【後日片付け】

- 28) 「いのり星®」洗淨・拭き取り・梱包作業(1日程度)※50名必要(岡崎市職員、民間企業含む)
- 29) 「いのり星®」搬出

☆企業協賛募集☆

●協賛金は10万円・5万円・1万円の3種類

※協賛についての詳細は添付資料.17『企業協賛募集要項(案)』をご参照ください

※実験的に企業協賛の募集を行うため、2017年度は目標を2,000,000円に設定

※集めた協賛金は岡崎活性化本部が管理し、総予算の不足分を補填します。また納入先については岡崎活性化本部が岡崎泰平の祈り実行委員会準備会口座を作成していますのでその口座への振込み、もしくは現金(領収書と引き換え)になります。

※当日の「いのり星®特別放流・特別観覧エリア入場券」売上は総予算不足分の補填、もしくは次年度の「岡崎泰平の祈り実行委員会」設立に関わる費用になります。

開催期間 タイムスケジュール	2017年11月25日(土曜日)11:00~22:30
開催場所	乙川河川敷(殿橋周辺)
事業区分	継続
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	<p>【総予算】 24,200,000</p> <p>【協賛】 6,500,000</p> <p>【JC負担分予算】</p> <p>会場設営費 設営費例会看板 H600×W2,700 1,050 会場費岡崎ニューグランドホテル 2Fふじの間 21,600 設営費看板各種設置・撤去、その他 257,540 小 計 280,190</p> <p>資料作成費 作成費泰平の祈り2017各日従事者一覧表 A3@7×86 602 小 計 602</p> <p>企画・演出費 作成費特別放流チケット 1,000枚 45,900 小 計 45,900</p> <p>広報費 作成費チラシ A3二つ折りカラー 60,000枚 408,000 作成費企業協賛募集要項 A3二つ折りカラー 1,000枚 48,525 作成費ポスター B1 片面カラー 40枚 83,200 作成費ポスター B2 片面カラー 400枚 58,860 作成費記者発表用ポスター B2片面カラー10枚 42,600 作成費記者発表用チラシ A4両面カラー100枚 9,210 作成費協賛企業アンケート A4@7×74社 518 消耗品費協賛企業アンケート送付用封筒 @13×74社 962 消耗品費協賛企業アンケート返信用封筒 @13×74社 962 通信費切手代(協賛企業アンケート送付用) @82×74社 6,068 通信費切手代(協賛企業アンケート返信用) @82×74社 6,068 小 計 664,973</p> <p>予備費 8,335 小 計 8,335 合 計 1,000,000</p>
SDGs	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に

<p>協力団体</p>	<p>共催 岡崎市役所</p> <p>協賛 74社</p> <p>後援 なし</p> <p>その他 天の川プロジェクト®,岡崎活性化本部, 株式会社エフエム岡崎,東海テレビ放送株式会社,株式会社まちづくり岡崎,三菱自動車工業株式会社岡崎製作所,中部電力株式会社岡崎支店,NPO法人Heart to Heart,東邦ガス株式会社岡崎支店,菅生神社,愛知産業大学,株式会社フジケン,東海光学株式会社,一般社団法人岡崎パブリックサービス,株式会社ツツイエンターテイメント</p>
<p>事業対象者</p>	<p>対外30,000名 対内86名</p>
<p>行動 (ACTION TAKEN)</p>	<p>09月14日(木曜日) メンバーメールにて例会告知開始 09月14日(木曜日) 企業協賛募集開始 09月22日(金曜日) 第1回岡崎泰平の祈り実行委員会準備会 09月中旬～ 竹林にて竹の伐採 10月06日(金曜日) 試験放流用のり星®搬入 10月06日(金曜日) 試験放流準備 10月08日(日曜日) 岡崎泰平の祈りSNSページにて告知開始 10月15日(月曜日) 試験放流 10月中旬 岡崎泰平の祈り特設ウェブサイト設置 10月中旬 一般社団法人岡崎青年会議所SNSページにて告知開始 10月中旬 委員会訪問開始 10月17日(火曜日) 企業協賛募集締切り 10月23日(月曜日) チラシ・ポスター発注 10月25日(水曜日) 第2回岡崎泰平の祈り実行委員会準備会 10月25日(水曜日) チラシ・ポスター配布開始 10月27日(金曜日) 記者発表 10月下旬 一般社団法人岡崎青年会議所ウェブサイトにて告知 10月下旬 プレスリリース 10月28日(土曜日) 一般社団法人岡崎青年会議所 10月例会で11月例会告知 11月13日(月曜日) いのり星®搬入 11月中旬 第3回岡崎泰平の祈り実行委員会準備会 11月14日～21日 いのり星®充電作業※晴れの日 1日程度 11月22日～23日 いのり星®事前メンテナンス※22日までに終了目標 11月24日(金曜日) 各エリアチーフミーティング実施 11月24日(金曜日) メンバーメールにて会場・開始時刻など再確認メール配信 11月25日(土曜日) 事前準備・事業実施</p>

<p style="text-align: center;">結果 (RESULT)</p>	<p>1.対外 家族で楽しむ感覚で、市内の女性や50～60代の来場者が増えています。特別放流や竹灯籠も満足～やや満足が比較的に多く、特別放流をアテンドしていたメンバーへ「今日は父の命日なの。地元でこんな企画があって何かのご縁だと思って。泰平への祈りと、父へお祈りするわ」と年配の女性が手を合わせて放流し、短冊も含め感動したので是非委員長にも伝えて欲しいと言われたという出来事もあり、地元住民には事業を知ることで更に地域への愛着を深めていただけました。またチラシ・ポスターでイベント情報を知った方に比べ、ウェブ関連での来場者が少なく、購入者の年齢層も高いことから20代や恋人同士は減少傾向ですが「付き添いの人と一緒に橋を渡れない」や、チケット料金が高いという意見が多いことから、若年層は有料で参加するよりも無料で写真スポットを見つけ楽しんでいく可能性が高いです。SNSのハッシュタグで検索してみると「岡崎でこんな素敵なイベントやっているの知らなかった」等の投稿や、コメントでは「来年は絶対行きたい」等、撮影スポットの情報交換など行われ、更に年々ファンが増え続けており、広く岡崎の魅力が拡散されていました。</p> <p>1.対内 事前準備が多い中で、多くのメンバーが委員会の垣根を越え協力をして当日を迎えたことや、前半のセレモニーで例会の主旨が事前にしっかりと伝わったことで、士気が高まり、メンバー一丸となって例会に臨むことができました。そして参加メンバーがしっかりと各々の役割を果たしながら責任を持って持ち場を対応してくれました。また来場者の感動や喜びを肌で感じ、利他の心を持って自らも感動や喜びを感じていただくことで、非常に良い意味で事業を楽しんでいただけました。半数以上のメンバーがこのような大規模なイベントを共に作り上げることでメンバーであることを誇りに感じ、今後も事業を継続させ岡崎の秋冬の集客の目玉とできるよう、より良くするために希望に満ちたご意見も多いことから、地域への愛着も更に深めていただくことができました。</p> <p>2.事業が楽しくなかったというメンバーはほぼいませんでしたが、担当の持ち場によって、川に入り作業をしていただかなければならないメンバーもいました。本当に寒いので致し方ありませんが、「川の中に入るのは寒い」や「片付けが寒く辛すぎた」という意見もあり、一部のメンバーは自らも事業を楽しむことができなかつたかもしれません。前半セレモニーの人数が少なかったため、例会の趣旨や目的がしっかりと全てのメンバーに周知できていれば、個々の士気が更に上がり弱音も聞こえなくなる可能性は十分あります。また事前に注意喚起はしていましたが、士気が上がり過ぎていのり星®を回収している威勢の良い声で雰囲気をも十分に楽しめない来場者もいました。</p> <p>3.対外目的 特別放流を行った来場者へのアンケートにより、本例会の目的達成度を検証いたします。 ※岡崎市が行うアンケート内に質問事項を追記していただきます</p> <p>3.対内目的 メンバーへのアンケート(後日メンバーメールにて配信)により、本例会目的達成度を検証いたします。</p> <p>3.協賛企業について 協賛企業用のアンケートにより、協賛企業目線からの費用対効果などについて検証いたします。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の岡崎市の更なる発展に向け、岡崎市役所をはじめ、地域の民間企業や団体と協力することにより、まちに関わる人々の関係が強化されました。 ・SNS映えするイベントを行い、多くの関係者や来場者がSNSで投稿したことで、イベントを市外や県外のみならず世界中に発信することができました。

<p>LOMへの影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人岡崎青年会議所が岡崎市を代表する規模のイベントを設営し、利他の心を持って事業を継続することで、多くの方にその活動を理解していただくことができました。 ・岡崎市内外の来場者が楽しみ、感動するイベントを設営することで、一般社団法人岡崎青年会議所メンバーがメンバーであることへ誇りを持ち、帰属意識を醸成することができました。
<p>事業の長期的な影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎市役所とビジョンを共有して協働することで、岡崎市の観光の目玉となるような、桜まつり、花火大会に次ぐ秋冬のイベントを民間主体で作り上げていく地盤を作ることができました。 ・例会開催月を、9月から思い切って11月に変更させることで、秋冬の定着したイベント実現に向けて有効的な検証を行うことができました。 ・実験的に企業協賛の募集を行い、検証することで、本イベントを民間主体で行うための足がかりを作り、民間主導かつ継続的なイベントを作り上げる準備ができました。
<p>考察や推奨</p>	<p>11月例会を開催するにあたり、2016年度中の候補者段階より、5ヵ年ビジョン書2016の見直しを行いながら行政と岡崎市のビジョンを共有し、将来民間の手による秋冬イベント開催に向けた仕組み作りや、2017年度岡崎泰平の祈りの企画・運営を進めるために、委員会メンバーと共に1年間掛け幾度となく打合せや協議を重ねてきました。そして2018年度実行委員会を設立し、地域の民間企業や団体との連携を強化するために企業や団体を訪問して回り、また協賛企業を募るためにも沢山の企業も回りました。多くのメンバーのご協力の甲斐もあり、その結果沢山の人々を巻き込み活気あるイベントを作り上げていける可能性は十分見出せたと感じています。しかし今後もより発展させていくためには、メンバー全員が5ヵ年ビジョンをしっかりと共有し、事業を継続することでメンバー一人ひとりが更に帰属意識を醸成し、年度を重ねることにより良いイベントを作り上げていく想いで、向上心を持ち続けること必要です。そしてメンバー一人ひとりが自分だけではなく周囲の方々をもっと巻き込めるようになれば、イベントに関わる人の繋がりも増え、全員広報の勢いも増すはずで。</p>

改善点

- 01) 静かな雰囲気を楽しむようなイベントでは、士気が高まりすぎてお祭りみたいに大声になってしまうと来場者が不快に感じてしまうことがあるので、雰囲気を統一するよう周知徹底する必要があります。
- 02) なるべくメンバーの負担を減らすために午前の準備等は委員会メンバーとその他関係者で行い、途中で抜けさせてもらっている状態でしたが、前半のセレモニーに参加するメンバーが少なく放流時間から参加するメンバーも多々いたため、JC以外の方で準備を進めてくれている方がいることの周知や、午前中の準備も有志ではなく役割を与えることも検討。
- 03) 放流時間の終了が19時頃と比較的早いため当日のSNS投稿を見て来場する方の集客も想定して放流時間を少し延ばすなども検討。
- 04) 全体ミーティングの指揮のための打ち合わせが十分ではなかったため、関係者が多い分時間もかかり混乱を招きました。事前に細かな部分まで主要メンバーで打ち合わせが必要。
- 05) 特別放流の1,000円は少し高いと感じる来場者も多く、特別放流のいのり星®も余りがあったことから、金額を少し下げること購入者の増加も見込める。
- 06) 士気が高まってもやはり冬に川に入るのは寒いので、担当者には更に防寒対策が必要。
- 07) 屋外での例会のため、単純に寒さから9月が良いという意見もありますが、秋冬のイベントで岡崎泰平の祈りを継続していく場合や、今後岡崎JCが『岡崎 泰平の祈り』を事業として行うのであれば、12月のクリスマスや徳川家康公生誕日も検討。
- 08) 協賛企業は募集期間が少なかったこともあり、メンバーの企業も多かったですが、それ以外の協賛企業も対応にもよると思いますが、関わることに肯定的です。積極的にメンバー以外の企業にアプローチが必要。
- 09) 若年層や写真撮影の好きな方は有料で参加するよりも無料で写真スポットを見つけ楽しんでいる可能性が高いです。特定の写真スポットの設置や、チケットの価格を下げるなどの対応でよりイベントの中身を楽しめる年齢層が広がり、岡崎JCの認知度は高まります。
- 10) 特別放流において、写真を撮りたい人が多いのでどうしても流れが悪くなります。写真スポットを別に設けるなど工夫が必要。
- 11) 車椅子だけではなく、特別放流にベビーカーで訪れる方も多いので、ベビーカーに対する配慮も必要。
- 12) 本部周辺にはJCメンバーがほとんどいなかったため、来場者にJCが行っているのが伝わりづらかった可能性があります。全体に配置される警備員等にJCメンバーを配置することも検討。
- 13) チラシ、ポスターに記載された社名の間違いがあり、迅速にご対応したため翌年度の協賛にも前向きな意見をいただく企業ありました。校正を全協賛企業がしっかりと確認できるよう気をつけてください。また万が一不備があった場合は迅速に対処必要。
- 14) 場内放送の音量が小さいという意見もありましたので、音量が更に上げられるようであれば検討。
- 15) ナイトマーケットでは長蛇の列ができており、来場者に対して飲食の出店が更に多くても良いという意見もありましたので、出展数の拡大を検討してください。また拡大に伴い、風景を楽しみながら、ゆっくりと飲食できる場所や、上から見られる櫓などの設置も検討。

JCI行動計画の推進	<p>JCI Action plan Motivate</p> <p>岡崎市には春には桜まつり、夏は花火大会と全国的にも知名度の高いイベントが開催されますが、秋冬のイベントとしては市外から多くの観光客を呼び込む企画がありませんでした。そこで一般社団法人岡崎青年会議所は、岡崎市中心部を流れる乙川に約30,000個のLEDボールを流す「岡崎泰平の祈り」を2016年度より、岡崎市と協働して開催する運びとなりました。そのイベントを絶やすことなく継続することで市内外に認知される大規模イベントへと昇華するため、2017年度は同イベントの開催と共に、継続するための民間からの資金調達の足がかりを作る事業として実施しました。</p>
JCI VISIONの推進	該当なし
JCI MISSIONの推進	<p>目標: 民間事業者との連携を確立し、民間で秋冬イベントを開催する足がかりをつくる</p> <p>① 実験的なスポンサー企業募集 実際に企業協賛募集を行い、目標数である76社の協賛を得られ、2017年度の岡崎泰平の祈り運営費へ補填しました。</p> <p>② スポンサー企業募集の検証 本決算議案にて検証を行いました。</p> <p>③ 市民を巻き込む仕組みの模索 岡崎泰平の祈り実行委員会準備会へ参画した地元企業の多くの社員から、当日や事前準備で協力を得られることができました。</p>
JCI申請の意思確認	検討している
その他	<p>家族で楽しむ感覚で、市内の女性や50～60代の来場者が増えています。特別放流や竹灯籠も満足～やや満足が比較的に多く、特別放流をアテンドしていたメンバーへ「今日は父の命日なの。地元でこんな企画があって何かのご縁だと思って。泰平への祈りと、父へお祈りするわ」と年配の女性が手を合わせて放流し、短冊も含め感動したので是非委員長にも伝えて欲しいと言われたという出来事もあり、地元住民には事業を知ることによって更に地域への愛着を深めていただけました。またチラシ・ポスターでイベント情報を知った方に比べ、ウェブ関連での来場者が少なく、購入者の年齢層も高いことから20代や恋人同士は減少傾向ですが「付き添いの人が一緒に橋を渡れない」や、チケット料金が安いという意見が多いことから、若年層は有料で参加するよりも無料で写真スポットを見つけ楽しんでいる可能性が高いです。</p>
添付資料	添付資料1 添付資料2

エントリー内容 No7	
事業名称	子ども食堂から地域の食堂へ～はじめの一步は、ごはんの一杯～
申請部門	逞しい愛知創造部門
申請LOM	一般社団法人 新城青年会議所
理事長名	浅岡大士
申請担当者	佐野 潤
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 10名 参加率 90.00% 関係者数 5名 一般参加数 115名
事業実施に至った背景	<p>一般社団法人新城青年会議所は、新城市及び奥三河に存在する各種まちづくりの団体の中でも、重要な位置を占めなければならないところ、近年の活動状況を踏まえると他団体との交流が少なくなっている。</p> <p>また、近年では地域住民間の交流が少なくなり、地域における助け合い、情報交換等々も少なくなり、それに伴う行政の負担は増している。</p> <p>そのため、青年会議所の存在及び青年会議所の活動により、地域内における住民の交流を推進する必要がある。</p> <p>また、本年7月より、八楽児童寮が、市内で子ども食堂を開催するところ、市民にそれを周知し、『子ども食堂』の認知度をあげ、市民が子ども食堂に関わるきっかけを作る必要がある。</p>
事業の目的	<p>対外的には、子ども食堂については、各種団体、対象者は既に地域内の深い交流が必要なことを認識しているため、青年会議所から第一歩を踏み出すことにより、地域におけるオピニオンリーダーの地位、存在意義を示すことができる。</p> <p>対内的には、話題性のある社会問題に取り組むことにより、今ある課題に敏感に感じる感性を磨く。</p> <p>すなわち、話題性のあるテーマ「子ども食堂」に関する勉強会及びワークショップの開催、子ども食堂の開催(子ども食堂の実施団体は別団体)の告知により、市民を主体的なまちづくりプレイヤーにする意識変革する。</p> <p>当青年会議所のブランディングとして、内外に青年会議所存の存在と意義を知っていただき、青年会議所に所属することを誇りと感じてもらう。</p>

事業の概要	<p>事業内容(合計105分) 【演題】『子ども食堂から地域の食堂へ』(合計25分) 【講演】講師 新城市役所 子ども未来課 課長 川窪正典 【グループワーク】『わたしたちにできること』(合計80分) テーマ:「私たちに住む人たちはだれだろう?どんな問題をかかえているだろう?」 「もし、子ども食堂、地域食堂ができたら、どの部分が解決できるであろう?」 「わたしにできるはじめての一步」 「発表」 役割分担 専務理事 佐野潤 事業責任者 理事長 浅岡大士 渉外業務及びPR 各メンバー 会場設営、受付、ファシリテーター</p>
開催期間 タイムスケジュール	平成30年6月26日(火)午後7時~午後8時45分まで
開催場所	新城市消防防災センター 2階 会議室 愛知県新城市平井字新栄83番地
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	<p>金5000円(模造紙1000円、付箋1000円、色ペン500円、チラシ印刷代2500円)収入なし。予算上の工夫、今回は公共施設を利用することにより、会場費を節約しました。また、今回の事業は市役所との連携、facebook、個別の声掛け、各種団体への声掛けにより、事業に関する広告宣伝費をかけませんでした。</p>
SDGs	<p>1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p>
協力団体	<p>共催 なし 協賛 なし 後援 なし その他 協力 新城市役所 こども未来課</p>

事業対象者	若者議会参加メンバー、行政職等の公務員、社会福祉協議会職員、包括支援センター職員、福祉団体職員、更生保護女性会、民生委員、地域住民、
行動 (ACTION TAKEN)	平成30年2月より、子ども食堂をテーマに、新城市役所こども未来課と協議してまいりました。 同年4月に市内の児童養護施設が県のモデル事業として子ども食堂を運営されることの決まると、それをベースに事業展開の構築を検討に入りました。 子ども食堂の認知度を調査するため、民生委員、福祉団体等に電話による意識調査を開始すると、福祉関連の方とそうでない方との「子ども食堂」の認知度、著しく差がある事を知りました。そこで、市役所と協同し、勉強会及び自分で考えるワークショップを開催しました。
結果 (RESULT)	1、集客においては100%達成できた。意識変革については、概ね達成できた。ブランディングについても概ね達成できた。 2、集客においては当初40名の参加を見込んでいたところ当日は130名(メンバー9名を含む)の来場者及び市長にも来場していただき、盛大に開催できた。 3、集客については、出席者名簿。意識変革については、一か月後の市民の動き。ブランディングについては、アンケート、ファンレター、新聞、TV等の報道による。 4、集客については、出席者名簿130名の参加者(市役所職員、社会福祉協議会、民生委員市民団体、市外参加者、教職員、市民等)。意識変革については、例会実施後、1か月後に一般市民による地域食堂の開始されたこと。ブランディングについては、地元ケーブルテレビで報道、新聞掲載3社、ファンレターの取得、アンケートにより、応援と子ども食堂をテーマとしたことの賞賛をえる。
地域社会への影響	この事業をきっかけに、特にワークショップの最後に「わたしのできるはじめての一步」に考えるテーマとして加えました。それにより、参加者が主体的に子ども食堂、地域食堂を運営したい旨の声があり、実際に1か月後には、行動を起こす市民も現れました。
LOMへの影響	当LOMは会員数減少による、対外例会の企画立案や集客力の低下により、JCのブランディングが低くありました。 今回の事業により、100名を超える集客、会員(新入会員も)がワークショップにてファシリテーターを務めることにより、JCにとって各人の役割が求められること、地域社会にとって必要とされることが実感できました。それにより、当LOMのブランディングがされ、会員のLOMに対する帰属意識が増しました。

事業の長期的な影響	<p>1、コミュニティーの活性化による、貧困や孤立の防止、そこから発生する市民一人一人の生活状況のボトムアップを図ることができる。そのことが、地域、市、国にとっての安心に暮らせる社会の基礎を作ることになる。</p> <p>2、LOMの地域におけるブランディング。</p>
考察や推奨	<p>今回の事業を開催するための事前聞き取り調査により、子ども食堂に関する意識調査では、知らない人は「知らない」、知ってる人は「興味がある」という、二極化がありました。しかし、「興味があってもぜひやりたい。」という方は、少数でした。</p> <p>そこで今回の事業では、来場者に「わたしにできるはじめての一步」を考えていただき、市民の足を一步進める事業を行いました。</p> <p>青年会議所は意識変革団体といわれますが、例会担当者として思うのは、あまり難しく考えず、市民の一步を後押しするのが青年会議所であり、目新しい事をやることも重要であるが、既にある社会テーマに対し、いち早く青年会議所が手を挙げるのが、青年会議所の意義ではないかと考えました。</p>
改善点	<p>今回の参加者は、比較的福祉関係者の方の参加が多く見られたため、もっと身近な市民の参加が求められる。また、子ども食堂に関しては少なからず「貧困」「孤立」等といったネガティブなイメージがあるため、一般市民に倦厭される可能性がある。</p> <p>しかし、そこも青年会議所を通すことにより、市民になじめるのではないかと考える。</p>
JCI行動計画の推進	<p>インパクト：子ども食堂に関する事業は、SDGsにある貧困や飢餓、住みよいまちづくりに深くかかわります。</p> <p>意欲：ワークショップのファシリテーターを務めることにより、会員の資質向上、地域におけるブランディングを行いました。</p> <p>投資：過度のイベント性を排し、事業遂行に際し、スリムな予算立てをしました。</p> <p>協力：今回に事業に際し、新城市役所こども未来課、社会福祉協議会、地区の民生委員、その他福祉団体等と協同してワークショップを行いました。</p> <p>つながり：今回事業では、多くの団体の方が一か所にあつまり、多くの意見交換をすることによって大きなつながりを得ました。</p>
JCI VISIONの推進	<p>改善点で述べたように青年会議所という市民活動を主導する団体を通すことによって、市民が避けて通りがちな問題（貧困や孤独）に対しても、市民が正面から取り組むきっかけを作りました。</p>
JCI MISSIONの推進	<p>ワークショップの開催により、能動的な活動のできる機会、すなわち今回のワークショップテーマ「わたしにできること」を参加者及びLOMメンバーに考えていただきました。</p>
JCI申請の意思確認	<p>検討している</p>

その他	先述の通りですが、本事業に際し、多くの団体の方々に参加していただき、今日のテーマである「子ども食堂」を使ったつながりづくり、そしてJCのブランディングに貢献した事業として本事業を褒賞事業として申請します。
添付資料	添付資料1 添付資料2 添付資料3

エントリー内容 No8	
事業名称	とよたっ子コンテスト～僕らの描く未来の豊田市を走るクルマ～
申請部門	逞しい愛知創造部門
申請LOM	一般社団法人 豊田青年会議所
理事長名	山田 洋介
申請担当者	梅村 洋平
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 117名 参加率 79.10% 関係者数 2名 一般参加数 95名
事業実施に至った背景	<p>豊田市はトヨタ自動車とともに発展していくことを決意し市名を変更し、ものづくりの都市として発展を遂げてきたにもかかわらず、豊田市の歴史に誇りをもっている方は約4割にとどまっており、その割合は、若年になるほど低くなっています。より多くの市民、特に若年層が豊田市に誇りをもたなければ、より魅力あるまちとなることはできません。</p> <p>そこで、自由な発想をもち人格の形成過程にある小学生に対し、豊田市の歴史や、今ある「クルマのまち とよた」の素晴らしさを伝え、豊田市に誇りをもつ市民の裾野を広げていかなければなりません。そこでこの課題を解決すべく、未来への礎を感じることを、まちづくりへ参画したという体験をもつことで、まちの価値を高め、豊田市民としての誇りをもつきっかけを作る必要があります。また、下水道事業の啓発につながり、住みよい地域環境、世界環境を整備するきっかけとなります。</p>
事業の目的	<p>豊田市がものづくりの中心地として「クルマのまち」へ発展してきたことを知り、まちの魅力を実感していただくことで豊田市民であることに誇りを抱き、シビックプライドを醸成するための一つの手法として公共空間の利用が有用であることを理解し、それを実践できる人材となることを目的とします。</p> <p>対外的には、マンホールに子ども達が描いたまちの未来を展示することで下水道事業の啓発につながり環境整備をもたらします。そして地域課題を企業のCSRで解決することで官民一体となった地域環境整備への意識変革につなげます。</p>
事業の概要	<p>豊田市の歴史を学び、小学生が描く未来の「クルマのまち とよた」を発表していただきます。ワークショップ形式でクルマに触れ、体験することを通じて、クルマを中心とした豊田市の魅力を感じていただきます。例会内でコンテストを行い、優秀賞を得た絵画は、豊田市の中心市街地のマンホールに掲示されます。例会当日には、豊田市がもの作りのまちであることにちなんで、親子で体験できる様々なワークショップを用意しました。そして、世界的な下水道の普及率や下水道の役割等をパネル展示することで、地域環境の整備に下水道が不可欠であること、世界的な普及が急務であることを理解していただきました。</p>
開催期間 タイムスケジュール	2017年4月1日～2017年8月5日
開催場所	豊南交流館多目的ホール、豊南中学校体育館

事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	<p>予算 550,000円 決算 541,526円</p> <p>豊田市内の小学生およそ2500名から参加申込みがあり、大きな反響があったため企業のCSRの一環として、企業協賛を募りました。行政が毎年、下水道事業の啓蒙活動費として計上しているものの、それに比して、一定の費用対効果を上げることができました。</p> <p>詳細は以下のとおりです。 【収益の部】 協賛金収入180,000円 事業組入金370,000円 【支出の部】 会場設営費 70,858円 企画演出費422,768円 その他 47,900円</p>
SDGs	<p>4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 11. 住み続けられるまちづくりを</p>
協力団体	<p>共催 なし</p> <p>協賛 公益財団法人あすて(絵画の審査、表彰状の提供) (株)リコー(映写機器提供)、ヒューマンアカデミー(株)(ワークショップ(ロボット教室)) 豊田市役所 上下水道局(ワークショップ(上下水道の役割)) トヨタ自動車(株)(映像資料提供)</p> <p>後援 豊田市長、豊田市教育委員会</p> <p>その他 (株)トヨタ中央自動車学校、(有)第一工業、(有)トヨタ農産、(有)光明堂、(有)カズイ看板、洋行建設(株) 他13社</p>
事業対象者	豊田市民の小学生と保護者、豊田市役所、上下水道局、(一社)豊田青年会議所メンバー

<p>行動 (ACTION TAKEN)</p>	<p>小学生を対象に未来のクルマ、未来の豊田市をテーマにした絵をコンテスト形式で募集しました。約2500名の小学生に応募をしていただきました。まず、メンバーのみの投票で選考し、最終選考では豊田市長をはじめとする各賞のプレゼンターの方々に決めていただきました。当日は、応募作品を豊南中学校体育館で展示し、豊南交流館では小学生をターゲットにしたイベントを開催しました。はじめに、豊田市が発展した歴史と映像を交えながら未来のクルマ社会について解説しました。ワークショップではモノづくりに通じるものを行い、来場者からは高評価を得ました。前述の受賞10作品について授賞式を行い、豊田市長からも市長賞の方へ授与していただきました。この10作品は豊田市駅前のマンホールにプレートとなって掲示されました。まとめとして、自分たちが住むまちの中で「うれしい」と思う回数が増えるとまちのことが好きになるということを伝えました。</p>
<p>結果 (RESULT)</p>	<p>約2500名もの豊田市内の小学生が参加したのは、中心市街地のマンホールという公共空間に自分の絵が飾られるということへの期待があったこと、未来の豊田市、クルマをテーマとしたことに対し、自分の住む「クルマのまちとよた」を想い、豊田市民としての誇りを抱くきっかけになるという教育的効果が見込まれ、多くの教育関係者や親に受け入れられたことが要因として考えられる。これらに加え、例会当日、豊田市の歴史、未来のまちについて解説したことでより豊田市のことを好きになった児童が増加した。小学生の様々な自由な発想をみることができ、親世代もそれらに刺激を受けていた。例会当日のワークショップでは親子のふれあいを通じ、モノづくりの楽しさを学ぶことができた。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<p>夏休みの間、中心市街地に子ども達が描いた絵画がマンホールに展示された。街ゆく人々が、マンホールを見ては立ち止まっていた。マンホール上に絵画が展示されることで、街中の雰囲気明るくなり、賑わいを演出する役目を果たしている。今回参加できなかった学校関係者からは、参加できれば良かったとの感想をいただき、下水道局からは、これほど反響があるとは想像しておらず下水道事業の啓蒙活動に大変有益であったとの言葉をいただいた。いずれも次年度以降の継続を強く望む意見をいただいた。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>約2500枚もの絵画を展示するため、担当委員会の枠をこえた協力を得られ、LOM全体で設営することができた。また、教育関係者とくに小学校にこれほど受け入れられたことが他の例会、事業等への参考になったと考えられる。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>教育関係者や下水道局からは次年度も実施して欲しいとの要望をいただいているところ、実施機関や予算的な問題をクリアしていかなければならない。</p>

<p>考察や推奨</p>	<p>今回は、マンホールであったが、公共空間にあるものであれば、信号機やガードレール、広場などいかなるものでも、今回のような市民のそのまちなをシンボリックに感じることができるものを展示する対象となるため、様々な公共物で展開ができると、市民のシビックプライド醸成の一助になると考えられる。</p>
<p>改善点</p>	<p>豊田市駅前の市街地におけるマンホールに限定されているため、長期的には市内全域へこの活動を広げることでより効果的な影響を与えることができる。 また、利用する公共空間(公共物)を、広場、道路、歩道橋、橋などに展開することで、より多くの市民意識の変革につなげることができる。</p>
<p>JCI行動計画の推進</p>	<p>インパクト(影響力) 市民のまちづくり参画意識の醸成と下水道事業の啓蒙という地域課題を(一社)豊田青年会議所が解決の手法を提供し、行政、企業を先導して行動を行い、多くの市民に関心を向けさせ参加を得ることができたこと。 コラボレート(協力) プログラムの過程で、企業のCSRと行政、市民の協力を得た。 コネクト(つながり) 豊田市駅前の市街地における活動で、(一社)豊田青年会議所が先導して企業のCSR、行政、教育関係者、市民がつながり取り組むことができたこと。</p>
<p>JCI VISIONの推進</p>	<p>社会のビジョン:プロジェクトを行うことで、下水道事業への理解とイメージアップを図り、整備環境の重要性を認識すること。企業のCSRが、まちづくりへの市民参画意識の醸成になることを行政に効果データを引き継いだ。 人のビジョン:未来の豊田市がどのように発展して欲しいかビジョンを抱いていただくこと。まちに彩りを与える活動に参画することで、まちづくりへのアクションを起こすこと。</p>
<p>JCI MISSIONの推進</p>	<p>社会の開発:豊田市駅前の市街地において、華やかな空間の演出とまちづくりへの市民参画意識の醸成は、行政だけでは改善できない現状があった。(一社)豊田青年会議所が企業、行政、市民をつなぎ、改善の手法を実行した。 人の開発:本プロジェクトに多くの市民が参加し、豊田市駅前の市街地へのまちづくり参画を促し、市民にポジティブチェンジする機会を与えた。</p>
<p>JCI申請の意思確認</p>	<p>検討している</p>

<p>その他</p>	<p>「マンホールに子ども達が描いた未来のまちの姿を展示する。」これが多くの学校関係者、保護者、行政、民間企業に受け入れられ、これらの方々の関与で地域環境の課題を解決することにつながりました。日本においては下水道の普及率は高く、本事業は、特に無味乾燥なマンホールに子どもの絵を展示することでまちに華やかさを与え、まちづくり活動への参画意識に大きな影響を与えました。他方、ともすると下水道に負のイメージのある日本において、その啓蒙活動につながりました。さらに、下水道の普及率の低い他国へは、インターネットを通じて本事業を伝えることで下水道の大切さを伝える一助となっています。本事業は大きな反響を得て、次年度である本年においても継続事業としており、さらなる反響をいただいております。</p>
<p>添付資料</p>	<p>添付資料1</p>

エントリー内容 No9	
事業名称	「にしおみらいフェスタ」～見つけよう！ぼくたちの未来～
申請部門	逞しい愛知創造部門
申請LOM	一般社団法人 西尾青年会議所
理事長名	河合恒一
申請担当者	村瀬智之
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 132名 参加率 64.70% 関係者数 28名 一般参加数 3200名
事業実施に至った背景	<p>交通、通信、医療など多面において私たちの生活に豊かさや利便性をもたらす先進技術は、一方でインターネット上のトラブルや技術の悪用など様々な問題を引き起こしています。それらは近年の急速な技術革新に個々人の知識や心構えが対応しきれない事が原因だと考えられます。今後、私たちの暮らしや産業をより豊かなものにするためには、技術革新と共に人やまちも進歩し続ける「技術と人とまちが共存共栄する理想の社会」を実現させる必要があります。</p> <p>そのためには、「技術と人とまち」の在り方について考える機会を提供し、正しい知識と心構えを持ち合わせたうえで先進技術を積極的に取り入れられる人材を増やす必要があります。</p>
事業の目的	先進技術の正しい受け入れ方とその有効活用について考え、「技術と人とまちが共存共栄する理想の社会」を想い描き、未来への準備をしていただくことを目的とします。
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社人機一体代表金岡克哉氏と働きごごち研究所代表藤野貴教氏による「講演・パネルディスカッション」 ・一般社団法人日本ドローンレース協会と侍ドローンによる「ドローン操縦体験」 ・市内小学生100人対象「未来ウルトラクイズ」 ・鶴城丘高等学校音楽部による「吹奏楽演奏ステージ」 ・芸人じゅんいちダビットソン氏による「お笑いステージ」 ・愛知工業大学・愛知工科大学・愛知県産業労働部産業振興課による「宇宙・ロボット工学体験展示コーナー」 ・屋外特設コースにて「パーソナルモビリティ乗車体験」 ・屋内各会議室にて「VRゴーグル作成及び体験」「プロジェクションマッピングによる着せ替え体験」「ヒートプレスマシンでオリジナルトートバッグ作成体験」 ・ヒューマンアカデミー株式会社による「ロボット教室」 ・LINE株式会社による「スマホ教室」 ・20台を超えるキッチンカーによる「飲食ブース」
開催期間 タイムスケジュール	2017年9月23日

開催場所	西尾市文化会館
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	事業総予算3,800,000円(会事業費2,800,000円・協賛金1,000,000円) 当初の事業費に加え一般社団法人西尾青年会議所設立後初の試みである「協賛金」を募集しました。それはより魅力的で良い事業にするための予算確保の意味合いもありますが、未来をテーマとした事業を構築する当委員会が「新しいことに挑戦する」という活動理念に基づいたものです。
SDGs	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
協力団体	共催 なし 協賛 市内を中心とした民間企業20社(協賛金) 後援 西尾市、西尾市観光協会、西尾市教育委員会 その他 なし
事業対象者	小学生を持つ親子を中心とした一般市民の方々
行動 (ACTION TAKEN)	未来のある子供たちにとって幼少期の「原体験」が重要であると学び、とにかく先進技術について「体験できる」場を提供しようと考えました。まずは楽しく体験することでモノを知り、考え、活用する。そんなサイクルが生まれる事を期待して事業構築をしました。 また事業前PRにおいても、事業で使用するパーソナルモビリティを事前購入し市内各所で乗車体験会を実施するなど楽しさを体験してもらう事に重点をおきました。
結果 (RESULT)	1. 想定以上の1.5倍以上の方にご来場いただきました。 2. 想定以上の方にご来場いただいたことで混雑が発生し、一部で対応に不備がでてしまいました。 3. エリア・対象別に分けたアンケート結果。 4. アンケート結果より80%以上の方に未来を感じる機会だったと回答いただきました。

地域社会への影響	<p>名前は知っていたり見たことはあるが実際体験したことのある方がまだまだ少ないVRやドローンやプロジェクションマッピングなどを身近で体験できる機会を提供することによって、来場者の方に経験と新たな気付きを与える場所とする事ができたと考えます。また、数多くのキッチンカーによるご当地飲食も地域の方に楽しんでいただきました。翌年も開催して欲しい、継続事業として欲しいとの声を多数いただきました。</p>
LOMへの影響	<p>当LOMの活動を周知させられる機会であると同時にLOMメンバーの振る舞いも数多くの方に見ていただける機会となります。数多くの体験ブースのあるこの事業では一般市民の方との触れ合いも多く、それらを通して理念である「明るい豊かな社会の創造」における人と人のつながりの重要性を再認識できたと考えます。</p>
事業の長期的な影響	<p>技術を開発するのも人、まちを創造するのも人。今後必要なものはイノベーションとモチベーションだと考えます。 未来を担う子供たちにとっての「原体験」の機会を提供できたことで、今後彼らが成長していく中で先進技術に関する本質を考え、積極的に活用し、あらたなモノを生み出すイノベーションとモチベーションを持つきっかけとなる事が期待できます。</p>
考察や推奨	<p>対外事業目的は「きっかけ作り」「意識喚起」であるべきと言われる。その目的達成のためにはやはり「体験」できるものが適切だと考えます。さらにはその体験も「楽しそう」なものでなければ人は集まりません。その楽しそうな体験を通じてモノの本質を考えさせ、新たなモノを想像させる。行動させる。そのようなサイクルを生み出すことが事業構築において最も重要だと考えます。</p>
改善点	<p>特になし。</p>
JCI行動計画の推進	<p>先進技術に楽しく触れる「原体験」を基に子供を中心とした市民の方の「技術と人とまちが共存共栄する理想の社会」へのイノベーション、モチベーションを生み出すことを目的とした本事業はJCI Action planの「世界中の能動的市民の若者を取り込むために、地域に重点をおいた市場資源を開発する」に合致すると考えます。</p>
JCI VISIONの推進	<p>子供たちを中心に先進技術に触れてもらう、未来を感じてもらう、新たなモノをイメージしてもらう、自ら行動してもらう。その為に様々な技術、アトラクション、専門家を用意した本事業はJCIビジョンの推進に繋がっていると考えます。</p>
JCI MISSIONの推進	<p>上記に同じく。本事業は子供たちを中心に「技術と人とまちが共存共栄する理想の社会」へのイノベーション、モチベーションを生み出すための事業であります。体験する、知る、考える、行動するを一日で経験できる機会であることからJCIミッションの推進に繋がっていると考えます。</p>

JCI申請の意思確認	検討している
その他	特になし。
添付資料	添付資料1 添付資料2

エントリー内容 No10	
事業名称	春日井市文化スポーツ都市宣言記念事業「えんとつ町のプペル」光る絵本展 in春日井 西野亮廣トークライブ～道なき道の歩き方～
申請部門	LOM成長部門
申請LOM	公益社団法人 春日井青年会議所
理事長名	川村吉秀
申請担当者	金子 裕貴
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 134名 参加率 93.00% 関係者数 44名 一般参加数 7957名
事業実施に至った背景	「輝く人財とは」と問われたとき、夢や想いを実行し形作っている人物であると考えます。多くの人は夢や理想を持ちそれに近づけるよう努力をしています。しかし、ほとんどの人は周囲からの言葉や自分自身の不安などの要因から諦め、結果として想いを叶えられずにいるのを感じます。輝く人財となるには、学びや経験から気づきを得て具体的な行動を変えていく必要があります。その為に、「輝く人物」から夢や想いに向き合う姿勢や考え方を学び、実行していく為の指針を持つことが必要であると考えます。
事業の目的	対外：想いや望みに対して自身が行動することの大切さと実行するための姿勢を学んで頂き、能動的な市民になって頂くことを目的とします。 対内：想いから実現するに至るまでのプロセスを学んで頂き、一貫性のある考え方に気づいて頂きます。それを理解することで、より活発な議論のできるLOMメンバーの育成とLOMの活性化を目的とします。
事業の概要	「えんとつ町のプペル」光る絵本展 in春日井 西野亮廣氏が4年半構想を重ね生み出した《えんとつ町のプペル》を中心とした作品(11月に1000万円で落札され、寺院に奉納されたものと同じもの)を展示し、講師の想い描いた「夢」が現実になった形に触れて頂きます。単純に絵画作品を展示するだけでなく、西野氏の追及する世界を作り込む他、他団体の協力のもと読み聞かせや塗り絵コーナー・フォトブースを設け市民の参加を促します。 西野亮廣トークライブ ～道なき道の歩き方～ 1.講演会 テーマ:「夢に向かい行動することの大切さ」 なぜお笑い芸人から絵本作家になるに至ったか、またその時の周囲からの批判の声や不安に対してどう考え対処したのかを語って頂きます。 2.パネルディスカッション テーマ:「《えんとつ町のプペル》が誕生するまで」 世界で初となる分業制で制作された「えんとつ町のプペル」は、どのような想いがあり《えんとつ町のプペル》を作ることになったのか。制作にあたっての問題点をどのようにして実現していったのかなど、絵本の製作秘話をパネルディスカッション形式で紐解いていき、パネリストからの質疑で事業目的へ着地にするよう導きます。

開催期間 タイムスケジュール	「えんとつ町のプペル」光る絵本展 in春日井 2017年9月13日(水) ~ 2017年9月24日(日) 西野亮廣トークライブ ~道なき道の歩き方~ 2017年9月22日(金) 18:00~20:00 (開場 17:00)
開催場所	「えんとつ町のプペル」光る絵本展 in春日井:文化フォーラム春日井(春日井市鳥居松町5丁目44番地) 西野亮廣トークライブ ~道なき道の歩き方~:春日井市民会館(春日井市鳥居松町5丁目44番地)
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	予算額 収入計:2,001,000円(事業費:315,000、事業収入:1,686,000) 支出計:2,001,000円(会場設営費:655,760、講師関係費:388,960、広報費:955,478、予備費:802) 決算額 収入計:2,334,900円(事業費:315,000、事業収入:2,019,900) 支出計:1,960,365円(会場設営費:655,601、講師関係費:388,960、広報費:915,804、予備費:802) 収支差 374,535円
SDGs	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 10. 人や国の不平等をなくそう 12. つくる責任 つかう責任
協力団体	共催 春日井市 協賛 後援 愛知県教育課・犬山市教育委員会・北名古屋市教育委員会・小牧市教育委員会・尾張旭市教育委員・瀬戸市教育委員会 その他 えんとつ町のプペル展支援委員会・TEAM ROCKBEAST
事業対象者	春日井青年会議所会員・春日井市民及び近隣市町村民
行動 (ACTION TAKEN)	2016年10~12月 10月の予定者会議に討議上程し登録料収入の可否を中心に事業内容と予算の精査。当初年間スケジュールの予算組みの変更。春日井市と共催事業として運営できるかの協議と確約。 講師の著書や講演に参加し事業内容に即したお話をいただけるか確認。 2017年1~2月 外部の協力団体や後援依頼をする機関への確認及び打合せ。 2017年3月 協議1 2017年4月 協議2 2017年5月 審議 2017年6~8月 プレスリリースの発行及びメディア対応。 近隣6市町村にある小中高校・大学・幼稚保育園へのチラシ配布。 協力企業や店舗へポスターの掲載依頼とチラシ配布。 関連団体との打ち合わせ。 講師やパネリストと講演内容の打ち合わせ。 備品等の手配。 2018年9月 事業本番

<p>結果 (RESULT)</p>	<p>「えんとつ町のプペル」光る絵本展 in春日井では初日に150名程度の動員でしたが、ご来場いただいた方々の口コミやSNS上の拡散により、日に日に来場者が増え結果として10日間で8000人弱の方に参加して頂きました。理事会等でも確実に差異が発生してしまう事業であることや、ターゲット層の幅が広いことなどが課題としてフォーカスされていましたが、作品展示と講演会を一つの事業として行うことで事業目的を幅広い方々に落とし込むことができました。</p> <p>収支差異が大幅に発生してしまったものの当初の予測以上にご来場いただいたことや、中には開催期間中に3回も足を運んでくださったご家族もおり、この事業で伝えなかった想いが伝わっていることに実感となりました。</p> <p>アンケートでは事業に満足頂いた方が94.4%、具体的な行動を変えれるとご回答頂いた方が86.7%と言う結果となりました。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<p>本事業ではボランティアを募るという方法は取らず、賛同して頂いた一般の方々の方が自分達が主導となる団体えんとつ町のプペル展支援委員会を作り、JCとは違う視点で違う動きをしてもらう試みをしました。自分達でアイデアを出し実行したものには、絵本の読み聞かせや、物販やフォトコーナーの設置といった設えがありました。こういった動きを一般の方が発信して頂いたことで、公益事業は行政やJCといった団体だけでなく一般の方にも参画していただけるという認識が広まりました。</p> <p>またこの事業をきっかけに、夢や想いを応援しあえるような新たなコミュニティが生まれ、地域に根付きつつあります。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>1.実働10日間という長期事業の実現。(公社)春日井青年会議所において、過去にここまで開催期間の長い事業はありませんでした。担当の委員会だけでなく他の委員会にも負荷の大きくかかる事業でしたが、LOM全体が一つのチームとして機能したことで実現できました。</p> <p>2.一般の方々との協働。JCが主導のもと協力してもらうことはよくある手法ではありますが、事業のあり方を共有し一般の方々の想いやアイデアで一つの事業を作り上げるという意味での協働は今までになかった手法です。この試みが結果に繋がったことで協働の可能性が広がりました。</p> <p>3.予算において参加者に上限のない事業での登録料収入の扱い。予算額に対し差異がどの程度発生するか予測が難しい本事業は協議においても意見が賛否別れる議論がありました。改めて公益社団法人の会計について調査し、プラスの収支であれば問題にならないことを確認し審議可決に至りました。この実績によりLOMにおいての今後の事業に幅がもたらせられ、制限を考えることなく効果的な事業が考えられる基盤となりました。</p> <p>4.地域におけるJCのブランディング。LOMにおいて2017年度よりLINE@での発信が始まり、本事業において過去のJC紹介のコーナーを設け、賛同していただける方に登録の推進したところ1300人以上の方に登録をして頂くことができ、LOMの発信力が飛躍的に高まったと同時にJCという存在の認知度が高まりました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>来場者のPOSITIVE CHAGEのきっかけとなったことが根底にあり、実質的に一般市民の中から新たなコミュニティが生まれていることやLOMにおいて多くのチャレンジをした本事業が記録として残り指針を作れたことで、今後LOMだけでなくLOMを取り巻く環境の変化が楽しみです。</p>

<p>考察や推奨</p>	<p>本事業の成功と言える背景には、一般市民と協働し彼らの意欲的な行動によるところがことさら大きい要因であったと考えています。 それは彼ら自身がSNSで発信していることはもちろんだが、設えたフォトブースに来場者を誘導し家族や友人の思い出を写真に収め、読み聞かせでは感動で泣く方も多くいたほど熱の入った読み聞かせだった。もちろん我々の事業目的や事業内容に賛同し常に意思確認をしながらの設営だったので、彼らの希望を全て叶えられたわけではないが、その参加者からまたSNSの拡散があり結果として大きな動員となった。 我々と違う視点を持った個人や団体と協働することに大きなメリットあることが実証されたと言えると思います。特に対外事業に関して、事業の意志に賛同し同じ方向を向いて活動してくれる方々との協働は必用不可欠な大きな要因になるように感じます。</p>
<p>改善点</p>	<p>講演会「西野亮廣トークライブ ～道なき道の歩き方～」ではチケットは完売しましたが、1割強の方にご来場いただけませんでした。限られた席数の中でより多くの人に参加していただけるよう、キャンセルや空席が出た時の対応などを考える必要があります。 また本事業は春日井市との共催で開催しましたが、打ち合わせた内容お互いに認識の違いが発覚し混乱することがありました。行政等と共催で事業を行う際はよくよく役割における線引きの確認をした上で締結すべきだと学びました。</p>
<p>JCI行動計画の推進</p>	<p>影響力:本事業で大きなチャレンジを試みたことで、変化の激しい現代においてIMPACTを与えました。 意欲:夢や想いを実現するために行動すること、またそれを応援できる姿勢の大切さを学んできました。 投資:LOMの本会計からの事業予算はそれほど大きな予算組みではありませんでしたが、約8000人へ影響をもたらしたうえで収支はプラスという結果となりました。 協力:LOMが一丸となることで事業を実行し、行政や一般市民と協働することで協力関係を強固なものにしました。 つながり:既存や新たな多くのつながりがあったからこそ為し得た事業ですが、LINE@などでも市民と直接つながり発信力を高めました。</p>
<p>JCI VISIONの推進</p>	<p>本事業内容においても能動的な行動を啓発し、参加者の多くからJC運動の賛同をいただきました。</p>
<p>JCI MISSIONの推進</p>	<p>市民の協働することで、想いに対し積極的にチャレンジする機会を提供しました。</p>
<p>JCI申請の意思確認</p>	<p>検討している</p>
<p>その他</p>	<p>本事業では多くのことにチャレンジしましたが、最大の成果としてはチャレンジし、それを形にできたことにあると考えています。それは今後のLOMメンバーにとって過去にやったことのあるという実績はやれない理由ではなく制限のないチャレンジをする自信になると考えています。何よりも一緒に切磋琢磨して共に作り上げたLOMメンバーの今後の事業を考えるうえでの指針になれたのではないかと感じています。 試みたいくつかのチャレンジは、変化の激しい現代においてJCの課題になっている事柄であると考えています。積み重ねてきた歴史に敬意を払い、同時に変化していく現代社会にマッチした事業構築とそれを可能にする最適化した仕組みが必要であると感じています。LOMにとって未来にコミットする一歩となる事業となりました。</p> <p>https://youtu.be/Lac.RMu_DGg</p>
<p>添付資料</p>	<p>添付資料1 添付資料2 添付資料3</p>

エントリー内容 No11	
事業名称	2月度例会 WhiteValentine Happy popday~はじける愛で感謝を伝えよう~
申請部門	LOM成長部門
申請LOM	公益社団法人 春日井青年会議所
理事長名	川村吉秀
申請担当者	金子 裕貴
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 109名 参加率 71.00% 関係者数 30名 一般参加数 800名
事業実施に至った背景	<p>地域の為に活動を行う団体が数ある中で、未来への学びを見据えた青少年育成やまちの発展を思い政策を考え実行し、パッケージ化して行政へと渡したいという思いのもとで、自分たちの資金により活動しているのは青年会議所のみであると考えます。「JC」という名を知って頂き、運動に共感してもらう為に、まずは参加への入り口を作る必要があると考えます。そこで行政の共催や各地域の大学、店舗等と協力し、プロジェクションマッピングという目立つ事業を行う事でまちや市民へと訴求する必要性がありました。また、2018年最初の公益事業として、メディアへの露出の方法や、SNSを使っの広報活動の指針となる事業が必要だと考えます。</p>
事業の目的	<p>対外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業を通して春日井に関心をもってもらい、春日井JCの事業に触れることで、周知しファンを増やしていきます。 ・学生や人々の参加により一緒にイベントを盛り上げることで、存在意義を感じ、明るい未来への活躍のきっかけとなり、若年層～幅広い層へ向けて春日井JCの存在価値を周知してもらいます。 ・人々に喜んでもらう入口として話題をつくり、メディアの露出につなげます。 ・一般の方の参加により家族や仲間にも枝わかれして拡散でき、沢山の年齢層へ周知してもらえます。 ・市民の方が自分のSNSに写真をアップしてもらうことで、拡散してもらえます。 <p>対内</p> <p>ブランド強化していくために、この事業を通してLOMメンバー全員がSNSを使った広報活動に参加することにより身近な人びとから多くの人々に情熱を発信するため、拡散の方法を学んでいただきます。</p>

<p>事業の概要</p>	<p>【光の祭典】 プロジェクションマッピング 名古屋造形大学メディアデザインコース学生の協力の元、ValentineとWhitedayの間の時期にちなんで、愛する人たち、育ててくれたまちへ感謝するという内容の上映しました。イルミネーション、光のトンネル、光るバルーンで冬の幻想的な会場を彩りました。</p> <p>【音の祭典】 8組の一般市民のバンドや、楽器演奏者の協力により、冬の寒さも感じさせない音楽フェスで会場に温かな時間が流れました。</p> <p>【メッセージカード作成(サンドアート)】 はじける愛で感謝をテーマとし、愛する人々や、仲間、育ててくれたまち、関わる全てのことに感謝を伝える日とし、サンドアートでメッセージカードを作成しました。</p> <p>【インスタ映えコーナー】 SNS映えするコーナーを作ることで人々が集まり、写真の投稿、拡散してもらうことで春日井JCを周知してもらいます。幅広い年齢層の人々の参加により、世代が違っても活躍や交流の場ができ、作品を通して、沢山の方と触れ合うきっかけとなることで、春日井の魅力の1つ、JCがあり、いいまちと感じてもらい、存在価値を上げることで、周知につながります。ポップなバルーンなどでインスタ映えコーナーを設け、地域の幼稚園やデイサービスの協力の元、インスタ映え作品を展示することで、SNS投稿、拡散につながり、JC活動により興味をもってもらえました。</p> <p>【ポップコーン】 White Valentine Happy popdayには愛する人びとと一緒にポップな弾む気持ちでポップコーンを仲良くつついて愛や感謝を育んでもらいます。</p> <p>アンケート、Facebook「いいね！」してもらってから、ポップコーンをプレゼントします。</p> <p>White Valentineと言えばポップコーンで、愛する人びとに感謝を伝える日を定着させるため、SNSなどを使って、発信していきます。</p> <p>【アンケート】 集客についてのアンケートを行い、対外広報の事業結果を検証します。</p> <p>アンケートにお答えいただいた方に、恋みくじ、インスタ映えするカラフルポップコーンを配布することで、沢山のアンケートをいただきました。</p> <p>【SNS投稿】 SNSで宣伝することで、身近な友達から拡散してもらい、より多くの方に周知してもらいます。</p>
--------------	---

開催期間 タイムスケジュール	2018年2月25日(日) 16:00~19:00
開催場所	春日井市役所南側 文化フォーラム前
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	¥1,350,000- 当初のプロジェクトマッピングの見積もりは300万円を超えるものだったが、市の共催をもらい、市役所広場にて投影をすることと、制作を依頼した名古屋造形大学様に、学生主体での作成(ゼミでの活動)をお願いしたことにより、プロジェクトマッピングを機材や技術料込みで108万円にて行って頂けることになった。残りの27万円で音響や会場の装飾、寒さ対策としてのコーヒーの配布等を行った。全てを市内の業者に依頼することで、比較的安価に行う事ができた。
SDGs	11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナースhipで目標を達成しよう
協力団体	共催 春日井市 協賛 後援 その他 名古屋造形大学、名古屋市立大学アカペラサークルAndante(龍侍、Cresc. moon、Luce)、T&T PROJECT、トロンボーンカルテットガイオ、トラベリンバンド、フェライト、三ツ星幼稚園、デイサービスあさみや、3BLACK S、Do!ミュージック、バルーンスタジオuku
事業対象者	全国区および近隣の人々
行動 (ACTION TAKEN)	【会場】 ・春日井市役所、文化フォーラム上映場所(2017年9月下旬~2018年2月中旬 打ち合わせ期間) ・光るバルーン、イルミネーションLOMメンバーで装飾 ・プロジェクトマッピング 名古屋造形大学メディアデザインコース学生の協力の元、ドローンで春日井の町並みの映像や、グラフィック映像を制作。(2017年9月下旬~2018年2月中旬 打ち合わせ開始~名古屋造形大学映像作成期間) ・光のトンネル 委員会で作成(2018年1月28日~2月18日) ・楽器演奏者、BAND、学生アカペラ募集(2017年10月~2018年1月) ・三ツ星幼稚園園児による「ハートで感謝」のテーマでインスタ映えパネルの作成。デイサービスあさみや利用者のお年寄りによる「和の心」をテーマに、折り紙で毬、傘、鶴、亀などのアート作成。(2017年12月~2018年2月) 【SNS】 Facebook、インスタグラム、Twitter、LINE@、YouTubeでの告知、投稿、拡散。(2018年1月~2月) 【広告】 ・ポスター 市内外の施設、駅、店舗に掲示・月間はるる(フリーペーパー2月号掲載)・中日新聞(1月31日近郊版掲載)・まいぶれ(SNS地域情報サイト掲載) ・くらしのニュース(4月、事業後の掲載)・CCNet(3月19日事業後の放送)・広報春日井(2月号掲載)

<p>結果 (RESULT)</p>	<p>【対外】多くの人に関心をもってもらい、周知し、ファンが増えました。 【対内】SNSを使って広めることにより、存在意義やブランド強化の意識を自覚しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクションマッピング 人々に喜んでもらう入口として話題をつくり、メディアの露出にもつながりました。若年層～幅広い層へ向けて春日井JCの存在価値を周知してもらえました。 ・音の祭典 学生や人々の参加により一緒にイベントを盛り上げることで存在意義を感じてもらい、春日井JCの事業に参加して良かったと言ってもらえました。春日井JCの存在価値が上がりブランド強化につながりより周知してもらえました。 ・メッセージカード作成 サンドアート サンドアートに参加する前に、LINE@登録してもらい、登録数が増えました。春日井JCの事業にかける思いや情熱の発信につながったと思います。 ・インスタ映えコーナー 展示スペース フォトコーナー SNS映えするコーナーを作ることで人々が集まり、写真の投稿、拡散してもらうことで春日井JCを周知してもらえました。幅広い年齢層の人々の参加により、世代が違って活躍や交流の場ができ、作品を通して、沢山の方と触れ合うきっかけとなることで、JCがあり、いいまちと感じてもらい、存在価値が上がり周知につながりました。 ・SNS広告 SNSで宣伝することで、身近な友達から拡散してもらい、より多くの方に周知してもらえたと思います。 今年度1月からPRや告知しました。 LINE@(登録数 1,300人)→登録数 1,400人(8%アップ) Facebook→事業前掲載 1月13日(746人観覧)、16日(1,757人)、29日(390人)、2月1日(684人)、7日(1,340人)、15日(1,923人)、22日(412人) 当日掲載 25日(242人) 事業後掲載 3月8日(946人) YouTube→動画(93回観覧) ・アンケート調査 集客率や目的が達成できたかの検証やイベントの周知につながったかの検証しました。周知にはつながったと思います。
<p>地域社会への影響</p>	<p>事業前のSNS投稿、中日新聞などのメディア掲載で春日井初の事業が話題になり、春日井JCの存在を周知していただきました。事業後のCCNet放送などの反響も沢山あり、他団体などからも参考に話を聞かせてくださいと、多くの問い合わせがあり、春日井JCから沢山の発信ができ、多くの人をつなぐことができました。 各地域の市民の方々の協力や参加により、それぞれが存在意義や、存在価値などを感じることができました。 園児から、高齢者の方まで世代を超えて幅広く発信することで、沢山の夢や希望につなげ、明るい未来を見据えた事業になったと思います。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>(公社)春日井青年会議所50周年の最初の事業ということで、春日井JCを発信していく第一歩であり、多くの方に周知してもらいファンを増やすという目的で事業展開致しました。参加していただいた方にとってもいい評価をしていただき春日井青年会議所50周年のスタートとして、存在価値を上げる事業となりました。 この事業の発信を主にSNS中心に行うことで、LOM全体での情報発信になり、意識改革につながりました。 今後の発信もSNSを中心に幅広い年齢層に届けるため、新たな広報活動として取り組んでいく必要があると確信しました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>名古屋造形大学学生との春日井初の大型プロジェクションマッピングにより、数々の話題になり、幅広い年齢層の方々に周知してもらいました。 春日井市内外の地域の団体などから問い合わせがあり、多くの架け橋になることができました。事業に参加して頂いた方からも、これからはやってほしいというアンケートも沢山頂き、このまちに春日井JCがあつてよかったと、なくてはならない存在となりブランド強化につながりました。 SNS発信により多くの方に情報を届けることができ、LINE@の登録数アップにつながり、今後の活動の広告に役立ちます。</p>

<p>考察や推奨</p>	<p>多くの人々を巻き込み参加型にすることで、春日井青年会議所と一緒に創るイベントとなり、普段では経験できないことを進めていく協働という新しい挑戦になりました。市民の方には春日井のまちが活気づいて良かった。毎年やってほしいというアンケートを沢山頂き、この事業を通じて明るい未来の実現ためには、今、人々やまちのために何ができるか、何をすべきか、どうやって協働していくかなど考え、この経験を活かし今後のより良い活動に役立てます。</p>
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを使用しての告知という手法は、本年度の運動に沿った方法ではありませんが、2,000人という動員目標に対しては物足りなかったと感じます。幅広い年齢層に発信するという意味では、SNSメインでの告知では携帯やパソコンを持っていない方には届かず、小学校などにチラシでの告知も必要だったと思います。 ・作成コーナーがもっと沢山あるといいというご意見が多数ありました。今回は予算の都合もあり、当初委員会で考えていたよりも体験や制作コーナーを削減しましたが、そのブースが目的達成を担う手法にもなり得るのであれば、しっかり事業に組み込むことが必要。又、参加者の方にとっても色々あった方が、より楽しみや学びを得ていただけますし、全時間を通して有意義に参加してもらえます。 ・メンバーに対しても、SNSの使い方をしっかり把握してもらい、理解してもらうことができれば、全体拡散ができると思います。 ・冬の夜に野外での開催という初めての時間軸での事業の開催をさせていただきましたが、当初よりの懸念通りのご指摘をいただくこととなりました。今後、同じ時間軸での開催を考えているのならば、自分たちが思っている以上に寒さ対策をしっかりやった方が、より沢山の人に参加してもらいやすいと考えます。 ・飲食ブースがあるといいというご意見が多数ありましたが、今回は場所が市役所の持ち物ということもあり許可が必要でした。又、金銭授受が発生するかどうか論点になります。関係各所との交渉次第では、許可がおりることもあると思うので、想いをしっかり伝えるべきだと思います。
<p>JCI行動計画の推進</p>	<p>COLLABORATE 協力 予算として支払いという形式は当然とったものの、当初や合い見積りの金額より大幅に減額頂いた点においては、民間事業者(学校法人)と協力・協働したといえると考えます。実に200万円超を協力頂く事となりました。また、行政においても共催という協力関係を結んだことで、場所の提供のみならず、実際に投影する建物である文化フォーラムや、交通面の近隣住民への配慮としての警察組織との橋渡しを行って頂くだけにと止まらず、広報にも非常に協力的に活動を行なって頂く事が出来ました。この「協力」は、今まで事業で使用できなかった場所を今後も使用できる可能性を創り、事業予算においても、本会計で足りないと考えてしまう部分を、市民参加のクラウドファンディング以外の道を創ることができたと思います。</p>
<p>JCI VISIONの推進</p>	<p>市民活動をつくるのは、まさしくその地域に住まう青年です。今回の事業においては、メインであるプロジェクションマッピングの作成・投影を名古屋造形大学の学生に、この事業の狙いを伝える事で日々の生活ある事への感謝を考えてもらい映像にするという行動を起こしてもらいました。また、音楽ステージや作成ブースにおいても事前・当日に限らず、イベントの趣旨を理解してから行動していただくことにより、市民により構築された事業であると言えます。</p>
<p>JCI MISSIONの推進</p>	<p>積極的な変革という点において、バレンタインデーとホワイトデイの間に新たなホワイトバレンタインという家族への感謝、日々の暮らしがある事への感謝を伝える日を創ろうという行動を起こしました。また、青年会議所メンバーにおいても今までのチラシとポスターに頼った集客から脱却し、SNSを多分に使用することで多くの方に情報を届けるという点で挑戦をしてもらいました。SNSの発信という点においても能動的に行動しなければ結果は伴わないことから、JCIミッションを推進したと考えます。</p>
<p>JCI申請の意思確認</p>	<p>検討していない</p>

<p>その他</p>	<p>バレンタインデーは好きな人にチョコレートを渡し、愛の告白をする日。ホワイトデーはそのお返しにキャンディなどを渡す日。 ValentineとWhitedayの間の時期にちなんで、この日を「White Valentine」＝日々の暮らしや家族に感謝し、皆でポップコーンをつつく日として春日井JCから発信し定番化させたいという思いで、この事業を行いました。 「White Valentine」は関わる全てのことに感謝を伝え、育ててくれたまちや愛する大切な人びとと一緒にポップコーンをつつきながら、はじける愛で感謝を伝えるというテーマの元、参加して頂いた方にもその趣旨を伝え、「Happy popday!」の愛言葉を伝えていただきました。</p>
<p>添付資料</p>	<p>添付資料1 添付資料2 添付資料3</p>

エントリー内容 No12	
事業名称	解散まで五秒前!!!なるか!?200%拡大の軌跡
申請部門	LOM成長部門
申請LOM	一般社団法人 新城青年会議所
理事長名	浅岡大士
申請担当者	佐野 潤
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 5名 参加率 60.00% 関係者数 52名 一般参加数 17名
事業実施に至った背景	当LOMは、解散の危機的状況の中、それでも前進すべく会員拡大を目指していかなくてはならない。
事業の目的	会員拡大。
事業の概要	東三河5JC広域問題研究会の事業『第5回広域事業 東三河の経営者に喝(カツ)経営の美味しいコツ教えます』とタイアップし、講師である株式会社矢場とん三代目鈴木拓将氏を講師として呼びし、その後に来場者と名刺交換会をすることによって、入会候補者をピックアップする。 それを皮切りに、平成30年度は毎月異業種交流会を開催し、適宜拡大セミナーも行う。
開催期間 タイムスケジュール	平成29年11月13日～平成30年7月
開催場所	新城市観光ホテル 2階会議室愛知県新城市字笠岩11-1 及び新城市内各所
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	一人当たり金2000～4000円負担する飲食費実費のみ(参加者に負担とならない費用として低額な予算で執行しました。)
SDGs	8. 働きがいも経済成長も 11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう

協力団体	共催 協賛 後援 その他 協力 公益社団法人豊橋青年会議所、一般社団法人豊川青年会議所、一般社団法人蒲郡青年会議所、一般社団法人田原青年会議所、東三河5JC広域問題研究会
事業対象者	入会候補者、拡大担当者
行動 (ACTION TAKEN)	当時当LOMは会員減少により、単独での事業開催が困難な状況にありました。そのようななか、公益社団法人豊橋青年会議所メンバーの有志からの応援、東三河5JC広域問題研究会との共催により、講師の手配、集客を行うことができました。
結果 (RESULT)	本事業により、平成30年1月に、候補者を1名獲得することができました。その後の継続的な拡大活動により本年度7月31日までに新入会員を7名獲得しました。
地域社会への影響	先述の通り、解散危機にあるLOMに対し、会員が増えるということはOBにとって衝撃でした。
LOMへの影響	拡大に関し、現役会員のやる気ができました。 本事業を皮切りに、本年1月から7月31日に至るまで、毎月1回異業種交流会を開催することになりました。 また、本年2月は上田博和先輩をお呼びした会員拡大決起集会、7月は、中田善弘先輩をお呼びしたセミナーを開催し、近隣LOMを巻き込んだ拡大に関する事業を行うようになりました。
事業の長期的な影響	今後も異業種交流会を続け、会員増強に努める。
考察や推奨	拡大は、候補者に会って見ないとわからない、やってみないとわからないことが多くありました。 そこで、本事業を皮切りに、本年1月から7月31日に至るまで、毎月1回異業種交流会を開催することになりました。 また、本年2月は上田博和先輩をお呼びした会員拡大決起集会、7月は、中田善弘先輩をお呼びしたセミナーを開催し、近隣LOMを巻き込んだ拡大に関する事業を行うようになりました。
改善点	異業種交流会の開催に際しても、参加メンバーの固定化、リストの固定化や頭打ちになってしまいます。 そこで、定期的に会員拡大の研修会、セミナーを開始してメンバーのモチベーションの維持、向上を図る必要があります。

JCI行動計画の推進	<p>意欲 本事業を皮切りに、当LOMの拡大に関する意識は180度変わりました。</p> <p>協力 近隣LOM、諸団体の協力を得るようになりました。</p> <p>つながり 本事業により、新城青年会議所は孤立しているのではなく、他のLOM等々と協同して歩めることを確信しました。</p>
JCI VISIONの推進	空欄
JCI MISSIONの推進	地域に住まう青年経済人にセミナー開催、青年会議所への入会を促すことにより、能動的に活動する機会を提供しました。
JCI申請の意思確認	検討している。
その他	<p>当LOMは平成30年1月1日の期首メンバー5人(監事を除く)でした。しかし、現在は12名となり、現在も拡大に奮闘中です。</p> <p>毎月の異業種交流会、時期に応じたセミナーにより、さらに拡大に邁進していきます。</p>
添付資料	添付資料1

エントリー内容 No13	
事業名称	「挑戦sympathy～仲間がいれば何でもできる～」
申請部門	LOM成長部門
申請LOM	一般社団法人 田原青年会議所
理事長名	安田 弦矢
申請担当者	藤江 信彰
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 34名 参加率 69.40% 関係者数 0名 一般参加数 0名
事業実施に至った背景	人間関係が希薄になりつつある現代社会において、出会いを活かす大切さに気付いてない人が多くなっているように感じます。一期一会という言葉が簡単に使われる機会が多くなっている今だからこそ言葉が独り歩きするのではなく、その重要性を理解し、お互いのことを知り共感しあえる感受性を今まで以上に磨く必要があると考え、事業実施に至りました
事業の目的	共感し合える仲間の大切さに気付くことを目的とします。
事業の概要	①豊田から伊良湖まで聖火リレー ※愛知ブロック豊田大会が終わった直後に次年度田原大会へ向けた想いを繋ぐため、聖火リレーによってメンバー間の絆を深めることができる。より多くの会員で想いを共有する為、豊田から田原まで2日間に分け、公開委員会にてリレーを実施する。当日は8チームに分け各チーム1kmずつを走り交代でリレーを行う。バトンリレーは聖火とタスキで行い、その他のメンバーはハイタッチをする。タスキには一人ひとりのブロック大会への想いを書いてもらいゴールまで想いを運ぶ。 ②豊田から田原間のリレー映像を上映 ※公開委員会に参加出来なかったメンバーを含め映像を上映する事により、本例会に至るまでの過程や想いを共有しメンバーのモチベーションを高めることができる。なお撮影は安全を考慮しスタート、ゴール、リレーポイント、走行者前方定点カメラにて行う。 ③聖火台への点火 ※点火者は理事長とし、豊田からメンバーで繋いだ想いを目に見える形で表現する事により、事業の達成感を共有することができる。また、田原大会へ向けたメンバーの意識を一つにすることができる。
開催期間 タイムスケジュール	2017年09月23日(土)13:00～18:30 ※第1回公開委員会 2017年9月9日(土) 豊田スタジアム～ファミリーマート岡崎根石町店 ※第2回公開委員会 2017年9月12日(火) ファミリーマート岡崎根石町店～セブン-イレブン豊橋杉山町店 ※第3回公開委員会 2017年9月19日(火) セブン-イレブン豊橋杉山町店～田原文化会館
開催場所	愛知県豊田市から愛知県田原市(伊良湖岬)
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業

事業総予算・収支	<p>総予算：80,000円</p> <p>会場設営費：3,000円 企画演出費：63,135円 諸謝金：10,000円 印刷製本費：490円</p>
SDGs	特になし。
協力団体	<p>共催</p> <p>協賛</p> <p>後援</p> <p>その他 なし</p>
事業対象者	会員
行動 (ACTION TAKEN)	<p>2018年度愛知ブロック大会を主管するにあたり、会員の結束と意識向上を目的にした事業を行いたいと考える。</p> <p>その為には一つの目標に対し、思いを共有する必要があると考える。</p> <p>2017年度愛知ブロック大会の会場である豊田スタジアムから田原までの道のりを全会員がタスキを繋ぎ、聖火リレーを行う事業を企画立案する。</p>
結果 (RESULT)	<p>三度の公開委員会には上記34名に加え6名の会員が参加していただきましたが、我々のお願いの仕方にも「例会当日が難しいようであれば、公開委員会でも」という案内をしたところがあり、最終的な例会当日の出席率が伸びなかった原因になってしまったように感じます(事業へ関わっていただいたのは40名、81.6%の方にご参加いただきました)。やはり例会当日にも少しでも顔を出していただきたい旨をしっかりと伝えなければならぬと感じました。</p>
地域社会への影響	<p>直接的な影響はないが、この事業を通じてLOMの結束力が増し、今後の事業に対してより積極的に会員が関わるようになれば、地域にとっても大きな影響をもたらすことが期待される。</p>
LOMへの影響	<p>一つの目標に対し、共に励まし合い、苦楽を共にすることで団結力がより一層高まったと感じる。</p> <p>今後の事業に対してもこの事業で得られた団結力を発揮し、今まで以上の効果を生むことが期待される。</p>
事業の長期的な影響	<p>2018年度の愛知ブロック大会へのモチベーションを持続させることはもちろん、他の事業に対してもLOMが一体となって取り組むことにより、田原青年会議所の存在意義と価値を地域の方に示していけると確信する。</p>
考察や推奨	<p>この事業で高まった気運を持続させ、さらに高めていく為にも今後の事業や活動をしっかりと行うことが必要である。</p> <p>愛知ブロック大会を成功させるだけでなく、他の地域に対して田原青年会議所の底力をしっかりと見せていく。</p>

改善点	夜間の安全面 参加出来なかった会員に対して同じモチベーションを持ってもらうための工夫が必要である。
JCI行動計画の推進	COLLABORATE(協力) 会員間の絆を育むことができた。
JCI VISIONの推進	LOMの結束による今後の事業の効果を増大させ、それが延いては主導的なグローバル・ネットワークにつながる。
JCI MISSIONの推進	会員の意識向上やLOMとしての強い絆を育む機会となった。
JCI申請の意思確認	検討していない。
その他	特になし。
添付資料	添付資料1

エントリー内容 No14	
事業名称	ミライシゴト～無くなる生まれる波に乗る～
申請部門	LOM成長部門
申請LOM	一般社団法人 豊川青年会議所
理事長名	夏目喬之
申請担当者	高桑利季
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 79名 参加率 67.00% 関係者数 53名 一般参加数 0名
事業実施に至った背景	AI、IOT、ビッグデータといった技術革新による第4次産業革命など経済社会の構造は大きく変化していくことが予想されています。技術革新が今後どの様に変化するのかを学び、社会構造はどう変化していくかを予想し対策を講じる必要があるのではないのでしょうか。AIロボの働く姿を肌で感じた際に、開いた口が塞がらないでは遅いのです。テクノロジーが加速度的に発達する今だからこそ、人が持っている可能性や価値を改めて認識する好機と捉え、今後来るであろう時代に「先まわり」し備える必要があるのです。
事業の目的	技術革新により来るであろう社会構造の変化に対して、柔軟な思考を持って、率先して変化の先頭に立ち、「先まわり」できる人材となることを目的とします。
事業の概要	<p>【事業概要】 本例会は、豊川青年会議所のメンバーにAI・IOTなどの技術革新を学んでもらいます。経営資質の向上のために近い将来起こりうる変化に柔軟に対応することのできる人材となるべく、未来へとつながる例会を実施します。</p> <p>【例会全体概要】 AI、IOTなどの技術革新が進みます。まずは技術革新による予想されている職業の在り方や、社会がどう変化していくか講師をお招きし学びます。さらに配布資料にて予想される変化などのイメージを膨らませてもらいます。メンバーは講師の話と、配布資料を参考にして自身の仕事が技術革新によりどう変化していくのかを創造し、社業を発展させるために今後すべきことを用紙に記入してもらいます。それをグループで発表し意見交換することで様々な角度の発想、思考を共有します、その後各グループの代表を選出します。グループにて代表者の発表内容をメンバーで話し合いさらに深堀します。代表者が登壇し創造したことをメンバーに発表し、最後に講師に意見を仰ぎます。産業別に考えることで、実際に「先まわり」すべきことを自分の身に置き換えて考えやすい環境を整え、メンバー同士で深堀し、さらに講師からのコメントを頂戴することで、2段階で深堀が出来る手法をとりました。</p>
開催期間 タイムスケジュール	2018年02月22日(木)
開催場所	豊川市商工会議所
事業区分	新規

公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	予算15万円のうち講師講演関係費が約14万円を占めました。限られた予算の中で最適な講師を呼ぶ点を工夫致しました。
SDGs	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
協力団体	共催 なし 協賛 なし 後援 なし その他 なし
事業対象者	豊川青年会議所会員
行動 (ACTION TAKEN)	まずは委員会におけるメンバーの技術革新に対する知識の底上げを図りました。 今ある技術革新について説くことができ、そして、数十年後の未来はこうなっているだろうと予測の出来る講師を選定することといたしました。講師と打ち合わせを重ね、豊川青年会議所メンバーの仕事をピックアップして考えられる産業の変化、仕事の変化をこちら側で予想をしまとめました。
結果 (RESULT)	1. 参加者の70%が技術革新時代をチャンスと捉える事が出来た 2. 目標の80%に届かなかった 3. アンケート 4. アンケート
地域社会への影響	メンバーが最新の技術革新を学び、自身の仕事が数十年後どう変化するのかを予想することにより、そこで出てくる社会問題を自身の仕事がどのように解決できるかを考える機会となった。常にアンテナを高く張りめぐらすことにより変化の先頭に立つチャンスが地域に影響をもたらす。
LOMへの影響	改めて自身の仕事と向き合う機会になり、自社の強みというものがあるのかどんな社会問題を解決出来るのか考える機会となった。
事業の長期的な影響	参加者が技術革新から取り残されることなく、常に技術革新に対してのアンテナを張るきっかけとなりました。 そして社会問題を解決するという切り口から繁栄の糸口を見つける影響を及ぼすと考える。
考察や推奨	次の行動としましては、考え付いた自社が解決する社会問題を関係する企業に投げかけて、実用性があるかどうかというステップを踏む。
改善点	技術革新をより身近に感じて頂けるように現物等を準備することが出来ればより良い改善策であると考えます。
JCI行動計画の推進	変化の先頭に立とうとする意気込み！

JCI VISIONの推進	新時代をイメージし、未来に期待し、今後数十年後を担うのは我々であることを例会内で意識付けをした。
JCI MISSIONの推進	技術革新および新しい時代を恐れるのではなく、前向きにチャンスと捉えられる様に自社の強みと向き合え社会問題を解決するという観点で発展の機会を設け推進した。
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	特になし。
添付資料	特になし。

エントリー内容 No15	
事業名称	6月例会主題「広く世界に目を開こう」
申請部門	LOM成長部門
申請LOM	一般社団法人碧南青年会議所
理事長名	杉浦友則
申請担当者	杉浦晴太郎
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 24名 参加率80.00% 関係者数1名 一般参加者40名
事業実施に至った背景	日々、行政に対して、または地域に対して、今必要と考えられる運動を率先して展開している我々ですが、ふと立ち止まって振り返ってみると、一番身近な方からの理解が浅い事に気が付きました。一番身近な方に応援をして頂く事が、明るい豊かな社会の創造の土台だと信じ、日頃地域の皆様に提案している事を、一番身近な方に体感頂く必要があると考え、本例会主題を企画致しました。
事業の目的	一般社団法人碧南青年会議所メンバーの一番身近な方に、碧南青年会議所をより深く知って頂くこと。
事業の概要	<p>碧南市の偉人 藤井達吉は太平洋戦争の疎開時に豊田市小原地区(旧小原村)の和紙工芸に出会いました。達吉は小原和紙の質の良さに目をつけ、「こういう良い物はもっと広めなければならない。」と考え、村人と共に小原の和紙工芸の地位確立に奔走した人物で、小原の和紙工芸の現在の基礎を築いたのが達吉であることは周知の事実です。そんな郷土の偉人について、当然碧南市内で学ぶことはできますが、達吉が奔走した地に足を運び、見て・聞いて・触れて・体験して・感じる事が重要だと考え、メンバーの一番身近な方を豊田市小原地区にお連れし、クイズ形式で碧南と小原の関係や藤井達吉と小原の和紙工芸について理解を深めて頂きました。そのうえで色和紙漉きを行い、それを用いてうちわを製作し、どのような思いを込めて紙すきをしたか等を全員で共有し、自分の中に無い価値観を発見して頂きました。そして、事業のまとめとして次の事を訴えました。「本日体感して頂いた事は日頃の活動のほんの一部であります。今何が必要か、何故それが必要かを考え、会議という手法を用いて、考えを明確にし、問題点を洗い出し、様々な下準備をして本日を迎えました。我々は今以上にこの世の中を良くする為に日々青年会議所活動を行っています。必ずこの行動が世の為、人の為になると信じています。ですから、あなたの一番身近な方(メンバー)が、今日は青年会議所活動だと言って家を出るときには、気持ちよく送り出してやって欲しいと思います。メンバーの中には、活動内容等をあまり説明せず、何をやっているのか分からないと感じていらっしゃるかもしれません。説明不足な部分は本日から責任をもって改善をして行きます。ですから、青年会議所(JC)と聞こえてきたら耳を背けるのではなく、積極的に話題に上げて頂きたいと思っております。不器用なメンバーも多く、日々ご迷惑をお掛けしているかもしれませんが、我々の活動を応援して頂けたら幸いです。今後とも碧南青年会議所を宜しくお願い致します。」</p>

開催期間 タイムスケジュール	2018年 6月17日(日) 13:10~16:00
開催場所	豊田市和紙のふるさと 愛知県豊田市永太郎町洞216-1
事業区分	新規
公益・共益区分	共益事業
事業総予算・収支	<p>予算上の工夫 主題会場費がかからないように工夫しました。体験会場の付帯設備をお借りし、お披露目会の会場に利用しました。移動が少なく、参加者の体力的負担を軽減できました。。</p> <p>○収益 事業繰入金 11,000円 登録料収入 33,000円 合計 44,000円</p> <p>●支出 会場設営費 5,600円 セレモニー会場 3,600円(小原に移動前に碧南で開催しました) 主題看板 2,000円 企画演出費 35,246円 スケッチブック 2,246円 色和紙漉き体験 33,000円 保険料 2,000円 合計 42,846円 収支差額 1,154円</p>
SDGs	特になし。
協力団体	共催 無し 協賛 無し 後援 無し その他 無し
事業対象者	対内対象者:一般社団法人碧南青年会議所全メンバー 対外対象者:一般社団法人碧南青年会議所メンバーの一番身近な方
行動 (ACTION TAKEN)	<p>メンバーの一番身近な方が、青年会議所活動に対して、又は碧南青年会議所に対してどの様な印象を持っているのかを調査することから始めました。一番身近な方との会話の中に、「青年会議所」、「JC」といったワードはあるのか。そのワードが出た時や活動日前後の反応を聞く中で、あまり理解が得られていないことが判明しました。その調査結果を基に、何をすべきか考えたところ、日頃地域の皆様に提案していることを体感して頂く事が最善の策だと考えました。そして郷土の偉人を取り上げ、その人が奔走した地に足を運び体感することで、日々の活動への理解が得られとの答えに辿り着きました。</p>
結果 (RESULT)	<p>複数の短い文章になるように下記項目毎に簡潔に記載。</p> <p>1. 目的がどのくらい達成できたか 例会以降の活動日には、メンバーを快く送り出してくれるようになりました。よって達成率は100%以上ではないかと考えます。</p> <p>2. 上記の結果の想定外の結果 当日、一番身近な方同行で参加したメンバー全てに、上記の効果があったこと。</p> <p>3. 上記の結果の確認方法 メンバーの表情と、一番身近な方との会話内容。</p> <p>4. 検証結果 120%の目的達成率</p>

地域社会への影響	一番身近な方からの理解を得られたメンバーが、今まで以上に青年会議所活動に励むことにより、地域社会がより良くなるスピードが加速します。
LOMへの影響	一番身近な方(今回は奥様が多い)の理解を大いに得られた事で、メンバーの出席率が上がりました。それまでは最低限の出席率だったメンバーが、今迄よりも早い時間帯から顔を出してくれるようになり、そして今までよりも長時間青年会議所活動が出来る様になりました。一番身近な方の事をLOM内で紹介する頻度が増え、それまではメンバーとメンバーの付き合いでしかなかったのが、メンバーの後ろに控える一番身近な方の様子が見える様になりました。
事業の長期的な影響	一番身近な方の応援を背に、我々が胸を張って青年会議所活動をする事が、今後碧南を発信地として、愛知、日本、そして世界をより良くするための第一歩であると感じます。
考察や推奨	メンバー各々が日々の活動を一番身近な方と積極的に話すことで、日々理解を深めて頂き、今以上に良き理解者(ファン)になって頂く必要があると感じます。私生活、仕事、地域での活動、青年会議所活動をそれぞれ分けて考えるのではなく、全てが自分を構成する要素であることを理解し、全ての事を日々の会話の話題に上げる事が重要だと感じます。
改善点	碧南にゆかりのある人物や地域を取り上げ、実際にその地に足を運び、見て聞いて体験して肌で感じることは大変有意義です。今回は一番身近な方に我々の日頃の活動を深く知って頂く手法として「碧南と小原」「藤井達吉と和紙工芸」を取り上げましたが、今回の内容を碧南市内の児童や生徒に広く提案すると大変良い効果があると感じます。その際は碧南市教育委員会、碧南市校長会や碧南市友好親善協会と連携を図ると事業の運営がし易いものと考えます。
JCI行動計画の推進	特になし。
JCI VISIONの推進	特になし。
JCI MISSIONの推進	特になし。
JCI申請の意思確認	検討している。
その他	特になし。
添付資料	添付資料1 添付資料2 添付資料3

エントリー内容 No16	
事業名称	3月度例会～ワールドキッチン2018～
申請部門	グローバル部門
申請LOM	一般社団法人 小牧青年会議所
理事長名	日下 史諭規
申請担当者	佐藤 君治
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 23名 参加率 62.10% 関係者数 0名 一般参加数 23名
事業実施に至った背景	<p>小牧市には多くの外国人が住み暮らしておりますが、生活環境や文化の違いから日常生活においても互いを理解出来ていない部分があります。交流を通じて多様な考えを得る機会があれば、物事に対する考え方の成長につながると考えます。</p> <p>今後自発的な交流の大切さを理解していただくことで、互いの考え方を認め合い、国際的な価値観を拡大していくことにつながると考え本例会を開催いたします。</p>
事業の目的	<p>対外) 自発的な交流の大切さを理解することで、互いの考え方を認め合い、自ら相手を知る意識を持っていただくことを目的とします。</p> <p>対内) 国際文化に積極的に触れていただくことで、自らの見識を広げることが目的とします。</p>
事業の概要	<p>各チームにてまずは自己紹介を行い、その後アイスブレイクにて交流を行っていただきます。</p> <p>内容としては、「あっちむいてほい」まずは、普通に次に世界のじゃんけんを応用して行っていただきます。この際、一例をスライドにて紹介し、各グループに参加している外国人の方に自国のじゃんけんルールを教えてください。じゃんけん一つでも国によって違いがあり、自国以外の文化に触れていただきます。</p> <p>スライドにて各国の料理のマナー等を学んでいただきます。各国には独自の文化があり、違いを知る為の機会となります。</p> <p>各国籍混合グループにて調理を行い交流していただきます。この際委員会メンバーを各グループに配置しスムーズな調理を促していきます。</p> <p>参加者の方々に例会を振り返り感想を報告していただきます。例会を通してどんな交流が出来たか、またどんな気持ちで接することが出来たかを発表していただきます。</p>
開催期間 タイムスケジュール	2018年3月18日(日) 9:30～14:58
開催場所	尾張中央農協小牧支店 愛知県小牧市小牧4丁目7
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業

事業総予算・収支	特になし
SDGs	特になし。
協力団体	共催 なし 協賛 なし 後援 なし その他 なし
事業対象者	小牧市在住の外国人30人
行動 (ACTION TAKEN)	委員会にて講師アドバイス反映及び例会備品及び予算の精査 内容精査及びチラシ校正 当日構想 参加者募集 料理研修
結果 (RESULT)	1. チーム内の外国人に対し積極的に交流をしていただき、国の違いからなる文化の違いなどの見識を広めることが出来た。 2. こちらから聞くばかりで外国人からの話しかけが少なかった。 3. 現場にて 4. 同じチームにおいては積極的に交流を行うことが出来、国際文化に触れるきっかけとなったが、違うチームへの交流を上手く促すことが出来なかった。
地域社会への影響	この例会を通じ、外国人の方は、言葉の壁を感じさせないほど好意的な方が多く、貴重な経験をさせていただけたと感ずます。この貴重な体験を出来ることならば、全メンバーに参加していただき経験していただきたかったと思ひますし、外国人の方にもより多くの方に参加していただくことが出来れば、より多くの発見があつたと感ずています。今後の事業にこの経験をつなげ、同じ小牧市民として交流が出来るよう邁進していきたくと思ひます。
LOMへの影響	なかなか外国のことを考えることがないなか、この例会を経て少しでも外国に興味を持ってもらう事が出来た。
事業の長期的な影響	なにかしら国際関係を築いていきたくと思ひた。
考察や推奨	チームによっては得意、不得意により役割がすぐに終わってしまう方も出てしまつた。

改善点	チーム内にチームをまとめる役割の方を作ってください。その際一般の方にサブリーダーを任せるなどを行うことで、チームがまとまりやすくなります。
JCI行動計画の推進	特になし。
JCI VISIONの推進	特になし。
JCI MISSIONの推進	特になし。
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	特になし。
添付資料	特になし

エントリー内容 No17	
事業名称	ブラジルと豊田がTSUNAGARU輪～新たななかかわりから、わくわくする豊田へ～
申請部門	グローバル部門
申請LOM	一般社団法人 豊田青年会議所
理事長名	山田 洋介
申請担当者	梅村 洋平
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 141名 参加率 96.00% 関係者数 123名 一般参加数 2682名
事業実施に至った背景	豊田市は産業都市として多くの外国人を受け入れ、外国人住民の多国籍、定住化の傾向もあり、70か国、15,000人を超える方が暮らしています。とりわけブラジル人は5,000人を超え、その多くが一つの地区に集住するといった全国的にも珍しいエリアが存在します。しかし近年、ブラジル人と日本人の交流は減少傾向にあり、異なる文化的背景をもった人々が相互理解を深め、外国人が持てる力をまちづくりに活かされていないのが現状です。この現状から一歩踏み出し、今後の人口減少社会を見据え、外国人が日本人と力を合わせ、地域の発展を担う市民として外国人が持てる力を活かしたまちづくりを創造する必要があります。
事業の目的	和のこころである多様性を受け入れる精神性により、日本人がブラジル人を受け入れ、ブラジル人のまちづくりへの参画や日本人との交流を通じて、ともに認め合い、人と人がつながり、多様な楽しみを尊重し分かち合うという新たな価値観が創出され、ブラジル人と日本人がまちに愛着と誇りをもっていただきます。
事業の概要	ブラジル人と日本人が力を合わせ両者に受け入れられる新たな「食」を創造し、新たな価値を創造するためブラジル料理のテーマエリアを豊田市で生産された食材で作るオリジナル料理「トヨケリア」として発表します。そしてブロック大会ではトヨケリアの試食、日本の遊び体験、ブラジルの文化の発信(飲食ブース出展、外国人モデルコンテスト)を通じた交流を創出し、ブラジル人が持てる力を活かしたまちづくりを創造し、新たなまちづくりの価値を提示します。
開催期間 タイムスケジュール	2017年09月09日(土)10:00～16:00
開催場所	豊田スタジアム コンコース、PRブース、野外ステージ豊田市千石町7丁目2番地
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	予算-431,950円 (内53%:企画演出費、23%:講師関係費、1%:会場設営費、23%:資料作成費 0%:広報費) 飲食ブース出展のチラシにオリジナル料理の「トヨケリア」の試食会の案内や外国人モデルコンテストの優勝者に各地でPRして頂き広報費を0%にできた。

SDGs	10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう
協力団体	<p>共催 なし</p> <p>協賛 Alternativa誌、セントラルジャパン</p> <p>後援 なし</p> <p>その他 ・株式会社Japan Food Expert 長田 絢・VITALLI BBQ HOUSE・ 鮎割烹 香味家・株式会社ディ・シー・ティ 会長 小野常夫・フォレスト工房 代表 森 伸夫</p>
事業対象者	・豊田市民(平成29年2月1日現在 内ブラジル人を除く)・豊田市民(内ブラジル人)・県内青年会議所(豊田青年会議所会員除く)
行動 (ACTION TAKEN)	<p>多くの定住外国人を抱える豊田市が国際化を進めるには地域の国際交流が必要と考え人類共通の食をメインテーマに考え事業を実施した。日本の手巻きずしをヒントにブラジルで考案されたブラジル料理のテマケリアを逆輸入し、豊田市在住のブラジル人が経営するブラジル料理店と地元の日本料理店が力を合わせ、豊田市の食材を使用し日本人にもブラジルにも受け入れられるようアレンジして「トヨケリア」を創作し発表した。記者発表会では、親子で「トヨケリア」の料理教室・試食会を行い、同テーブルでブラジル人の親子と日本人の親子が協働で「トヨケリア」を料理した。事業では「トヨケリア」の試食会のほかに、外国人モデルコンテストなど交流しやすいブラジルPRを開催し、ブラジル人のまちづくりへ参画し、日本人と外国人が交流する設えを行った。</p>
結果 (RESULT)	<p>1. ブラジル人PRブースにおいて多くの日本人の方がシュラスコ料理を購入いただいたことは、食において多様性を受け入れる精神性につながったと考えることもできる。また、モデルコンテストというブラジル人の方々が盛り上がるコンテンツを使用したまちづくりにつながる参画や、日本人もこのコンテンツを楽しむ様子がうかがえたので目的に則した内容であった。これらは実際に9月9日の一日だけで醸成できたわけではなく、企画・調整段階から、徐々に私たち日本人を受け入れてもらい、「トヨケリア」発表会、ブラジルPRブースの出店打ち合わせ、モデルコンテストの準備などを通じ、つながることができたといえる。 「トヨケリア」の協力者であるヴィタリ氏も今後もイベントに積極的に出店したいという感想も伺うことができ、このまちに愛着をもっていたことにつながる活動ができたと自負している。さらにモデルコンテストにおいても、東海エリア全域から参加者が集まり、このまちで来年も行ってほしいとの要望があり、日系ブラジル人が多いという豊田市の特徴をいかしたまちづくりの活動が、愛着をもっていたことにつながったと考える。</p> <p>2. 外国人モデルコンテストはブラジル人コミュニティないでの反響も大きく、第2回のコンテストを行いたいという意見もあった。また「トヨケリア」も協力していただいた香味家、ヴィタリBBQハウスでのメニューを検討するなど、動きがある為、引き続きサポートしていきたいと考えている。</p> <p>3. 「トヨケリア」試食会参加者アンケートを作成し、記入していただくことで参加者のアンケート結果としてのデータを集め確認することができた。</p> <p>4. 98%の参加者がテマケリアというブラジルで人気の料理をアレンジした「トヨケリア」を「とてもおいしかった」「まあおいしかった」と回答しており、テマケリアというブラジルで人気の料理をアレンジした「トヨケリア」が日本人にも受け入れられたことから事業目的に達成したと考える。94%の参加者が、ブラジル人のまちづくりへの参画や日本人との交流を「とても興味がある」「まあ興味がある」と回答していたので事業目的に達したと言える。この結果から、ブラジル人と日本人が一緒になってつくりあげた「トヨケリア」を通じて、ブラジル人と日本人がともに認め合い、人と人がつながることについて理解いただけたと考える。ブラジル人と日本人がまちに愛着と誇りをもっていたことについて99%の参加者が「とても魅力を感じる」「魅力を感じる」と回答していた。この結果から、「トヨケリア」試食会を通じたブラジル人のまちづくりへの参画や日本人との交流により、まちの魅力を感じていただけたと考える。</p>

地域社会への影響	<p>豊田市では多くの定住外国人が居ながらも定住は一定の地区に固まっており、それほど交流が盛んではなかったが、事業以降「トヨケリア」を協力していただいた料理店のメニューに加えて頂いたところ外国人が食事に来ることが増え、日本人と外国人の交流の場として生かされている。</p> <p>以上のことから70か国、15,000人を超える外国人が暮らす豊田市において、外国人の存在を地域の発展を担う市民として捉え、まちづくりに生かしていくことができたと思う。</p>
LOMへの影響	<p>今回の事業で食以外にも外国人モデルコンテストなどを開催し交流の切掛けとしたところ、男女、年齢幅広い外国人の方が今後の事業に協力していただけると回答していただいた。</p>
事業の長期的な影響	<p>以上の事から外国人と力を合わせることで新たな価値観が創出されることを伝えることができ、今度のLOMの運動発信においても外国人と力を合わせることで、今までにない効果が表れるとことを認識できた。</p>
考察や推奨	<p>9月度事業は外国人がまちづくりに参画するきっかけでしかありません。9月度事業の人と人のつながりを活かし外国人の持てる力をまちづくりに生かしていく必要があると考えます。外国人の人数だけでなく、多国籍化進み、価値観が多様化しています。ともに認め合い、多様な価値観を分かち合うためにも両者の身近な題材を取り上げ外国人と力を合わせ、まちづくりを進めていくことでより効果的な運動が展開できると考えます。</p>
改善点	<p>①交流について オリジナル手巻きずしの「トヨケリア」は食材をブラジル風の食材を使った物と日本風の物と2種類用意したが、多くの来場者が自分の国籍に合わせた「トヨケリア」購入していた、本来は外国人には日本風の「トヨケリア」を購入していただきお互いの国の味を交流切掛けにして頂くため他国の料理に興味を持っていただくようレシピの配布など興味を持っていただく活動が必要と考えます。</p> <p>② 保健所との調整について 食品を扱う場合は保健所との調整が必要である。特に米飯は基準が厳しい。今回は試食段階から事前に相談して許可を取る事が出来たが衛生上のアドバイスを頂き基準内でできることと、できないことを知ること、設営内容が変わるため、早い段階で保健所に確認することが肝要であります。</p>
JCI行動計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・定住外国人との交流が浅く相互理解がなされていなかった現状を、今回の事業で打開する切掛けとなったと考えます。 ・定住外国人と我々が同じ市内に住む市民として、「食」という共通認識を通してまちづくりのパートナーの拡大につながったと考えます。 ・定住外国人との交流は地域社会との交流だけにとどまらず、地球社会の交流の切欠となると考えます。 ・地産地消を原則とする「トヨケリア」が市内の飲食店に受け入れていただければ今後、の長期化プランとして豊田市のブランド化の切欠となると考えます。
JCI VISIONの推進	<p>「ブラジル人のまちづくりへの参画や日本人との交流を通じて、ともに認め合い、人と人がつながり、多様な楽しみを尊重し分かち合うという新たな価値観が創出する」ことについてアンケートにて94%の参加者が「とても興味がある」「まあ興味がある」と回答していたので事業目的に達したと言える。この結果から、ブラジル人と日本人が一緒になってつくりあげた「トヨケリア」を通じて、ブラジル人と日本人がともに認め合い、人と人がつながることについて理解いただけたと考える。</p> <p>また、ブラジル人PRブースではモデルコンテストというブラジル人の方々が盛り上がるコンテンツを使用したまちづくりにつながる参画や、日本人もこのコンテンツを楽しむ様子がうかがえたので目的に則した内容であった。そしてこれらは実際に9月9日の一日だけで醸成できたわけではなく、企画・調整段階から、徐々に私たち日本人を受け入れてもらい、「トヨケリア」発表会、ブラジルPRブースの出店打ち合わせ、モデルコンテストの準備などを通じ、つながることができたといえる。</p>

JCI MISSIONの推進	<p>「トヨケリア」試食会を通じたブラジル人のまちづくりへの参画や日本人との交流により、まちの魅力を感じていただけたと考えています。</p> <p>また、「トヨケリア」試食会参加者アンケートでは、95%の参加者が「ぜひ食べてみたい」「機会があれば食べてみたい」と回答しており、新たな価値観の創出につながったと考える。</p> <p>「トヨケリア」の協力者であり豊田市在住外国人のヴィタリ氏も今後もイベントに積極的に出店したいという感想も伺うことができ、このまちに愛着をもっていただくことにつながる活動ができたと自負している。さらにモデルコンテストにおいても、東海エリア全域から参加者が集まり、このまちで来年も行ってほしいとの要望があり、日系ブラジル人が多いという豊田市の特徴をいかしたまちづくりの活動が、愛着をもっていただくことにつながったと考える。</p> <p>事業全体としては成功であったが、今後の運動への昇華としては、ブラジル人の方の参画が不可欠である。外国人モデルコンテストはブラジル人コミュニティでないでの反響も大きく、第2回のコンテストを行いたいという意見もあった。また「トヨケリア」も協力していただいた香味家、ヴィタリBBQハウスでのメニューを検討するなど、動きがある為、引き続きサポートしていきたいと考えている。</p>
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	<p>市民にとって身近な食というテーマで、ブラジルのテマケリアを日本に逆輸入する形で「トヨケリア」という新たな豊田市の名物料理をブラジル人と日本人が手を取り合って作りました。</p> <p>今回、日本人とブラジル人との交流料理教室や、試食会の参加者は併せても数千人規模でまちを動かす運動とはいえませんが、マスメディアに対し効果的にPRすることで、運動としての波及効果があったと自負しております。年度が終わっても、「トヨケリア」の運動をNHKが番組で特集するなど、まちに対してインパクトのある事業であると思います。</p> <p>また、ブラジル人と一緒に参画することで、TSUNAGARUフェスタには多くのブラジル人の来場があり、JCメンバーや一般の方に加え、外国人の来場者の方がイベントを楽しむといった非常にユニークな光景になりました。</p>
添付資料	添付資料1

エントリー内容 No18	
事業名称	商品選択から始まる国際貢献！クールでホットなNAGOYAを創造する8-shiboru(エシボル)プロジェクト
申請部門	グローバル部門
申請LOM	公益社団法人 名古屋青年会議所
理事長名	山本 一統
申請担当者	木下 智靖
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 360名 参加率 50.80% 関係者数 0名 一般参加数 5823名
事業実施に至った背景	グローバル化が進み、日本国内でも海外から安価な服や食品などの商品が流通するようになりましたが、それらの商品は価格を維持するために、商品を生産・流通する段階で大幅なコストの削減が敢行されています。洋服についていえば、価格を商品購入の基準とすれば、安さという恩恵を受け一方で、商品価格を下げて貧困問題を抱える途上国の原材料生産者が不当な負担を負わされます。これは貧困に喘ぐ人々が低水準な教育環境や劣悪な労働環境から抜け出すことができないという事態につながります。そこで、成熟した都市に住まう市民は、途上国と先進国の間におけるフェアトレードを実現し、より良い循環を世界に生み出していく道義的な責任を自覚し、価格のみを消費の選択材料とするのではなく、その商品の生産過程も考慮し、倫理的な選択をしていく必要があります。
事業の目的	本事業の目的は以下の3つになります。 ①市民に対し、フェアトレードの理念・仕組みを発信すると共に、フェアトレードによる製品を購入することで国際貢献ができるということを周知すること ②フェアトレードの理念・仕組みを理解した市民が、実際にフェアトレードによる製品を購入することで国際貢献を始めること ③市民一人ひとりがフェアトレードによる製品を継続的に購入することを通して製品の原材料を生産している発展途上国を支え、その結果、発展途上国に産業が根づかせて、継続的な経済発展につなげること
事業の概要	本事業では、カンボジアからオーガニックコットンをフェアトレードで輸入をして、名古屋の伝統工芸である有松絞の技術を用いて、トートバック・ポーチといった製品を開発・販売しました。製品の販売にあたっては、名古屋のシンボル(市章)である「8」と有松絞の「シボリ」を掛け合わせて「8-shiboru(エシボル)」というロゴを開発して、ブランディング化を図ると共に、インフルエンサーとも協力してフェアトレードの意義を広く社会に発信しました。
開催期間 タイムスケジュール	2017年4月1日～2017年9月30日
開催場所	愛知大学名古屋キャンパスグローバルコンベンションホールほか
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業

事業総予算・収支	<p>本事業は会場設営費に若干の誤差がありましたが、概ね予算どおり執行されました。その内訳は以下のとおりになります。</p> <p>会場費 1,000円 会場設営費 186,440円 内訳: 講演会設営関係 177,800円 製品販売ブース設置関係 8,640円 講師関係費 1,501,200円 資料費 1,523,000円 内訳: 製品開発費 685,000円 製品PR関連 838,000円 広告宣伝費 772,000円 内訳: インフルエンサーに対する製品開発・PR協力</p>
SDGs	<p>1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に</p>
協力団体	<p>共催 なし</p> <p>協賛 なし</p> <p>後援 なし</p> <p>その他 株式会社チーム・オーリス(オーガニックコットンの輸入協力)、興和株式会社(インドにおける現地調査・オーガニックコットンの輸入協力)、IST(有松絞のデザイナー職人団体、生地デザイン・製品開発協力)、株式会社熊谷(製品販売協力)、NPO法人NSCJ(カンボジアにおける現地調査)、株式会社Wtokyo(商品プロモーション協力)、名古屋市環境局環境課企画部環境活動推進課(商品販売協力)</p>
事業対象者	市民
行動 (ACTION TAKEN)	<p>本事業における行動は以下のとおりになります。</p> <p>①名古屋市環境局との協議を通して、日本で2番目のフェアトレードタウンである名古屋市におけるフェアトレードへの取り組みについて調査を実施しました。</p> <p>②オーガニックコットンの生産地であるカンボジアを訪問し、オーガニックコットン栽培の問題点を調査しました。その結果、輸送コストが高いため、カンボジアから海外にオーガニックコットンの輸出ができないという問題点を発見しました。</p> <p>③名古屋市民を対象にして、フェアトレードによる製品の開発・販売を行っている山口絵理子氏を講師に迎え、フェアトレードによる製品を購入することにより、発展途上国の生産者支援につながるという講演会を開催しました。</p> <p>④生地輸入業者と協力をして、オーガニックコットンの生産者に対して利益がより還元されるルートを選択して、オーガニックコットンを輸入しました。</p> <p>⑤有松絞の職人と協力して、有松絞の技術とオーガニックコットンを掛け合わせることで斬新な生地をデザインし、トートバックとポーチを90個製作しました。</p> <p>⑥名古屋市のイベント・インターネットを通じて製品を販売し、フェアトレードの意義を発信しました。</p>

<p>結果 (RESULT)</p>	<p>このプロジェクトの社会的影響については、SNSにおける閲覧数・講演会でのアンケートにより測定しました。</p> <p>①SNSにおける閲覧数は以下のとおりであり、広く市民に対してフェアトレードによる製品を購入することで国際貢献が可能であることを周知すると共に、実際に製品の購入につなげることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品紹介のホームページ閲覧数 3,342名 ・製品紹介のFacebookいいね 301名 ・製品紹介のInstagramフォロー数 2,180名 ・製品の販売数 90個(完売) <p>②講演会参加者に対するアンケート結果によれば、広く市民に対してフェアトレードによる製品を購入することで国際貢献が可能であることを周知することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会参加者の84.9%が発展途上国の生産品の売買について問題があることを認識しました。 ・講演会参加者の92.1%がフェアトレードのよる製品を購入して国際貢献をしたいと回答しました。
<p>地域社会への影響</p>	<p>製品購入者のうち、本事業実施前において、消費の選択によって国際貢献ができるかと理解していたのはわずか2%でした。しかし、本事業によってすべての製品購入者が消費の選択によって国際貢献が可能であると認識いただきました。また、本事業に協力をいただきました名古屋の繊維商社と有松絞の若手職人に対しても、同様に認識を持っていただきました。これにより、名古屋において消費の選択によって国際貢献ができるという輪が広がっていくことが期待できます。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>会員の中にも国際貢献といえば仰々しいという意識を持った者が多くいましたが、本事業を通して、消費の選択という誰でも、すぐにでも可能な手法によって、国際貢献ができるということを理解いただくことができました。また、これまでつながりが存在しなかった名古屋とカンボジア・インド、繊維商社と有松絞の職人といった地域・団体に新たなつながりを構築するという経験を通して、名古屋青年会議所が軸となって他団体を結びつけて社会を変えていくという活動の意義を体感いただきました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>本事業実施前において、市民の多くは消費の選択によって国際貢献が可能であるといった認識は持っておらず、国際貢献といえば仰々しいものという意識を持っていました。しかし、本事業を通して、市民一人ひとりが消費の選択という、誰でも、すぐにでも取り組むことができる手法で発展途上国経済発展を支援することが可能であるということを認識いただきました。その結果、市民は消費の選択にあたって、積極的にフェアトレードによる製品を選択するようになり、製品の原材料を生産している発展途上国において産業が定着し持続可能な経済成長へとつながります。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>本事業を通して、消費の選択による国際貢献という手法を広く市民に発信することができましたが、フェアトレードによる製品を広めていくためには、行政とさらなる連携が必要になります。本事業で開発した製品については、名古屋市から名古屋城のお土産売り場で販売したいというお話をいただきました。ところが、名古屋市が設置するフェアトレード基準に合致したものでなければ販売ができないとのことであり、本事業においては製品販売までは至りませんでした。行政を巻き込んだ運動を展開していくにあたって、当初より、行政が持っている基準に適合した形で製品開発をすることで、フェアトレードによる製品をさらに周知することができると思います。</p>
<p>改善点</p>	<p>本事業にあたっては、オーガニックコットンの輸入ルートの開拓が限定的にしかできませんでした。その結果、オーガニックコットンの輸入量が制限されることとなり、生産できた製品の総数は90品にとどまりました。十分な量のオーガニックコットンを輸入することができたならば、製造・販売する製品数をもっと増加させることができ、その結果、より広く、フェアトレードによる製品の周知、フェアトレードの意義、そして、フェアトレードによる製品を選択することが発展途上国の発展を支える国際貢献となることを発信できたと考えます。</p>

JCI行動計画の推進	<p>本事業はフェアトレードによる製品の製造・販売を通して、広く市民に消費の選択が発展途上国の経済発展を支え、持続的な経済発展につながるということを発信しました。また、製品開発・販売にあたっては繊維商社・有松絞の職人集団・インフルエンサーをはじめ多くの団体・個人に協力をいただき、名古屋を挙げてフェアトレードの意義を発信しました。このように市民一人ひとりが、また、諸団体が協力して発展途上国の経済発展を支えるという点は、JCI行動計画の「COLLABOLATE」と合致します。</p>
JCI VISIONの推進	<p>本事業において、フェアトレードによる製品の開発・販売を通じて、名古屋とオーガニックコットンの生産地であるカンボジア・インドのつながりを構築できました。また、本事業を通じて名古屋青年会議所が中心となって、製品開発に協力をいただいた繊維商社・有松絞の若手職人・インフルエンサーを結びつけて、消費の選択による国際貢献の実施に向けて主導的な役割を果たしました。</p>
JCI MISSIONの推進	<p>本事業実施前においては国際貢献といえどこか仰々しいものであって自分とは無関係なものであるという意識が広まっていた中で、本事業を通して、日本国内にいたとしても、消費の選択という誰でも、すぐにでも可能な手法で国際貢献が可能であるということを理解いただく機会を提供しました。また、本事業において、他団体と協力してフェアトレードによる製品開発・販売をすることで、これまで馴染みが薄かった国際貢献を身をもって体感する機会を提供しました。</p>
JCI申請の意思確認	検討している
その他	<p>名古屋市が主催します環境デーなごやのメインステージにて8-shiboru(エシボル)商品の告知紹介をいただいたほか、名古屋市から名古屋城のお土産売り場で8-shiboru(エシボル)の販売をするお話をいただきました。結果としては、名古屋市のフェアトレードの基準に合わなければ製品の販売ができなかったこともあり、製品販売には至りませんでした。行政からも本事業に対して高い評価をいただくことができました。</p>
添付資料	添付資料1 添付資料2

エントリー内容 No19	
事業名称	一宮ブランドの醸成 138ハロウィン(天まで届け！地域への思い・巨大いちみんランタン～地域への想いをデコってつむいで共感しよう～・おりものパレード)
申請部門	コラボレーション部門
申請LOM	公益社団法人 一宮青年会議所
理事長名	森 大介
申請担当者	山岡 大介
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 83名 参加率 100.00% 関係者数 200名 一般参加数 2300名
事業実施に至った背景	一宮青年会議所は、近年地域資源を活用した地域のブランドを選定し発信してきましたが、これを一宮ブランドとして定着させるためにはまずはこの地域で盛り上がりを見せなければなりません。そのためには、ただ地域のブランドとして知ってもらっただけではなく、この地域に住む人びとのところに一宮ブランドとして根付かせなければならないと考え、短期的な成果をもとめるのではなく、長期的な成果のために地域の人びとのところに変化をもたらす活動をしていく必要があると考えました。
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のブランドとして発信してきた一宮めし「どてカラ丼」と、地域資源の繊維を活用した事業「138ハロウィン」を『一宮ブランド』として醸成する。 ・地域を想い活動している団体と協働し、一体感を生みだし大きな発信力を生み出す ・一宮市民に『一宮ブランド』にふれあって共感していただき、一宮市への誇りと愛着を育む。 ・メンバーに対して、青年会議所活動への誇りと愛着を育み、青年会議所運動を地域の人々へ伝播することで更なる地域活性化に繋げる。
事業の概要	<p>138ハロウィン～天まで届け！地域への思い～(7月公開事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一宮七夕まつりの開催に合わせ、地域資源である繊維をより知っていただくため、繊維を使用した小物を製作するクラフトブースを設営します。 ・来場者に、巨大いちみんランタン製作に使用する「一宮の良いところ」を書いた1380枚の布を作成していただき、巨大いちみんランタンを制作をご案内します。 <p>巨大いちみんランタン～地域への想いをデコってつむいで共感しよう～(10月公開例会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一宮市のゆるキャラとして認知されているいちみんを模した巨大ランタンを作成し、「一宮の良いところ」を書いていただいた1380枚以上の布で装飾します。 ・会場の野外ステージで地域を想い活動している人びとと協働し、PRや催事を行い、一宮青年会議所とどのように協働しているかをお話いただきます。 ・どてカラ丼提供店等に出店していただき、飲食ブースを設営します。 ・協賛企業様のPRブースを設けます。 <p>138ハロウィン～おりものパレード～(10月公開事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちのみや秋まつり実行委員会が主催する138ハロウィン～おりものパレード～を主管し、コスプレパレードを実施します。
開催期間 タイムスケジュール	2017年7月29日(土)・7月30日(日)・10月21日・10月29日

開催場所	オリナス一宮(一宮市本町2-4-34)・国営木曾三川公園138タワーパーク (一宮市光明寺字浦崎21-3)・本町商店街アーケード・尾張一宮駅周辺
事業区分	継続
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	収入】3,340,000円(協賛金1,400,000円、助成金300,000円、広告料収入600,000円) 【支出】3,340,000円(会場設営費2,052,271円、企画・演出費143,100円、広報費976,860円、資料作成費41,620円、雑費8,208円、予備費117,941円) 【工夫】おりものパレードに関しては、主催団体からの協賛金で全予算を賄い、また、企業協賛(広告料)を多く獲得しました。これによって外部資金を導入し、公益事業費率を高めました。
SDGs	11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう
協力団体	共催 いちのみや秋まつり実行委員会(10月公開事業のみ) 協賛 一宮市、一宮市教育委員会、一宮商工会議所、中日新聞社、中部経済新聞社、株式会社アイ・シー・シー、国営木曾三川公園 後援 キリンビール株式会社、アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社、株式会社TNTソリューション、武藤建設株式会社、艶金興業株式会社、株式会社美ノ久、株式会社モンブラン、有限会社一宮松岡質店、有限会社小啓修整織物、司法書士法人大志法務事務所、ハヤカワ工業株式会社、浅井装建、明治産業株式会社、川島達司税理士事務所、株式会社土川油店、昭和土建株式会社、株式会社林屋、有限会社オープンタイプ、総合金物稲葉、きむら社会保険労務士事務所、有限会社戸松設備工業、株式会社コーワ精工販売、株式会社ライフスクエア その他 チアフル・ママ、一宮親子劇場、志民連いちのみや、ヒッポファミリークラブ、愛知西農業協同組合青年部、マカラニフラダンススタジオ、一般社団法人体力メンテナンス協会、ONE UP、いちのみやモーニングエンジェルス
事業対象者	一宮市民、一宮青年会議所メンバー
行動 (ACTION TAKEN)	【事業の調査】景気の低迷などの原因で地場産業である繊維産業が衰退化し、名古屋市のベッドタウンとなり、人間関係の希薄化を感じる一宮市において、地域への誇りと愛着を育むために一宮青年会議所が生み出した、地域ブランド「どてカラ丼」(第4回郷土グルメグランプリでグランプリを獲得した一宮めし)と地域資源を活かした「138ハロウィン」ですが、認知度調査等の結果、未だ地域に住む人に根付いたとは言い難い状況にあると考えました。 【立案】上記地域ブランドを地域に根付かせるためには、地域のために活動する人、団体との協働が必要であると考え、これを主軸とした事業を立案しました。 【会議の流れ】協働する他団体と、相互に好影響を与える協働の仕方等について会議を重ねました。 【実施活動】他団体にも参加いただき、138ハロウィンとして各種事業を開催しました。

<p>結果 (RESULT)</p>	<p>1. 7月公開事業では、目標参加者数300名に対して、588名の方にご参加いただくことができました。10月公開例会では、巨大いちみんランタンを、一宮の良いところを書いた布1380枚以上(目標数以上)で彩ることができました。10月公開事業では、昨年の参加者数1300名には達しませんでした。多くの方々に一宮ブランドを認知していただき、SNS等で発信いただくことができました。二つの事業、一つの例会を通じて、一宮市民が一宮ブランドにふれあい共感し、一宮市への誇りと愛着が育むことができたと思います。</p> <p>2. 台風に見舞われ、想定していた参加者数を下回ってしまいました。</p> <p>3. アンケートによって確認しました。</p> <p>4. 事業開始前には27.9%であった138ハロウインの認知度が事業実施後には42.6%となり、138ハロウインを地域に根付かせ、地域に対する誇りと愛着を育むことに成功したと考えます。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<p>本事業に参加した多くの市民が、地域ブランド「どてカラ井」、「138ハロウイン」を通じて、地域を思って活動する各種団体の活動を知り、地域に対する誇りと愛着をもって未来を思い、少しでも一宮を良くしようとする契機にさせていただくことができました。</p> <p>また、本事業で協働したことによって、市民団体等と青年会議所との継続的な協働のきっかけを作ることができました。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>今まで交流のなかった他団体と交流することができ、これら団体とは2018年の現在でも良好な関係が続いており、本事業によって、LOMの活動の幅、選択肢が広がったと考えます。また、メンバーには、他団体との協働の必要性を認識させることができました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>今まで交流のなかった他団体と交流することができ、これら団体とは2018年の現在でも良好な関係が続いており、本事業によって、LOMの活動の幅、選択肢が広がったと考えます。本事業を継続事業として行う等、この関係を継続することで、一宮市のために活動する団体を連携させ、一宮市の発展に寄与する運動を展開できると考えます。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>一宮市には市外、県外、国外にPRできる地域資源「繊維」があります。一宮青年会議所では、「尾州」ブランドで発信している繊維製品を利用した事業を、138ハロウインという名称で継続してまいりましたが、他団体との協働によって知り得た、他の自慢できるものと一緒に地域ぐるみで発信していく事が、更なる一宮市の発展につながると考えます。そのためには、今後も138ハロウイン事業を継続して、まずは市内外に我々の活動を発信することが必要だと考えます。</p>
<p>改善点</p>	<p>特になし。</p>
<p>JCI行動計画の推進</p>	<p>COLLABORATE(協力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内を中心に活動している団体と協働し、子供から大人まで、自分の住み暮らす一宮市の更なる発展のために何ができるのかを今一度考えていただく機会を提供することができました。 <p>CONNECT(つながり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団体と、一宮市の発展のために、自分たちの団体として何ができるのか、また、協働することでどんな相乗効果を生み出すことができるのかを話し合い、本事業へ参加、協力していただくことができました。
<p>JCI VISIONの推進</p>	<p>他団体と連携し、より大きな影響力、発信力をもって一宮市を市外、県外にPRするべく、各団体のネットワークを活用して事業を展開しました。</p>

JCI MISSIONの 推進	本事業を開催することで、自分たちの住み暮らす一宮市の地域資源、地域ブランド、一宮市を想って活動する団体の活動に市民の目を向けさせ、市民に一宮市を今一度見つめなおす機会を提供し、意識変革を促すことができました。
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	一宮青年会議所が2016年より発信している『一宮ブランド』は、少しずつではありますが、市民に認知されてまいりました。 一宮めし「どてカラ井」は、市内1店舗から始め、現在は20店舗を超える市内飲食店で提供していただいております。また、138ハロウィンに関しても、パレードをはじめ、市内外から参加していただく事業に成長してきました。2017年は他団体との協働をテーマに活動しましたが、これからも一宮青年会議所が他団体を主導し、一宮市の発展のために事業を展開してまいります。
添付資料	添付資料1 添付資料2 添付資料3

エントリー内容 No20	
事業名称	やさしさ！ぬくもり！つながり！オレンジフェスティバルin太田川
申請部門	コラボレーション部門
申請LOM	一般社団法人 東海青年会議所
理事長名	河合 孝輔
申請担当者	伊藤 諭
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 36名 参加率 66.70% 関係者数 48名 一般参加数 635名
事業実施に至った背景	<p>①日本は世界のどの国も経験のない超高齢化社会に突入し、それに伴い認知症を患う方が2025年までに700万人を超え、認知症予備軍の方を含めると1300万人に達する言われています。老老介護、介護離職、介護疲れによる心中、虐待など数え切れない問題を抱えています。また介護事業所で働く専門職の人手不足も叫ばれており専門職の方に任せきりでよいという状況ではなく、地域で暮らす市民の一人ひとりが認知症を「ジブンゴト」として想い考えられるような意識を醸成し、やさしい気持ちでつながりを持ってこの状況に取り組む必要があると考えました。</p> <p>②東海市には認知症の方やその家族をサポートをするNPOがあり、認知症の方を介護している家族に対するサポートは先進的な地域ではありません。しかし認知症に対する市民の認識はかなり低く、特に若い世代には殆ど知られていないのが現状です。また国が進める認知症サポーター養成講座の制度も福祉介護業界では認識されていますが一般にはまだまだ知られておらず、特に若い世代の認知度が低く、今後多くの認知症の方をサポートしていく子育て世代の30、40代の世代が特に受講率が低い状況です。（認知症サポーターキャラバンのデータより）</p>
事業の目的	<p>多くの方に興味を持ってもらえる楽しいフェスティバルを開催し、楽しみながら関わることでつながりをつくり、認知症サポーターになってもらい、認知症のことを理解し、東海市を認知症になっても安心して暮らせる、やさしいまちにすることを目的とします。</p> <p>（一般来場者） 会場に来てフェスティバルに参加してもらうことで、認知症の知識を身につけ、認知症への意識の変革のきっかけになることを目的とします。</p> <p>（協力者） 認知症サポーター養成講座を受けサポーターになってもらい、共に事業をおこなうことで認知症サポーターの仲間として共通の認識をもち、つながりを持って活動できるようになることを目的とします。</p> <p>（JCメンバー） 多くの団体とともに事業を構築することで認知症サポーターの仲間として共通の認識を持ち、まちのために考えつながりをもって率先して行動出来るようになることを目的とします。</p>
事業の概要	<p>東海市を認知症にやさしいまちにする為、また今後、親の世代を支えていく若い世代に伝える為に誰でも楽しく参加することのできるフェスティバルを通じて、認知症についての学びと関わったに人たちのつながりをつくる事業を構築しました。企画、運営する青年会議所メンバー、運営協力者のケーブルテレビ局、地元アイドルグループ、介護事業所、大学、企業、小学校、出演者である吹奏楽団、太鼓チーム、ダンスチーム、ハンドベルなどフェスティバルに関わる方すべてに認知症サポーターになっていただきました。サポーターの養成講座は東海市高齢者支援課、東海市社会福祉協議会、認知症の人と家族の会、NPO法人ハートtoハートなどに担当いただくことで、市民とのつながり構築しました。また、地元介護事業所に通所、在宅の認知症のある高齢者の皆様にもフェスティバルの飾り付けを作成をしていただき、地域活動への参加をしていただきました。そして、例会当日に遊びに来た来場者にもしっかりと認知症の事や認知症サポーター事をもちかえっていただける事業を行いました。</p>

開催期間 タイムスケジュール	2017年7月1日～2017年9月18日
開催場所	愛知県東海市
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	予算額400,000円 決算額388,000円
SDGs	3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう
協力団体	共催 なし 協賛 なし 後援 東海市、東海市、東海市社会福祉協議会、日本福祉大学、星城大学 その他 協力 公益社団法人認知症のひとと家族の会、特定非営利活動法人HEART TO HEART、株式会社シルバーウッド、特定非営利活動法人エンド・ゴール(現 知多娘地域活性プロジェクト)介護情報誌クレセント、季の野の台所、知多メディアネットワーク株式会社、東海市内介護事業所、東海商業高校、新日鉄住金東海製鉄所、大同特殊鋼、愛知製鋼、
事業対象者	一般来場者、協力者及び協力団体、東海青年会議所メンバー
行動 (ACTION TAKEN)	2017年4月23日に4月例会「ひろげようやさしいオレンジの輪〜ぬくもりあふれるまちへ〜」を開催。講師にNPO団体、社会福祉協議会、認知症当事者をむかえ、東海市内の小学生と保護者、大学生、東海JCメンバーが共に認知症について学び、認知症サポーターになる事業を開催し、事業でできたつながりをもって専門職だけでなく非専門職主催型の認知症啓発イベントを構築していきました。 1. 認知症について知ってもらうために誰でも楽しく関われるイベント特に若い世代に参加してもらえるフェスティバルを行うことを決め、出演者を募りました。 2. 地元ケーブルテレビ・ラジオ局、地元アイドルグループ、東海市内小学生、健康体操チーム、吹奏楽団、キッズダンスチーム、太鼓チーム、フラダンスチーム、民謡、ハンドベル、ゆるキャラなど、アピールできるものを持っている団体に打診をかけ出演が決まったら、フェスティバルの趣旨を伝え認知症サポーター養成講座をうけて出演してもらいました。 3. 認知症当事者の皆様にも活躍してもらうために会場の飾り付けの作成をしてもらいました。 4. 認知症サポーターになった小学生に認知症当事者のおじいちゃん、おばあちゃんの作った飾り付けに認知症の方への思いやサポーターとしてやっていきたいことを書いてもらい飾り付けとして使用。 5. 若い世代に参加を促すためと認知症をより「じぶんごと」として捉えてもらう為の企画としてサテライト会場でVR認知症体験会を開催しました。 6. 認知症の知識を得るためのクイズラリーを開催し、クリアすると認知症の基礎知識をえられる楽しくもかなり真面目な取り組みをしました。

<p>結果 (RESULT)</p>	<p>1. 認知症をテーマにすると真面目に硬くなりがちな所をフェスティバルという誰でも楽しく参加できる事業にしたことで結果として多くの人たちの参加を実現でき、来場してくれた多くの皆さんには認知症の事、認知症サポーターの制度の事を知っていただくことができました。特に来てほしかった若い世代、子育て世代に参加して認知症について学んでもらえました。参加協力団体、企業に関しては認知症への理解を醸成でき、共にフェスティバルを行うことでそれぞれの活動を通じて伝える側の役割を果たしてもらえました。事業を通じて延べ580名の認知症サポーターを養成することができました。</p> <p>2. 事業の影響でよさこい踊りのチーム、東海市ふるさと大使の太鼓の演者、東海市立中央図書館職員の皆様に認知症サポーター養成講座を開催するなど事業後にも認知症サポーターが増えています。また、事業に参加した近隣の市、町の医療介護事業の方から共に活動をしたいと地元の青年会議所を紹介してほしいとの打診をもらいました。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じて東海市の主要企業である鉄鋼3社、での認知症サポーター養成講座を開催することができ企業と社会福祉協議会や NPO 団体とのつながりを創出することができました。 ・地元ケーブルテレビ・ラジオ局が発信力のある協力者が放送や活動を通じて発信したことで多く市民が事業に参加しなくても市民に情報として認知症のことや認知症サポーターのことをしてもらうことができました。 ・事業を通じてつながりができた東海市ふるさと大使、地元アイドルグループ、介護事業所が協力し介護施設での活動することになり、活動を通じてファンや市民に伝える立場で活動を続けてもらえるようになりました。 ・事業を通じて各方面に打診をかけた結果、今後、高齢者の方、認知症の方も利用率が高くなる公共施設の一つである図書館で認知症にやさしい図書館づくりの取り組みが始まりました。 ・事業の評判を聞いた東海市内の別団体の開催した円卓会議や名古屋市内で開催された介護・医療職のシンポジウムに招待されオレンジフェスティバルの事を講演する機会にめぐまれ、東海市内の他団体のみなさまや愛知県内の医療・介護専門職のみなさまにも事業を広く知ってもらえ評価をいただきました。 ・2018年9月30日(日)第二回やさしさ！ぬくもり！つながり！オレンジフェスティバルin太田川が2017年の事業を通じてつながりができた協力者を中心に開催決定。あらたな参加者も決定して認知症サポーターも増加し、あらたなつながりも創出しています。
<p>LOMへの影響</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー自身が認知症サポーターになることで、認知症への偏見を解き認知症が特別なことではなく今後誰でも関わることだということ学び、地域で活躍する青年経済人として認知症にやさしいまちづくりに関わる意識を醸成できました。 2. 多くの他団体と共に事業を行うことで今まで関わりの無かった団体とのつながりができ、関わりがあった団体とはより強いつながりができました。 3. 事業の協力者だった介護事業所の若手職員、大学生が入会し共に東海市のまちづくりを行うメンバーとなりました。 4. 公園管理の仕事をしているメンバーが公園で帰宅困難になっていた認知症のある方を事業の学びをもって適切に保護することができました。
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>この事業の参加者の皆さんは認知症に対する学びをえたことで、家族や親族、近所の人、学校、会社、習い事やサークルなどの仲間や友人が認知症になった時にやさしいきもちをもち、つながりをもって共に暮らしていける意識を醸成できました。また、協力者や参加者同士のつながりができたことで認知症や認知症サポーターの啓発活動をともに行う素地ができたことでこの取組が今後も継続していきます。</p> <p>また、今後認知症介護に関わる30代40代や、認知症の認識が低い小学生から大学生がしっかり学び認識し発信してもらう事で関わりのなかった世代にも波紋を広げることが出来た。</p>

<p>考察や推奨</p>	<p>認知症関わる当事者や介護関係の方だけでなく、次世代を担う青少年や大学生。今後認知症直接関わる30代から40代の世代に認知症の事を認識してもらうことが出来たと実感しています。しかし、今後もっと多くの方につながりを持って認識してもらうことが、一層やさしいまちへ変革すると考え、事業を終えた後、一般市民の協力者を中心にオレンジフェスティバル実行委員会がたちあがりしました。 そして、青年会議所の手を離れましたが、市民の方々が中心として第2回オレンジフェスティバルを開催することが決定し2018年9月の開催に向けて着実に構築しています。 更に行政や社会福祉協議会と連携し協力して事業を構築したことで、認知症や福祉に対する意識が一層高まり2019年に市民を中心とした認知症を含め健康福祉に関わる事業が展開される予定で進んでいます。</p>
<p>改善点</p>	<p>特になし。</p>
<p>JCI行動計画の推進</p>	<p>認知症にやさしいまちを創るために、同じ目的に向かって、高齢者支援課、社会福祉協議会、NPO、ケーブルテレビ・ラジオ局、地域アイドル、介護事業所、学生、地元主要企業、市民と多くの方と協力して事業を実施したことで地域社会にインパクトを与えることができました。また、認知症というネガティブに扱われてしまいがちな題材を真面目に且つ楽しく伝える手法を用いたことで多くの市民、特に若い世代に受け入れられて、認知症にやさしいまちに一步近づけました。これらの活動はJCI行動計画にある「影響力」「意欲」「協力」「つながり」と合致しています。</p>
<p>JCI VISIONの推進</p>	<p>行政、社会福祉協議会、NPOが真摯に取り組み認知症の当事者世代への取り組みは進んでいたものの、若年層への取り組みは弱いところもありました。そこで青年会議所が主導的な立場となって「VR」「マスコミ」「アイドル」「ゆるキャラ」などのテーマである認知症とは少し離れたジャンルの若者を巻き込み互いに連携することで相乗効果が生まれ、社会への影響力を強化したことは、地域社会に変革をもたらすために率先して行動し続けていくというJCIビジョンに合致しています。</p>
<p>JCI MISSIONの推進</p>	<p>青年会議所メンバーだけでなく学生や各種団体や市民の方々と共に事業を創造し構築することで、地域のつながりを強め、多くの方にまちづくりの意識を高めることが出来た。まちづくりの意識を高め変革できた結果が、市民中心とした第二回のオレンジフェスティバル開催に繋がったことからJCIミッションに合致しています。</p>
<p>JCI申請の意思確認</p>	<p>検討していない</p>
<p>その他</p>	<p>日本福祉大学ブログ http://blog.n-fukushi.ac.jp/coc/archives/1297 地元アイドル 知多娘。事業後のブログ http://chita-musume.lblog.jp/archives/1067600939.html http://chita-musume.lblog.jp/archives/1067606074.html http://chita-musume.lblog.jp/archives/1067619779.html http://chita-musume.lblog.jp/archives/1067672014.html</p>
<p>添付資料</p>	<p>添付資料1 添付資料2 添付資料3</p>

エントリー内容 No21	
事業名称	TSUNAGARUフェスタ2017 ～豊田の魅力が大集合 わくわくスタジアム～
申請部門	コラボレーション部門
申請LOM	一般社団法人 豊田青年会議所
理事長名	山田 洋介
申請担当者	梅村 洋平
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 141名 参加率 96.00% 関係者数 123名 一般参加数 17885名
事業実施に至った背景	第1回愛知ブロック会員大会より半世紀の時を経て「第50回愛知ブロック大会豊田大会」を一般社団法人豊田青年会議所が主管いたします。「第50回愛知ブロック大会豊田大会」を絶好の機会と捉え、同時に9月度例会を実施することで青年会議所と市民をつなぎ、まちの発展、会員の成長に繋げなければなりません。
事業の目的	①市民に、地域で活躍する市民や団体、地域の魅力を知っていただき、郷土愛を育むことを目的とする。 ②市民や行政、関係諸団体と協働することで、新たな地域のネットワークを構築することを目的とする。
事業の概要	行政・市民・関係諸団体の方とともに、市民に向けて『豊田市・西三河の魅力発信事業』、『豊田JCの運動発信事業』、『市民共同事業』を展開した。 <<豊田市・西三河エリアの魅力発信事業>> 「豊田市・西三河の魅力」を発信するために下記の事業を開催した。 ★西三河飲食ブース 25店舗 豊田市・西三河エリアの食の魅力を発信した。 ★発見！！「クルマのまちの魅力」 ◎脳脳寿ー トークセッション ◎パーソナルモビリティ「COMS」、「Winglet」試乗体験会 ◎間伐材により製作した初代カラーラ・水素自動車ミライ、マンホールの展示 ◎ミニ四駆大会 & ロボット触れ合い体験 ★「桃の種飛ばし大会」 豊田市の名産品でもある「猿投の桃」を食べ、種を飛ばして競争した。 <<豊田JCの運動発信事業>> 「(一社)豊田青年会議所の運動」を発信するために下記の事業を開催した。 ★「大人のタグラグビー大会」 in 豊田 ～世界が集うRWC2019にむけて～ ★防災意識からTSUNAGARUまちの次世代育成 ◎蝶野正洋の応急処置 & AED 体験ショー 自助、共助の必要性を見て、聞いて、体験することで身につけていただいた。 ★生き生きウォークラリー ～みんなが活躍できる未来の社会へ～ ウォークラリー形式で超高齢化社会に向け、高齢者の活躍が当たり前の社会の実現＝「OVER65運動」(豊田JCオリジナル、来年度以降市役所に移行)を発信した。 ★ブラジルと豊田がTSUNAGARU輪～新たななかかわりから、わくわくする豊田へ～ 「日本と世界」がつながる事業 ブラジル人と日本人が力を合わせ創造した新たな手巻きずし「トヨケリア」の試食、日本の遊び体験、ブラジルの文化の発信(飲食ブース出展、外国人モデルコンテスト)を通じた交流を創出し、ブラジル人の方々がもてる力を発揮できる事業を開催した。 <<市民共同事業>> 市民や関係諸団体の方々と協働で下記の事業を開催した。 ★ストリート&パークマーケット 30店舗 手作りの野菜、お菓子、食品、雑貨等の出店を行った。 ★「TSUNAGARUマルシェ」25店舗 豊田市在住の方によるマルシェを開催した。豊田市在住と限定することで出展者同士のネットワーク構築を行った。

開催期間 タイムスケジュール	2017年9月9日9:00～17:00
開催場所	豊田スタジアム
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	<p>予算—6,800,000円 (内30%:企画演出費、30%:講師関係費、25%:会場設営費、15%:広報費)</p> <p>愛知ブロック協議会主催の第50回愛知ブロック大会と同日開催することで、会場設営費などが削減することが出来た。 また、事業の趣旨を地元企業に賛同いただき協賛金を募ることで、運営費の一部を充填することが出来た。 LOMとして今までに経験したこのない事業規模であったが、日本JC事業賠償責任保険を活用することで、万が一の保障を無償で提供することが出来た。</p>
SDGs	<p>3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p>
協力団体	<p>共催 なし</p> <p>協賛 トヨタ自動車株式会社、トヨタ車体株式会社、トヨタ紡織株式会社、豊田信用金庫、株式会社善都、株式会社石野サーキット、株式会社トヨタ中央自動車学校、洋行建設株式会社、有限会社カズイ看板、有限会社トヨタ農産、有限会社光明堂、株式会社トップワン、株式会社ニッポー、株式会社池田事務器、株式会社山田屋、株式会社丸加醸造場、加茂精工株式会社、有限会社大一工業、名古屋トヨペット株式会社、ネットトヨタ東名古屋株式会社、ネットトヨタ中部、松山法律事務所、豊田JCシニアクラブ</p> <p>後援 豊田市 豊田市教育委員会</p> <p>その他 (株)豊田スタジアム、豊田市役所交通政策課、豊田市役所未来都市推進課、トヨタ自動車(株)ITS企画部、トヨタ自動車(株)総務部、トヨタ自動車(株)トヨタ技術会、公益財団法人あすて、(株)タミヤ、ヒューマンアカデミー(株)、豊田市消防本部 予防課、豊田市消防本部 総務課、豊田市 防災対策課、豊田市消防団、豊田市役所 ラグビーワールドカップ2019推進課、豊田市役所 スポーツ課 スポーツ推進委員、中京大学、豊田まちづくり株式会社、STREET & PARK PROJECT、TSUNAGARUマルシェ出店者(25店舗)、(一社)愛知中央青年会議所、(一社)安城青年会議所、(一社)岡崎青年会議所、(一社)刈谷青年会議所、高浜青年会議所、(一社)知立青年会議所、(一社)豊明青年会議所、(一社)西尾青年会議所、(一社)碧南青年会議所、(公社)日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会</p>
事業対象者	豊田市に住み暮らす42万人

<p>行動 (ACTION TAKEN)</p>	<p>2016年10月～12月…行政との協議(地域の現状把握と方向性の決定 4回協議) 2017年1月～2月…各関係団体との協議(それぞれの役割や支援の要請 11回協議) 2017年2月～4月…本事業の企画の立案(企画会議8回) 2017年2月～4月…LOM内連絡調整会議 (事業担当7委員会、役割・会場配置の調整 5回協議) 2017年3月～5月…愛知ブロック協議会との連絡調整会議 (愛知ブロックと豊田JCとの役割、事業配分の調整 5回協議) 2017年6月～当日…SNSを使った広報開始 2017年7月～8月…協賛企業の募集(協賛企業数97社) 2017年7月～8月…市民、行政、関係諸団体との協議(それぞれの役割の確認 12回) 2017年7月24日…副主管説明会の開催 (副主管LOMに前日、当日の流れや役割の説明) 2017年8月31日…LOM内説明会の開催(前日、当日の流れや役割の説明) 2017年9月9日…TSUNAGARUフェスタ2017の開催、参加者へのアンケート実施 2017年9月13日…アンケート集計、分析の実施、事業報告書の作成 2017年9月14日…協力者への事業報告、ヒアリングを実施 2017年9月15日…協力者への事業報告、ヒアリングを実施 2017年9月16日…協力者への事業報告、ヒアリングを実施 2017年9月17日…協力者への事業報告、ヒアリングを実施 2017年9月25日…行政への事業報告の実施 2017年11月16日…次年度への引き継ぎ会議の実施</p>
<p>結果 (RESULT)</p>	<p>①市民に、地域で活躍する市民や団体、地域の魅力を知っていただき、郷土愛を育むことが出来た。 【理由①】 本事業に出店した方々にアンケート、ヒアリング調査を行った。(80店舗) ◎飲食ブース出店者から、「飲食を通して来場者の方に豊田市・西三河の魅力発信することはできましたか。」という問いについて、参加した出店者すべてに「魅力を発信することができた」という回答をいただけた。コメント欄でも「足助の楽しさを伝えられることができた。」「来場された多くの方々に、産・官・学が一体となって取り組んで作り上げた「猪肉キーマカレー」の実食販売など食を通して喜んでいただけた」などのコメントをいただき、魅力を十分に発信する機会が得られていた。また、その発信に対して「来場者から、普段どこで販売しているかという声を多くいただいた」と記載があった。出店者の発信が来場者に伝わっているケースと考えられ、地域の魅力が市民に伝わったと考えられる。</p> <p>②市民や行政、関係諸団体と協働することで、新たな地域のネットワークを構築することを出来た。 【理由②】 本事業の協力団体からヒアリング調査を行った。 ◎「政官民それぞれに協力者として巻き込めていた」「市民の方から同じようなイベントがあれば、参加したい」など沢山の要望があった。市民や関係諸団体ともに事業を構築でき、今後も青年会議所と各種団体が地域活性化のために協力するつながりを作ることができた。 ◎「事業を通して、市民・行政・関係諸団体とつながることができましたか」という問いに対して、すべての方が出来たと回答した。 また「今後一緒に事業をやりたいですか」という問いに対してすべての方がやりたいと回答した。 【理由③】 本事業をきっかけに、協力者同士で新たなイベント、事業を行うようになった。 2017年11月17日 はたらく人がイキイキ輝く事業所表彰 2017年11月25日 大型商業施設 豊田KITARAオープニングイベント 第2回TSUNAGARUマルシェ開催 (関係団体にて実行委員会発足) 2018年2月25日 WE LOVE とよたフェスタ 第3回TSUNAGARUマルシェ開催 2018年10月 第2回TSUNAGARUフェスタ(開催予定)</p>

地域社会への影響	<p>①協力団体へのヒアリング結果より、我々の行った事業によって、市民の意識により良い変化をもたらし、市民が自ら積極的にまちづくりを実践すること出来るようになった。また、協力団体で実行委員会を立ち上げるなど、新たな地域におけるネットワーク構築が出来た。</p> <p>ヒアリングの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本事業をきっかけに、関係団体にて実行委員会を立ち上げ、地域の盛り上げ役として活動をスタートすることが出来た。 <p>2017年11月25日 大型商業施設 豊田KITARAオープニングイベント 第2回TSUNAGARUマルシェ開催 (関係団体にて実行委員会発足)</p> <p>2018年2月25日 WE LOVE とよたフェスタ 第3回TSUNAGARUマルシェ開催</p>
LOMへの影響	<p>【地域社会への認知度向上】</p> <p>①社会貢献度の高い団体として地域社会への認知度が向上した。 本事業は、メディアを通じて地域社会に発信された。</p> <p>②我々は、本事業により行政から高い評価を受けることで、行政とより密接な関係を構築できた。 豊田市役所職員から以下のコメントをいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行動力、提案力に感銘を覚えた。今後もこの豊田市の旗振り役として活躍をお願いします。 <p>【LOMメンバーの資質向上】</p> <p>本事業に携わることで、メンバーの意識が変化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民と共に活動し、市民の意識が変わり、市民自ら行動する姿を見ることで、地域社会貢献の意識が向上した。 ●全メンバーで事業を作り上げることで、組織力とその可能性を再確認することが出来た。
事業の長期的な影響	<p>本事業を通じ、まちづくりを自主的に行える市民の育成ができ、新たなまちづくりを行うネットワークが構築されたことで、以下のことが期待できる。</p> <p>【地域における影響】</p> <p>①まちづくりを自主的に行えるようになった市民が、さらに他の市民を巻き込みまちづくりを行っていくこと。</p> <p>②①により、多種多様なまちづくりが行えるようになること。</p> <p>③②により多種多様なまちづくりが行われることで、より良い地域の創造が行えること。</p> <p>【LOMにおける影響】</p> <p>①我々が行う事業が地域に広がることで青年会議所の認知度を高め、今後行われていく我々の活動、運動の理念や目的を市民に伝えやすくなる。</p> <p>②地域社会への認知度・貢献度があがることで、メンバーの増加、資質の向上を目指す。</p> <p>③メンバーの増加、資質が向上することで、よりよい社会開発運動が行える。</p> <p>★市民、メンバーのお互い成長により、さらには地域開発が活発になり、より良い地域の創造を促進すること。</p>
考察や推奨	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に、地域で活躍する市民や団体、地域の魅力を知っていただき、郷土愛を育むことが出来た。 <p>達成できた要因として</p> <p>①早い段階から協力者と事業構築の協議をすることで、JC目線だけでなく、より市民目線の事業構築をおこなえたこと。</p> <p>②普段は個々で活動している市民や団体を一同に集め、発信することで、より高い発信力を作ることが出来たこと。が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民や行政、関係諸団体と協働することで、新たな地域のネットワークを構築することを出来た。 <p>達成できた要因として</p> <p>①(一社)豊田青年会議所のこれまでに培ってきた運営のノウハウなどを提供したこと。</p> <p>②これまで個々に活動していた市民がお互いを知り、協力し、長所を活かせる機会を提供したこと。が挙げられる。</p> <p>協力者へのヒアリングに「関係団体にて実行委員会を立ち上げ、地域の盛り上げ役として活動をスタートすることが出来た」とあるように、地域には個々に活動している市民や団体はあるが、その市民や団体同士が協力することでより大きな効果を上げることが出来ると市民が気づき、行動に移すことが出来た。</p>

改善点	<p>動員予定を1万人と掲げ、事業を開催したが、実際の来場者は1万7千人を超える来場となった。そのため、来場人数に対して設営人数が不足してしまっ。今回は大きな事故もなく終えることが出来たが、事業の協力者として中学校などにボランティアを依頼することで、スムーズな運営を行うことが出来る。また、来場者が大幅に増えたことにより、ゴミの量も多くなった。ゴミ箱の数の増加と最終処分の増加を予め検討する必要がある。</p>
JCI行動計画の推進	<p>IMPACT 「LOMが一年を通して、最低でも1つのJCIアクティブシチズンフレームワーク事業を行うよう、JCIインパクト指標1.0を目標値として設定する。」 →地域について調査、分析、パートナーシップ、計画、結果の評価を適切に行うことでJCIアクティブシチズンフレームワーク事業を実行した。</p> <p>INVEST 「引き続き、多額寄付者、企業、そしてブランドギビングを中心に、基金拡大戦略を実施する。」 →事業の趣旨を地元企業に賛同いただき協賛金を募ることで、基金拡大戦略を実行した。</p> <p>COLLABORATE JCIは、同じ目標に向かうパートナーを結集し、相互インパクトを拡大する。 →事業計画の早い段階で市民や協力団体と協議することで、同じ目標を共有したパートナーを獲得することが出来た。</p>
JCI VISIONの推進	<p>①市民や関係諸団体と協働で事業をおこなうことで、市民がまちづくりへ参加し、positive changeする機会を提供した。 ②それぞれ個々で活動する市民や団体を繋ぎ合わせ、協働で事業をおこなうことで、新たな地域ネットワークを構築することが出来た。</p>
JCI MISSIONの推進	<p>①市民にまちづくりの重要性を理解させ、市民がpositive changeをする機会を作った。 ②本事業を通じて地域にまちづくりを積極的に行えるActive Citizenを増やした。</p>
JCI申請の意思確認	検討していない
その他	<p>青年会議所だけで事業を行うことは、組織内に共通の目的やルールがあり、一つの組織であるので統率がとれ、事業構築は容易である。しかし、その反面、事業内容は市民目線ではなく、市民にとって受け取りにくいものになりがちです。また、事業スケールも予算、人員などが限られるため小さくなりがちです。</p> <p>一方、多くの市民や協力団体の方々とパートナーシップを結び、事業構築の段階からお互いで協議をして事業計画をしていくことは、パートナーが多くなればなる程、合意形成を図ることが難しくなり、事業構築は難易である。しかし、事業内容は市民目線になり、アイデアも多岐にわたり、事業スケールは人員の増加により大きくなります。</p> <p>今回実施したTSUNAGARUフェスタ2017は、まさに後者によるものでした。</p> <p>第50回愛知ブロック大会を主管するに当たり、「自分達だけで行うのは簡単である。地域の方々と手を取り合って行う大会にすることが主管するLOMの責任であり、我々がこの地域で活動している本当の意味だ」と考えました。</p> <p>本事業を行うに当たり、LOM内では7つの委員会がそれぞれ事業を他団体と協働で行いました。そのすべての協力者から今後も一緒に活動したいと評価いただいたことは、我々の理念や目的に賛同いただいた証だと思います。</p> <p>青年会議所だけでは出来ない事も、多くの理解者を増やすことで、地域に大きなインパクトを与えることが出来る。本事業を通してその重要性を理解したメンバー、そして、本事業で新たに作られた地域ネットワークは、今後も地域により良い影響を与えて続けてくれると確信します。</p> <p>※運動は2%以上の人に伝えることによって、より効果的に広がっていく。この法則に則り、今回の事業では市民42万人の2%以上である1万人を</p>
添付資料	添付資料1 添付資料2 添付資料3

エントリー内容 No22	
事業名称	障害者と健常者が共につくる！スポーツマンシップNAGOYAフェスティバル
申請部門	コラボレーション部門
申請LOM	公益社団法人 名古屋青年会議所
理事長名	山本 一統
申請担当者	木下 智靖
事業詳細情報	
本事業の参加者	会員数 220名 参加率 43.90% 関係者数 23名 一般参加数 258名
事業実施に至った背景	現在、日本の障害者数は780万人を超えています。近年、制度や環境のバリアフリー化が図られ、物質的な障壁は取り除かれつつありますが、多くの障害者と健常者は依然としてお互いを理解し合える状態には至っていません。接点の少なさに起因する誤解や偏見が両者の間に距離感を生んでいます。お互いを知らないことが不必要な不安を生み、それらが相互理解の妨げとなり、ひいては自分とは「異なる」他者を受け入れることができない社会に発展する危険性をもはらんでいます。そこで、他者との違いを個性として受け入れることができる社会を築くために、障害者と健常者が勇気ある一歩を踏み出し、お互いを受け入れ理解し合う必要があります。
事業の目的	本事業の目的は以下の3つになります。 ①障害者が健常者と共にスポーツに取り組むことによって、障害があったとしても健常者と何ら変わりなく取り組むことができることが多く存在すると実感いただくこと ②障害者が健常者と共に一つのスポーツに取り組むことで、健常者と積極的に関わっていくべきであるという意識を持っていただくこと ③健常者が障害者と共に一つのスポーツに取り組むことで、障害者が置かれている立場、障害に対する理解を深めていただくこと
事業の概要	本事業は、障害者と健常者を区別することなく、両者が協力して、その設営から競技まで共に参加をいただくというものです。その概要は以下のとおりです。 ①障害者と健常者が共に参加することができるスポーツイベントを開催するために、障害者を含む運営スタッフが、障害に対する基本知識を学習する学習会を開催しました。 ②障害者と健常者の双方が障害に関する認識を深めると共に、障害者であっても可能なことが多くあることを認識してもらうために、元オリンピック選手である千葉すず氏と車椅子バスケットボールパラリンピック日本代表の京谷和幸氏の対談を開催しました。 ③健常者が、視覚障害者の感覚や環境を体感するために、ブラインドウォーク体験を実施しました。 ④障害者と健常者が、協力することで一つの競技に取り組むことができることを実感するために、卓球・PK・ランニングを実施しました。 ⑤健常者が、障害者スポーツに興味を持っていただくために、車椅子フリースロー・ボッチャの体験を実施しました。なお、ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目になります。

開催期間 タイムスケジュール	2017年11月4日～2017年11月19日
開催場所	愛知県スポーツ会館・名城公園
事業区分	新規
公益・共益区分	公益事業
事業総予算・収支	<p>本事業は、消耗品費に若干の差異が生じましたが、概ね予算どおりに執行されました。 その内訳は以下のとおりになります。</p> <p>①会場費 121,600円 ②会場設営費 872,160円 内訳:多目的トイレ設置費用 点字ブロック設置費用 白杖レンタル費 車椅子レンタル費 競技備品レンタル費 会場音響関係費</p> <p>③講師関係費 内訳:千葉すず氏 京谷和幸氏</p> <p>④資料費 154,850円 内訳:チラシ・ポスター制作費 チラシ・ポスター印刷費</p> <p>⑤消耗品費 38,800円 ⑥保険料 95,600円</p>
SDGs	10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に
協力団体	<p>共催 なし</p> <p>協賛 なし</p> <p>後援 名古屋市教育委員会・中日新聞社</p> <p>その他 日本福祉大学・愛知県看護連盟・一般社団法人愛知県聴覚障害者協会・ワールドバスケットボールクラブ</p>
事業対象者	市民

<p>行動 (ACTION TAKEN)</p>	<p>04月21日 名古屋市障害者スポーツセンター訪問 06月15日 愛知県スポーツ会館の現地調査(障害者競技の調査) 06月21日 名古屋市教育委員会を訪問(後援依頼) 06月27日 千葉すず氏事前打ち合わせ(第1回) 07月06日 日本福祉大学を訪問(協力依頼) 07月21日 京谷和幸氏事前打ち合わせ(第1回) 07月23日 公益社団法人日本青年会議所日の丸チャリティーラン見学 08月04日 障がい者水泳い〜すスイミングクラブを訪問 08月08日 一般社団法人愛知県聴覚障害者協会あいち聴覚障害者センターを訪問 08月27日 愛知県スポーツ会館をはじめ会場の現地調査 08月29日 ワールドバスケットボールクラブ打ち合わせ(協力依頼) 09月07日 千葉すず氏事前打ち合わせ(2回目) 09年07日 京谷和幸氏事前打ち合わせ(2回目) 10月24日 愛知県看護連盟打ち合わせ(協力依頼) 10月29日 西名古屋ベースボールクラブPR活動 10月30日 名古屋市立一柳中学校特別支援学級にて参加者募集PR 11月04日 事前学習会 11月06日 名古屋市立西養護学校PR活動 11月08日 名古屋市立南養護学校PR活動 11月09日 日本福祉大学打ち合わせ 11月09日 スポーツ競技実演・最終検証 ※いずれも2017年</p>
<p>結果 (RESULT)</p>	<p>本事業による市民意識変革などに対する効果は、アンケートにて計測しました。アンケートの結果は以下のとおりです。 ①事前学習会において、参加者の78.4%が障害者と健常者との距離が縮まったと回答しています。また、参加者の91.9%が障害者に対する理解が深まったと回答しています。 ②千葉すず氏と京谷和幸氏の対談において、参加者の98%が障害者に対する認識が深まり、障害者であっても可能なことが多くあることを理解したと回答しています。 ③ブラインドウォークにおいて、参加者の96.7%が視覚障害者の感覚を実感できたと回答しています。 ④卓球・PK・ランニングにおいて、参加者の96.7%が障害者と健常者の交流につながったと回答しています。99.3%の参加者が、健常者と障害者の間で仲間意識が芽生えたと回答しています。 ⑤車椅子フリースロー・ポッチャの体験において、96.8%の参加者が障害者スポーツに対する理解が深まったと回答しています。</p>
<p>地域社会への影響</p>	<p>本事業実施以前には、障害者と健常者を区別しないスポーツイベントは、運営上の問題、安全面、また、障害者自身の消極的な姿勢といった様々な事情のために、実施されることがほとんどありませんでした。しかし、本事業が成功したことにより、障害者と健常者が共に参加するイベントの実施が可能であることが周知され、本事業に続いて、同様のイベントの開催につながります。こうしたイベントを通して、障害者と健常者が実際に触れ合うことで相互理解が深まり、両者がそれぞれの違いを個性として受け入れ、真に共存する社会が実現します。</p>
<p>LOMへの影響</p>	<p>本事業実施以前には、障害者と健常者を区別しないスポーツイベントは、運営上の問題、安全面、また、障害者自身の消極的な姿勢といった様々な事情のために、挑戦しようとする団体がほとんどありませんでした。しかし、名古屋青年会議所がこうしたイベントに果敢に挑戦して成功を収めたことで、協力団体である障害者団体・大学などからは、青年会議所は、これまでの常識に捉われないことなく常に新しいことに挑戦する団体であるとの高い評価を得ることができました。また、障害者団体からは継続して本事業を実施して欲しいとの意見もいただきました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>本事業が地域社会に与えた長期的な影響は以下のとおりになります。 ①本事業を契機として、障害者と健常者を区別することなく、両者が共に取り組むイベントの実施が可能であることが周知され、本事業に続いて、他団体においても同様の事業が継続的に実施されるようになります。 ②障害者は、自らの可能性を認識して、健常者に対して持っていた「負い目」が無くなり、健常者とも積極的に関わるようになります。 ③障害者と健常者が積極的に関わっていくことにより、両者の相互理解が進み、障害を一つの「個性」として受け入れ、障害者と健常者が真に共存する社会が実現します。</p>

<p>考察や推奨</p>	<p>障害者と健常者の間に存在する「溝」については、多くの場合、誤解や偏見に起因するものです。こうした誤解・偏見を解消するには、まずもって、障害者と健常者が直に接する機会を創設することが重要です。本事業はスポーツを通して障害者と健常者が接する機会を提供しましたが、スポーツに限らず、継続的に障害者と健常者が接する機会を提供していくことが青年会議所として成すべきことであると考えます。なお、名古屋青年会議所では2018年度においても障害者に対する理解を深めるための事業を継続して実施しております。</p>
<p>改善点</p>	<p>本事業は設営から競技に至るまで、そのすべての過程において、障害者と健常者を区別することなく、両者に参加をいただくという新しい試みに挑戦しました。こうした手法は、これまで他団体が不可能ではないかと考えてきたことであり、これが実現可能であるということを広く周知できれば、今後、同様のイベントの実施につながります。本事業の周知という点については、事業実施前にテレビ局などのメディアに対して案内が不十分であったため、結果として、本事業の成功を周知することが十分にはできませんでした。事業終了後の運動拡大という点を踏まえて、メディアを積極的に活用すべきでした。</p>
<p>JCI行動計画の推進</p>	<p>本事業は、障害者の視点に立てば、健常者と共にスポーツに参加することによって、自らの可能性を認識すると共に、障害が存在することを健常者に対する「負い目」と捉えることなく、積極的に健常者と関わっていく契機となります。また、健常者の視点に立てば、障害者の立場・状況に対する理解を深めて、障害を一つの個性として受け入れる契機となります。その結果、障害者と健常者がスポーツという共通の行動を通じて、相手の立場・状況に対する理解を深めて、障害者と健常者がお互いに認め合うことのできる社会の実現につながります。これはJCI行動計画の「Connect」と合致します。</p>
<p>JCI VISIONの推進</p>	<p>本事業はこれまで他団体が不可能であると考えてきた障害者と健常者を区別しないということの一つの柱として構築されています。名古屋青年会議所が軸となって障害者団体・スポーツ団体を結びつけることで、これまで不可能と思われていたことであっても果敢に挑戦すれば可能となるという共通意識を醸成しました。そして、名古屋青年会議所が障害者と健常者を区別しないスポーツイベントの成功につなげ、障害者団体の活動の支援に対して主導的な役割を果たしました。</p>
<p>JCI MISSIONの推進</p>	<p>本事業は、障害者と健常者が真に共存する社会の実現に向けて、ブラインドウォーク・車椅子フリースローなど障害者競技を通して障害者の現状を体感する機会を提供しました。また、卓球・ランニングなど障害者と共に一つの競技に取り組むことで障害があっても可能なことが多いということを理解する機会にもなりました。こうした「競技」に加えて、事前学習会、千葉すず氏と京谷和幸氏の対談などの座学も交えることで、障害に対するより深い理解を得る機会を提供しました。</p>

JCI申請の意思確認	検討している
その他	<p>本事業は、障害者と健常者が共に一つの事業を作り上げるという観点から、単に障害者を事業の参加者と捉えるのではなく、本事業の設営から競技まで、そのすべての過程に積極的に関わっていただきました。こうした試みは、他団体が実施した事業においてあまり例のないものですが、障害者が事業の設営段階から関わることによってこそ、障害者が持つ健常者に対する「負い目」、心の壁を取り払うことができると考えます。健常者についても、障害者の可能性に目を向ける機会となり、障害者と健常者の相互理解が促進された画期的な事業であると考えます。</p>
添付資料	添付資料1